

令和 2 年度

年 次 報 告 書

分冊：教員の年間活動報告

神 戸 常 盤 大 学

神戸常盤大学短期大学部

目 次

	頁数
1. 保健科学部・医療検査学科・・・・・・・・・・・・・・・・	1～24
2. 保健科学部・診療放射線学科・・・・・・・・・・・・	25～34
3. 保健科学部・看護学科・・・・・・・・・・・・・・・・	35～69
4. 教育学部・こども教育学科・・・・・・・・・・・・	70～95
5. 短期大学部・口腔保健学科・・・・・・・・・・・・	96～113
6. 短期大学部・看護学科通信制課程・・・・・・・・	114～122

1. 保健科学部 医療検査学科 個人年間活動報告書

教員名	坂本秀生	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	医療検査学科長、ゲノムサイエンスセンター長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	M科:臨床検査入門、医学概論、検査機器総論、分子細胞生物学、医療英語、細胞培養演習、BLSキャリアパスII、文献講読、遺伝子工学、遺伝子工学演習、検体採取安全管理演習、臨床検査学演習、先進医学検査学、国際保健医療活動I、国際保健医療活動II、卒業研究 N科:国際保健医療活動I、国際保健医療活動II O科:遺伝子と再生医療				
担当科目コマ数	6.97				
本年度の課題					
円滑な学科運営 新たな臨床検査技師学校養成所指定規則に向けた準備					
本年度の目標					
学科内の情報連絡をスムーズにする 2022 年入学生に向けた新カリキュラムの内容を固める					
主な活動内容					
1) 教育活動 新型コロナウイルス感染症対策で休講・遠隔授業を行う際、学生の不安を取り除けるよう、こまめに情報提供を行い、登校できないのでメールでサポートを行った、成績不審者に対して電話やメールを通じた指導を行った。大学院進学希望の学生に対して早めに学習指導を行い、東北大学、大阪大学、信州大学の大学院へ進学できた。					
2) 研究活動 研究テーマ：POCTの効果的利用 研究の現状：POCTに関する認識が高まり、POCコーディネーター、POCT測定それぞれの認定制度が立ち上がり、研究経験が実用化に役立っている。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 3 回） 論文（ 4 編）					
3) 社会的活動等 日本臨床検査学教育協議会 副理事長、アメリカ臨床病理学会 国際資格 日本諮問委員会 委員長、国際臨床化学連合 C-IDL 委員、日本臨床化学会 理事 国際交流委員長、日本臨床検査医学会 評議員、日本医療検査科学会 評議員 POC 技術委員会 幹事、日本臨床衛生検査技師会 国際 WG 委員、日本臨床検査同学院 理事 POCT 部長、厚生労働省 臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会 構成員					
今後の課題					
新たな臨床検査技師学校養成所指定規則に対応できる学科運営 多様化する学生へ学科としてのサポート					

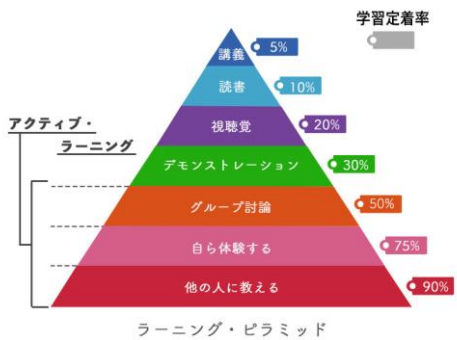
個人年間活動報告書

教員名	栗岡 誠司	所属学科等	医療検査学科	職名	教授								
委嘱委員・職務	入試委員、合否判定委員、個人情報保護委員会委員												
クラス担任	1年Aクラス（1年の責任者）	クラブ顧問	陸上、サイエンスボランティア、弓道										
担当科目名	検査入門実習、基礎化学（M科）、基礎化学（R科）、現代社会と化学、基礎有機化学、有機化学、分析化学実習、大学道場ミニゼミB、無機化学、物理化学、無機物理化学基礎演習、放射線化学概論、卒研												
担当科目コマ数	9.03												
本年度の課題													
・クラウド型教育支援システム manaba を使った学修支援活動の実践 ・e-learneng システム（ラーノ）を使った学修支援活動の研究 ・入試委員として、臨床検査技師についての高校への啓発													
本年度の目標													
・基礎化学から、有機化学および無機化学へ、更に国試対策まで連動させ、能動的学修のできる化学好きの学生を増やす。 ・学生の社会貢献を図り、コミュニケーション能力を育成するために、サイエンスショーの活動への学生の参加を促す。													
主な活動内容													
1)教育活動；初年次教育の充実 2)研究活動 研究テーマ：1）クラウドやスマホアプリを使用しての学修の可能性の検証 2）サイエンス啓発活動における効果の検証 研究の現状：卒論生対象に検証中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（0回） 論文（0編） 著書（0冊） 3)社会的活動等 ① 文部科学省SSH運営評価委員 ② 兵庫県教育委員会の特別非常勤講師及びサイエンストライやる事業講師 ③ 明石市教育委員会教育委員 ④ 小野市・宍粟市の全小学5年生へのサイエンス啓発活動 ⑤ シニアカレッジにおいてのサイエンス啓発活動													
今後の課題													
・クラウド型教員支援システムmanabaの活用方法の充実 ・e-learnengシステム（ラーノ）を使った学修支援活動の研究 ・卒業研究、化学の授業（基礎化学・有機化学・無機化学・分析化学実習など）を通じての能動的学修が行える学生の育成													

個人年間活動報告書

教員名	安藤啓司	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	健康保健センター長、就職委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	臨床病態学Ⅰ（病因・病態）、臨床病態学Ⅱ（病態解析）、臨床病態学Ⅲ（発展）、生理機能検査学ⅠB、生理機能検査学ⅡA、生理機能検査学実習Ⅱ、画像検査学、検体採取安全管理演習、対人援助技術演習、総合医学検査特論				
担当科目コマ数	10.53				
本年度の課題					
遠隔授業への対応					
本年度の目標					
主な活動内容					
1) 教育活動 生理機能検査学および病態学の知識をリフレッシュするため関連図書を入手し遠隔授業に備えた。 2) 研究活動 研究テーマ：歩行・走行時の重心動揺 研究の現状：3軸加速度計を腰部に装着し、様々な荷重の下にランニングマシン上で歩行させて重心動揺を測定した 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 論文（ 1 編） 著書（ 2 冊） 3) 社会的活動等 日本生理学会 評議員					
今後の課題					
講義内容をさらに充実させる。 ゼミ生とともに時系列データの解析方法に理解を深める。					

個人年間活動報告書

教員名	畠 榮	所属学科等	医療検査学科	職名	教授																
委嘱委員・職務	国家試験対策委員長、カリキュラム委員長、危機管理委員長																				
クラス担任		クラブ顧問																			
担当科目名	検査入門実習、医学概論、臨床病理検査学、臨床病理検査学実習Ⅰ、臨床病検査学実習Ⅱ、細胞検査学演習、臨床検査学演習、検査リスクマネジメント論、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習、組織学実習、臨床検査サブリメント演習Ⅰ、Ⅱ、病理学（臨床放射線学科）																				
担当科目コマ数	14. 17																				
本年度の課題																					
・ 第 67 回臨床検査技師国家試験の合格率（95.8）の維持 ・ M4 年の成績不振学生の指導体制の確立ならびに国家試験合格率の向上 e ラーニングシステム「Learn0（ラーノ）」の活用 ・ 細胞診養成課程の高い合格率の維持 ・ 病理学を含む病理検査学の教育体制の充実 ・ 組織学・臨床病理検査学ⅠⅡでの Sub Notebook の有意義な活用法の検討																					
本年度の目標																					
・ 臨床検査技師国家試験合格率のさらなる向上 ・ 細胞診養成課程の合格率 100%を一番の目標とする。 ・ ラーニングピラミッドを応用した、アクティブラーニングを用いた授業 学習者である生徒が受動的になってしまう授業を行うのではなく、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法を取り入れた授業の確立																					
 ラーニング・ピラミッド <table><thead><tr><th>学習方法</th><th>学習定着率</th></tr></thead><tbody><tr><td>講義</td><td>5%</td></tr><tr><td>読書</td><td>10%</td></tr><tr><td>視聴覚</td><td>20%</td></tr><tr><td>デモンストレーション</td><td>30%</td></tr><tr><td>グループ討論</td><td>50%</td></tr><tr><td>自ら体験する</td><td>75%</td></tr><tr><td>他の人に教える</td><td>90%</td></tr></tbody></table>						学習方法	学習定着率	講義	5%	読書	10%	視聴覚	20%	デモンストレーション	30%	グループ討論	50%	自ら体験する	75%	他の人に教える	90%
学習方法	学習定着率																				
講義	5%																				
読書	10%																				
視聴覚	20%																				
デモンストレーション	30%																				
グループ討論	50%																				
自ら体験する	75%																				
他の人に教える	90%																				
主な活動内容																					
1) 教育活動																					
・ 細胞診養成課程の合格率100%の維持を目的とした教育改革： iPadを用いた細胞診教育システム 細胞所見を利内するためには、どのような病理組織所見であるかを理解することが重要と考えられる。そのために病理組織所見との対比ができる症例の充実																					

・病理学を含む病理検査学の教育体制の充実： クラウドを用いた、病理検査学および細胞診断学講義用ファイルの一括管理および臨床病理検査学で使用する講義に即したSub Notebookの編集 ・臨床現場で経験した病理肉眼像および病理組織画像を用いた教育： 臨床現場で蓄積した実際の症例を用いた教育 ・ラーニングピラミッドを応用した、アクティブラーニングを用いた授業 ・eラーニングシステム「Learn0（ラーノ）」の活用
2) 研究活動 研究テーマ： 体腔液による悪性中皮腫の診断基準の作成 研究の現状： 石綿・中皮腫研究機構・日本肺癌学会での『中皮腫取扱い規約 第1版』の出版を行うことにより、日本での中皮腫細胞診断に大きく寄与できる。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（1回） 論文（3編） 著書（2冊 共著）
3) 社会的活動等 ・独立行政法人環境再生保全機構 石綿健康被害救済部 中皮腫細胞診実習研修会 講師および実務委員 ・中皮腫細胞研究会 副代表幹事 ・日本臨床細胞学会 功労会員 ・LBC（Liquid based cytology）研修会 in 滋賀 実行委員長 ・日本臨床細胞学会岡山細胞検査士会 幹事
今後の課題 学内教育：4年の成績不振学生の指導体制の確立ならびに国家試験合格率の向上 細胞診養成課程の合格率100%を一番の目標とする。 「2022版 臨床検査技師国家試験対策マスタードリル」の完成と、 それを用いた教育 社会的活動：独立行政法人環境再生保全機構中皮腫細胞診実習研修会で講師として 細胞検査士の診断レベルの向上 ・細胞検査士の卒後教育および細胞検査士育成に用いる著書の執筆

個人年間活動報告書

教員名	林 伸英	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員長、遺伝子組換え実験安全委員長				
クラス担任	医療検査学科 2 学年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床化学検査学Ⅰ、臨床化学検査学Ⅱ、臨床化学検査学実習、検査管				

	理総論、臨床検査学演習、臨床検査入門、医学概論、医療安全、総合医学検査特論、総合医学検査演習、大学道場miniゼミ、卒業研究
担当科目コマ数	11.30
本年度の課題	
1. 学生にわかりやすい授業・実習を行う。 2. 研究活動の充実：論文作成（神戸大学病院との共同研究）	
本年度の目標	
1. 学生の興味を引くわかりやすい授業・実習を行う。 2. 臨地実習が円滑にできるよう力を注ぐ。 3. 論文の受理（神戸大学病院との共同研究）を目指す。	
主な活動内容	
1) 教育活動 本年度は新型コロナに対応し、ほとんどの講義を遠隔授業とした。臨床化学検査学、検査管理総論は、国試対策を意識した教科書にそった授業が必要と考えられる。その反面、平坦な授業とならないように動画を使ったプレゼン等を挟み込んで学生が興味を持てるような講義になるように努めた。manabaを使って、ラインマーカーを引いた教科書のPDFを授業単位でアップし、学生に自分の教科書にラインマーカーを引かせた後に、YouTube（OBS作成）にアップした遠隔授業（限定公開）を視聴し、最後に小テストを実施して復習が行えるような手順で進めた。	
2) 研究活動 研究テーマ：抗DFS-70抗体の研究（神戸大学医学部附属病院との共同研究）を行い、来年度に継続していく。 研究の現状：これまでの研究の成果を筆頭研究者として、原著“Prevalence of anti-dense fine speckled 70 antibodies in healthy individuals and patients with antinuclear antibody-associated autoimmune rheumatic diseases in Japan”がMedicine®（3月号（ http://dx.doi.org/10.1097/MD.00000000000024556 ）および神戸常盤大学紀要（14号報告）「免疫吸収処理を用いて抗DFS70抗体を除外する間接蛍光抗体法による抗核抗体検査の評価」（ http://doi.org/10.20608/00001143 ）に掲載された。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（なし） 論文（2編） 著書（1編）	
3) 社会的活動等 学会活動：日本臨床検査医学会 評議員、生物試料分析科学会 評議員 査読：医学と薬学 5遍	
今後の課題	
1. 遠隔授業を含めて、授業内容の工夫をさらに検討する。 2. 臨地実習施設の拡大を目指す。 3. 研究活動を継続する。：論文作成（神戸大学病院との共同研究）	

個人年間活動報告書

教員名	柄倉匡文	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学生部長、学生相談室委員、健康保健センター委員、卒研委員長				
クラス担任	4年Aクラス担任および学年責任者	クラブ顧問	なし		
担当科目名	医療検査学科：公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学実習、医動物学・同実習、免疫検査学、免疫検査学実習、分子感染制御学演習、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習 看護学科：公衆衛生学 全学：大学道場 miniゼミA				
担当科目コマ数	11. 17				
本年度の課題					
・授業内容の充実 ・研究時間の確保					
本年度の目標					
・最新の事例を盛り込んだ分かりやすい授業になるように心がける。 ・研究を発展させる。					
主な活動内容					
1) 教育活動 これまで同様、教科書だけに頼らない授業を心がけた。公衆衛生学、医動物学の講義では最新の事例を紹介し、授業に興味を持ってもらえるように工夫した。遠隔授業では重要なところは何度も強調し、聞き逃しがないように注意した。授業の終わりには出席を兼ねた小テストを行い、学習到達度を確認した。					
2) 研究活動 研究テーマ：ネコ免疫不全ウイルス感染細胞を標的とした抗体依存性細胞傷害作用 研究の現状：抗体を介したNK細胞による細胞傷害作用に着目し、ウイルス感染細胞を駆逐できる実験条件について検討中である。興味深い結果が得られており、現在他大学との連携を模索している。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）					
3) 社会的活動等 ・京都文化医療専門学校 非常勤講師					
今後の課題					
・苦手科目に対する学習意欲を喚起する方策の検討 ・遠隔授業の充実 ・研究の発展					

個人年間活動報告書

教員名	松元英理子	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員会(副委員長)、認証評価準備委員会(副委員長) ときわ教育推進機構、FAST等企画運営ユニット				
クラス担任	M2 Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎生物、臨床検査入門、生命科学、遺伝子・染色体検査学、遺伝子・染色体検査学実習、臨床検査学発展演習、医療英語、卒業研究、総合医学検査学特論、総合医学検査学演習、大学道場miniゼミB、現代社会と生命科学、基礎生物学(R)				
担当科目コマ数	10.17				
本年度の課題					
①学生の興味を一層高めるように各々の授業内容を改善していく。②生命科学分野の研究を次のステップに進める。③「臨床検査発展演習」で得たデータを解析し研究成果としてまとめる。					
本年度の目標					
①学生の興味を一層高めるような授業の工夫を行う。 ①前年度の「臨床検査学発展演習」で得たデータを解析し紀要に投稿する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 コロナ禍での遠隔授業導入により、実習科目・卒業研究を除く大部分の授業を遠隔で実施した。コンテンツは、年度当初は「PDF（静止画）+音声」から開始し、徐々に「パワーポイントのスライドショーをYouTubeに公開する」方法に移行した。また、manabaのプロジェクト機能を用いたグループワークも実施した。スライドショーではなるべく対面授業を感じさせるような工夫を行い、授業評価でも好意的なコメントが多かった。					
2) 研究活動 研究テーマ：①細胞周期関連因子cyclin D1の機能と細胞内局在に関する研究 ②「臨床検査学発展演習」を通じた学生のときわコンピテンシー獲得に関する研究 研究の現状：①卒業研究のゼミ生と共に分化誘導後のcyclin D1、p21の細胞内局在の経時変化を解析した。②「臨床検査学発展演習」を素材とした学生のコンピテンシー獲得に関する論文（2編）を神戸常盤大学紀要に投稿した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 2 編） 著書（ 1 冊）					
3) 社会的活動等					
今後の課題					
①次年度の遠隔授業では、ただ対面授業を再現するだけでなく、遠隔授業のメリットを生かした新しい試みも必要である。②解析機器の故障等により従来の研究テーマの継続が困難なため、新たな研究テーマを構築する必要がある。					

個人年間活動報告書

教員名	堀江 修	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員会・委員、M科就職委員会・委員長、M科卒研委員・委員				
クラス担任	4年生Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	血液検査学実習Ⅰ・Ⅱ、血液学、血液検査学、生理学Ⅰ・Ⅱ、労働衛生学Ⅱ、予防医学概論、環境生理学、看護解剖生理学Ⅰ				
担当科目コマ数	13.93				
本年度の課題					
就任1年目であったこと、自分の経験上やや馴染みのない教科を担当したこと、コロナ禍のもと遠隔授業を始めたことなどから、滞りなく、学生にとってわかりやすく、自分の理解も深まるような基本的な講義をこころがけることを課題にした。					
本年度の目標					
人に対する興味をもち、思いやりをもって接することができる人、ならびに知的好奇心が旺盛で、物事を科学的な視点で捉えようとする人を育成することを目標にした。					
主な活動内容					
1) 教育活動 遠隔講義、遠隔実習を実施した。人に対する興味をもち、思いやりをもって接することができる人を育てるには、受講者が集まる対面講義の方が、教育効果が高いと判断し前期からなるべく対面講義を行なった。知的好奇心が旺盛で、物事を科学的な視点で捉えようとする人を育成するために、実習科目はそのほとんどを対面で実施した。 2) 研究活動 研究テーマ：「サイトカインストームに関する研究」、「新興感染症制御の国際標準化と看護学への応用を目指したサーモグラフィ」 研究の現状：コロナ禍において重症化の鍵を握るとも言われるサイトカインストームについては、killer系細胞の暴走はもちろんそれを制御するregulatory系細胞も細胞傷害を起こす可能性があった。 新興感染症の国際標準は樹立できていない。インフルエンザの型によって、顔面サーモグラフィの特徴が異なる可能性があることがわかった。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0回） 論文（ 2編） 著書（ 0冊） 3) 社会的活動等 なし					
今後の課題					
滞りなく、学生にとってわかりやすく、自分の理解も深まるような基本的な講義をすべての教科において行いたい。					

個人年間活動報告書

教員名	新谷 路子	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員会委員、SD委員会委員、ときわ教育推進機構委員				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	大学道場 miniゼミ、基礎検査学、基礎検査学実習、解剖組織学、病理学、人体のふしぎ、チーム医療論、医療コミュニケーション、文献講読、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究				
担当科目コマ数	10.40				
本年度の課題					
・ 学生参加型の授業スタイルを更に工夫する。より分かりやすい講義資料を作製する。 ・ 国家試験対策において学生の理解度の底上げを行う。 ・ 研究成果の発表を行う。					
本年度の目標					
・ 実習では、学生の発表の場を設定し、意欲的に取り組めるように促す。 ・ 国試対策では、暗記用プリントを配布し、基本的な知識の定着を図る。 ・ 研究成果を学会発表し学術雑誌に投稿する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・ 遠隔授業では、学生が理解しやすいように講義用PPTに必要な図や説明を加え unnecessaryなものは削除した。分かりにくい写真には、手書きのイラストを付け加えた。 ・ 国試対策では、基本的事項をまとめた暗記用プリントを配布し、語呂合わせなども活用しながら、確実に問題を解くための知識の定着を強化した。 2) 研究活動 研究テーマ：閉経モデルマウスにおける細胞増殖・細胞死に関する検討 研究の現状：卵巣摘出マウスの胃・腸管上皮細胞を対象に、種々の細胞死経路について免疫組織化学的に解析している。今後、さらに関連する諸因子の発現を調べ相互作用を解明して行く。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 編） 著書（ 1 冊）					
3) 社会的活動等 ・ 神戸大学大学院保健学研究科客員教授 ・ 兵庫県立相生高校における臨床検査技師の仕事紹介					
今後の課題					
教育：遠隔授業のスタイルを工夫し、学生により伝わりやすくする。 国家試験対策用の配布プリントをレベルアップさせる。 研究：学会発表を行い、研究成果を論文発表する。					

個人年間活動報告書

教員名	布引 治	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	KTU研究開発推進センター副センター長、広報委員会委員、細胞検査士委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	臨床検査入門、ミニゼミ、臨床病理検査学実習Ⅰ、組織学・同実習、細胞検査学、細胞検査学演習、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、医学検査特論、卒業研究、総合医学検査特論、細胞検査士養成課程				
担当科目コマ数	11.90				
本年度の課題					
細胞検査士養成教育の拡充					
本年度の目標					
細胞検査士試験合格率の維持、合格者数の維持					
主な活動内容					
1)教育活動 細胞診教育成果向上を目的に、学生の学修状況を解析しやすいコンピュータプログラムを独自に開発した。目標とする学修成果を見極めることができた。					
2)研究活動 研究テーマ：遺伝子多型 Genetic polymorphismの解析 研究の現状：腫瘍病変における遺伝子変化について検討。細胞診材料の HPV-DNA と遺伝子多型の関連性を研究した。 学会発表（ 回） 論文（ 4編） 著書（ 1冊）					
3)社会的活動等 日本臨床細胞学会評議員、同学会細胞検査士委員会委員、同学会施設認定制度委員会幹事、日本臨床細胞学会近畿連合会理事、 兵庫県臨床細胞学会理事 日本デジタルパソロジー研究会幹事、兵庫県細胞検査士会理事 医療関連サービスマーク制度調査指導員（（財）医療関連サービス振興会）					
今後の課題					
細胞検査士試験対策としての教育プログラムのさらなる拡充。細胞検査士試験合格率の維持。研究生に向けた教育プログラムの新規開発。					

個人年間活動報告書

教員名	鈴木高史	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ときわ教育推進機構・副機構長、国際交流センター・センター長				
クラス担任	3年生（全体・Aクラス）	クラブ顧問			
担当科目名	免疫学、免疫検査学、免疫検査学実習、国際保健活動I、国際保健活動II、分子感染制御学演習、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究				
担当科目コマ数	7.23				
本年度の課題					
各種状況を見極めながら適切にエフォートを振り分けて、教育・研究・社会貢献活動の推進を目指す。					
本年度の目標					
研究の推進と論文発表 国家試験対策問題の研究					
主な活動内容					
1) 教育活動 オンライン授業用教材の作成を行った。免疫(検査)学関連講義の新たな組み立てを行い、免疫検査学の国家試験対策用の資料作成を行った。分子感染制御学演習を担当教員とディスカッションを行いながら、新たな演習テーマを設定して開講した。 2) 研究活動 研究テーマ：熱帯疾患の新規コントロールツールの開発 研究の現状：ナトリウムチャネル導入細胞の構築は難航しているが、新たな発現システムの構築を終えたので、今後活性測定を行う段階に進む段階である。 大学等における安全保障輸出管理カリキュラム修了（一般財団法人公正研究推進協会） 医学研究者標準コースカリキュラム修了（一般財団法人公正研究推進協会） 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 2 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 国際交流センターの活動として、ネパール交換研修オンライン勉強会(OSEP)を開催した。					
今後の課題					
研究の推進と論文発表 学習進度が異なる学生への効果的な教育方法の探索					

個人年間活動報告書

教員名	大澤 佳代	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試副委員長				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	微生物学，病原微生物検査学I，病原微生物検査学II，感染制御学，チーム医療論，検体採取安全管理演習，病原微生物検査学実習I，病原微生物検査学実習II，総合医学検査特論，卒業研究				
担当科目コマ数	14.67				
本年度の課題					
担当科目の講義・実習内容を遠隔講義・実習も踏まえながら、各学年の進度に合わせて構築する。					
本年度の目標					
各科目における微生物学に対する興味を導くとともに、遠隔講義であっても国家試験対策へつながるように意識した内容とする。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・各担当講義科目は遠隔講義を意識しながら、各学年の進度に合わせて講義内容を構築し、配布物や復習がスムーズにできるようにした。 ・各担当実習科目は三浦先生とともに内容を吟味し、各学生が実習内容を確認できるように、さらには実習結果について十分考察できるよう意識して行った。 2) 研究活動 研究テーマ1：薬剤耐性細菌における耐性機構の解析ならびに新規抗菌薬の開発 研究の現状：日本における薬剤耐性細菌(淋菌、腸内細菌科細菌)の病原性や薬剤耐性機構の解析の状況を確認した。また、名古屋工業大学との共同研究として、新規抗菌薬の薬剤耐性菌に対する効果を実証した。 研究テーマ2：小児・新生児におけるタイチン測定の意義 研究の現状：神戸学院大学との共同研究に基づき、小児・新生児におけるタイチン測定の意義を確認した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 8回） 論文（ 5編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 ・神戸大学大学院保健学研究科客員教授（兼担）					
今後の課題					
今年度は研究代表者として科研費新規採択課題（基盤研究C）1件の他、科研費継続課題（基盤研究C；研究分担者）1件、AMED 新規採択課題1件（研究開発分担者）ならびにAMED 継続課題（研究協力者）2件があり、研究の推進と論文発表を行うとともに、微生物検査学に対する学生の学習進度の差を解消し、国家試験合格に向けた講義・実習を検討する。また、入試副委員長として、入試・広報活動を遂行する。					

個人年間活動報告書

教員名	坊垣美也子	所属学科等	医療検査学科	職名	準教授					
委嘱委員・職務	教務委員 学科国家試験対策委員 学科カリキュラム委員会									
クラス担任	11. 20	クラブ顧問								
担当科目名	検査入門実習 生体物質の化学 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 サプリメント演習Ⅰ 臨床化学検査学実習 臨床検査学演習 臨床検査学発展演習 サプリメント演習Ⅱ 卒業研究 総合医学検査演習 総合医学検査特論 生化学（診療放射線学科）生化学（看護通信制課程）									
担当科目コマ数										
本年度の課題										
新設の診療放射線学科において担当する 1 年後期に配当された「生化学」の授業準備を進める。M4 生の国家試験に向けた担当科目の底上げを図る。										
本年度の目標										
診療放射線学科教育に求められる生化学分野の内容に沿った授業を組立て実施する。国試対策委員として国家試験に向けた学生指導を行う。										
主な活動内容										
1) 教育活動 ①今年度開講の診療放射線学科 1 年生の生化学の授業準備を進め、M科では取り扱わない項目も含めた授業を実施した。 ②前期の遠隔授業において国試対策のため担当科目の小テストを多数作成しmanabaにあげて指導した。 ②新型コロナ対策のための遠隔授業等に関して、教務委員として非常勤教員のサポートを行った。 2) 研究活動 研究テーマ：血管内皮細胞と末梢血単球の相互作用に関する研究 研究の現状：血管内皮細胞の共培養によるTHP-1由来マクロファージの血管内皮細胞への分化の定量化において、FCM分析に適した血管内皮細胞のマーカーの検索・測定を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 2 編） 著書（ 1 冊） 3) 社会的活動等										
今後の課題										
国試対策委員として、M4 生および卒業不可となった学生に対して卒業および国試合格に向けた指導を強化する。										

個人年間活動報告書

教員名	田村周二	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	M科臨地実習委員、M科就職委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理機能検査学ⅠA、生理機能検査学ⅠB、人体の不思議（F）、生理機能検査学実習Ⅱ、総合医学検査演習、生理機能検査学演習、生理機能学実習Ⅰ、対人援助技術演習、まなぶるⅡ、BLSキャリアパスⅠ、BLSキャリアパスⅡ、総合医学検査特論、卒業研究、臨床検査入門、臨床検査総論（N）				
担当科目コマ数	11.90				
本年度の課題					
・平成30年度より継続中の月1回実施するリカレントオープンカンファレンスの継続（本年度は新型コロナ緊急事態宣言による感染拡大対策にて6回/年、施行となった） ・臨地実習・就職委員活動における学生との信頼関係の構築、ならびに推進活動の実施					
本年度の目標					
・毎月のリカレントオープンカンファレンスの継続 ・ソノグラファー試験準備社会人への教育指導ならびに支援 ・BLSキャリアパスとの連携を図り、就職活動の成果を高める。					
主な活動内容					
1) 教育活動 国家試験に繋がる内容を中心に、分かり易く理解しやすい授業にし、基本を伝え学生自身が興味を抱いて頂けるようなスライドや立体模型をもちいた授業内容を目指す。 2) 研究活動 研究テーマ：各種超音波検査における日本語版・英語版・中国語版の配信用動画 ならびに、それら各種マニュアルの作成 研究の現状：毎年学生の基本となる各種動画エコーマニュアルを日本語版・英語版・中国語版で作成中である。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（0回）論文（0編）著書（マスタードリル1部門） 3) 社会的活動等 社会人（卒業生）を対象に超音波検査を中心とした月に1回実施しているリカレントオープンカンファレンスの実施（毎回、病院など各医療施設より50人前後の参加）					
今後の課題					
・国試および就職に向けた学生への支援をさらに充実させること ・リカレントオープンカンファレンスを継続し、卒業生のソノグラファー試験に対するスキルアップの援助活動をしていくこと					

個人年間活動報告書

教員名	杉山 育代	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員・臨地実習委員・ハラスメント委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学実習Ⅱ、画像検査学、生理機能検査学ⅡB、生理機能検査学演習、卒業研究、特論、臨床検査学演習、人体のふしぎ、生理学と日常生活、〇科臨床検査学				
担当科目コマ数	11.37				
本年度の課題					
教育：・2019年度からのカリキュラム変更で削減された授業の理解度を向上させる ・実習授業でstudent assistant と履修生の双方が学べる体制作り 研究：データの解析纏め					
本年度の目標					
・昨年度に引き続き、大幅に削除された生理系カリキュラムで、必要内容を理解させる授業と実習を行う。 ・卒業研究ゼミ生が行うstudent assistantの指導。 ・入試委員・臨地実習委員・ハラスメント委員としての役割を遂行する。 ・研究時間の確保を考える					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・コロナ発生による緊急事態宣言に対して、 <u>いち早く生理機能検査学実習Ⅱ課題をマナバに挙げて、学生の学修の空白期間を究めて最少に抑えた。</u> ・リモート授業では、音声、パワーポイント、音声を文章にして張り付けたパワーポイントの3つを作成し授業を行った。 ・リモート授業の課題作成に役立つ文献を、自宅から利用できる図書館メディカルオンラインを活用した。 <u>学生からは読むべき文献を呈示されているので探しやすく、文献を読み理解できることが面白かったという意見が多かった。</u> ・後期からは、何時緊急事態宣言が発令されても学生に平等な実習授業を受講できるように実習配分を変更した。 ・〇科臨床検査学の授業を1コマ担当した。身近なことを例に挙げて臨床検査の理解を促した。 ・卒業研究ゼミ生が行うstudent assistantは、コロナのため遂行出来なかったが、ラインのビデオ通話を用いて、心エコーや卒業研究の文献を4月初めから毎週行い、大学再開時に直ぐに卒業研究や心エコーを実施できるようにした。 ・入試委員としての数多くの役割を遂行できた。 ・コロナにより <u>学内で行う臨地実習を実施</u> した。その時間割作成、出席簿作成、学生指導等を全力で行った。					
2) 研究活動					

研究テーマ：スマートフォン使用がおよぼす身体への影響 研究の現状：データの纏め 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 特になし
今後の課題 ・コロナ感染防御策を学生に指導し、対面での実習を安全に行うこと。 ・考えて行う臨床検査を学生に教育すること ・研究論文を纏めること

個人年間活動報告書

教員名	澁谷 雪子	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員（副委員長）、国試対策委員、地域交流センター委員				
クラス担任			クラブ顧問	バドミントン部（顧問） フットサル部（副顧問）	
担当科目名	生化学実習、臨床化学検査学実習、薬物と検査、臨床検査学演習、臨床検査発展演習、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究、BLSキャリアパスⅠ、BLSキャリアパスⅡ、地域との協働B				
担当科目コマ数	14.83				
本年度の課題					
自身が関わる正課（実習、講義）、地域交流、国試対策・就職支援で、一貫した学生指導（自主性を養う、学生の表現力）を心がける。 研究活動において、研究中のテーマを進め、まとめを行う。					
本年度の目標					
教育活動：学生実習、国試対策と連携した就職支援、地域交流に力を注ぐ。 研究活動：研究中のテーマを継続する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 遠隔授業では、対面での指導ができない分、学生の提出物に対し、コメントをするように心がけた。また、「地域との協働B」では、新型コロナウイルス感染症の拡大時に学生リーダーが考えるべきことについて、考える機会を設けた。 就職支援においては、BLSキャリアパスから就職支援（就職委員会）への繋ぎを考え、途切れのない支援を心掛けた。また、国試対策委員としてし、就職委員会との連携を図った。					

2) 研究活動 研究テーマ： 唾液の臨床検査について 研究の現状： 唾液中NGFと認知機能維持についての研究を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 2 編） 著書（ 0 冊）
3) 社会的活動等 兵庫県臨床検査技師会 理事
今後の課題
自身に関わる正課（実習、講義）、地域交流、国試対策・就職支援で、学生が気持ち・考えを伝えやすい環境・状態について考えながら、指導することを心がける。 研究活動において、研究中のテーマを進める。

個人年間活動報告書

教員名	澤村 暢	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国試対策委員、図書紀要委員、自己点検評価委員、大学認証評価準備委員				
クラス担任		クラブ顧問	イムノヘマトロジー部顧問		
担当科目名	血液学、血液検査学実習Ⅰ、血液検査学実習Ⅱ、臨床検査学演習、まなぶる▶ときわびとⅠ・Ⅱ、検体採取安全管理演習、細胞培養演習、卒業研究、医学検査サブリメント演習Ⅰ・Ⅱ、総合医学検査特論、0科臨床検査学				
担当科目コマ数	11.13				
本年度の課題					
国家試験対策の見直し					
学生の時間外学習時間を増やすための方法を考える					
本年度の目標					
新たな国試対策の考案					
学生自らが調べ、考えるような課題の作成・出題					
主な活動内容					
1)教育活動					
新型コロナウイルスの影響で、オンライン講義となりその対応を行った。講義動画の作成、実習の操作を動画で撮影するなどオンラインでの学修効果を高めるため試行錯誤した。オンラインの課題では、インターネットで調べられるような課題を出し、自らがその課題について調べ、考えをまとめるものを課した。					
また、国家試験対策では manaba 小テストを使った教材を提供した。					

2)研究活動 研究テーマ：Fibrinogenノックアウト細胞を用いたフィブリノゲン合成・分泌に関する研究 研究の現状：fibrinogenノックアウト細胞を使いIL-6Rの転写量解析。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 編） 著書（ 1 冊） 3)社会的活動等 令和 2 年度兵庫県精度管理専門委員会委員 11/26 伊丹北高校での模擬授業 今後の課題 研究データのまとめ、論文化 講義内容のブラッシュアップ

個人年間活動報告書

教員名	溝越 祐志	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、教務委員、学内実習安全委員				
クラス担任	なし		クラブ顧問	なし	
担当科目名	検査入門実習、遺伝子検査学・染色体検査学実習、公衆衛生学実習、免疫検査学実習、マナブル▶ときわびとⅠ、臨床検査総論、臨床検査学演習、文献購読、分子感染制御学演習、遺伝子工学演習、マナブル▶ときわびとⅡ、公衆衛生学				
担当科目コマ数	12. 17				
本年度の課題					
・学力の3要素を継続して成長させる授業を展開する。 ・チューター学生で成績が芳しくないものへのフォローを強化する。					
本年度の目標					
・「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を考慮に入れた授業を展開する。 ・チューター学生の動向を把握し、成績や出席状況が芳しくない場合は早めに対応する。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
・説明動画をメインとした遠隔授業教材を作成し、オンライン授業を展開した。学生の自主学習を促す為、次年度以降も予習教材として活用する。 ・遠隔授業小テストに思考力・表現力をはかるため、論述問題や思考力問題を加えた。 ・担当卒研生、チューター学生の成績や状況把握に努めた。チューター学生の家族との面談も複数回行い早急な対応に努めた。					

・入学前教育講師を務めた。
2) 研究活動
研究テーマ：① 新規遺伝子導入細胞セレクションシステムの開発
② 敗血症マーカープレセプシンの産生機序に関する検討
③ <i>DSCR9</i> 遺伝子の機能解明に関する検討
研究の現状：①研究成果を論文にまとめ、アクセプトされた。
②、③ 検討を継続中である。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（ 回） 論文（ 2編） 著書（ 冊）
3) 社会的活動等
地域公開講座「免疫について」講師を務めた。
今後の課題
・新型コロナウイルス感染症の影響で学会発表ができなかったため、次年度は学会発表を行う。 ・「協働して学ぶ」内容を取り入れた授業を展開する。

個人年間活動報告書

教員名	今西 麻樹子	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	教務委委員、SD委員、臨地実習委員				
クラス担任		クラブ顧問	バドミントン部（副顧問） 弓道同好会（副顧問）		
担当科目名	生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学ⅡB、基礎検査学実習、 生理機能検査学実習Ⅱ、臨床検査学演習、検体採取安全管理演習 医療コミュニケーション、まなぶる▶ときわびとⅡ				
担当科目コマ数	11.10				
本年度の課題					
教育：実習および授業内容の充実 研究：研究活動の充実					
本年度の目標					
教育：学生の理解が深まるように講義・実習内容のブラッシュアップを行う。 研究：データ解析中の研究を論文化する。					
1) 教育活動					
生理機能検査学実習において、学生相互でのデータの取り合いは難しく、後期2年生の実習ではグループの代表を被検者として、教員が測定を行った。担当している「生理機能検査学ⅡB」の授業内容と実習項目が並行して進むことになり、検査時の声掛けのタイミング、その時に得られたデータ（カーブ）を説明することにより、学生の					

理解を深める実習となった。
2) 研究活動 研究テーマ：①膠原病除外のための抗DFS70抗体の同定方法の研究 ②尿沈渣保存法の検討 研究の現状：①抗DFS70抗体に関連する論文を新たに執筆中 ②固定液、種々の染色液および封入剤を用いて尿沈渣標本を作製し、保存状態を観察中（2020年度テーマ別研究費取得） 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 2 編） 著書（ 1 冊）
3) 社会的活動等 社団法人兵庫県臨床検査技師会 学術部管理運営研究班班員
今後の課題
教育：実習時の感染対策、実習および授業内容の充実 研究：研究活動の充実

個人年間活動報告書

教員名	島袋 梢	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学生委員会、就職支援委員会、国際交流センター				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	公衆衛生学実習、免疫検査学実習、まなぶる▶ときわびとⅠ、輸血・移植検査学実習、医動物学・同実習、総合医学検査特論、文献購読、BLSキャリアパスⅠ、BLSキャリアパスⅡ				
担当科目コマ数	11.80				
本年度の課題					
新しく着任したため、担当する科目で必要な引き継ぎを受けて、来年度に向けた十分な準備を行う。また、自身の研究を進める環境を整える。					
本年度の目標					
担当する科目の引き継ぎを十分に行い、マニュアルを整える。 担当する科目に必要な教材を追加する。 個々の学生の問題点を把握し、必要に応じたサポートを実施する。 研究環境の整備及び競争的資金の獲得に向けた準備をする。					
主な活動内容					
1) 教育活動 担当科目では実習部分を担当している。一部、特論および文献購読では講義を行った					
2) 研究活動					

研究テーマ： ①感染症媒介蚊の新規コントロール方法の研究 ②ウイルス感染症の流行における特徴の多角的分析. ③感染症媒介蚊の生態的な特徴の組織形態的解析. 研究の現状： ①ザンビア国での調査が可能かについて、カウンターパートと協議を実施、調査方法について合意を得た。コロナが落ち着き次第、現地調査をするべく、使用する新しいデバイスの開発を行っている。 ②兵庫県におけるコロナ流行の疫学データを元に、特徴を解析し、時系列地理的分布やその他様々な特徴因子の解析を実施した。その中間報告は2021年度、本学の公開講座にて行った。 ③兵庫県立工業技術センターの施設を利用して組織の解析を行っている。今後の解析を進めるために、長崎大学と一緒に検討することも考えている。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 2021 年度神戸常盤大学公開講座「兵庫県におけるコロナの流行状況」を行った。 今後の課題 教育面では、1年間の引き継ぎを終え、次年度からは一人で実習などを動かすこととなる。実習が問題なく進むように、学生がより理解しやすい内容の改善を行っていく必要があると考えている。前年度の細かい反省を踏まえてよりよい講義内容になるよう工夫を重ねていきたい。 研究面では、コロナ渦の影響で予定していたフィールドワークに大きな制限がある。そのため、予定していた研究内容を大きく変更する必要がある。今後も同じ状況が考えられるため、実験室でできる研究内容に変更し、業績と実績を重ねていく必要があると考えている。また、遠隔でもフィールドワークができるのか検討する。
--

個人年間活動報告書

教員名	三浦 真希子	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	就職委員、臨地実習委員、卒業研究委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	病原微生物検査学実習Ⅰ・Ⅱ、まなぶる▶ときわびとⅠ、 臨床検査学演習、検体採取安全管理演習、総合医学検査特論、				

	BLSキャリアパスⅠ・Ⅱ
担当科目コマ数	11.33
本年度の課題	
・ 学生が能動的に学びやすい環境づくり ・ 研究活動の遂行	
本年度の目標	
・ 学生が能動的に学びやすい実習環境を工夫する ・ 研究成果を論文として発表する	
主な活動内容	
1) 教育活動 ・ COVID-19の影響で学修に遅れが出た分、実習は1クラスを更に分割した少人数制で行い、感染対策に気を配り、且つ学生に目が届く環境づくりを工夫した。 ・ 実習の一部について、動画を用いたオンデマンド形式で実施し、学生が能動的に予習復習をしやすいよう工夫した。 2) 研究活動 ・ 研究テーマ：1) 保育施設におけるオムツ処理規定モデルの構築 2) アジスロマイシン耐性淋菌の薬剤耐性機序の解析 3) 薬剤耐性淋菌感染症の対策に資する研究 ・ 研究の現状：1) 科研費の助成を受け、調査実施、解析中である 2) 調査実施、解析中である 3) AMED事業 研究協力者として研究を遂行した ・ 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等	
今後の課題	
・ 微生物実習室の改修につき、環境整備を行う ・ 研究成果を論文として発表する	

個人年間活動報告書

教員名	佐野 太亮	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国試対策委員、地域交流センター、LS細胞病理研究ユニット、学内実習安全委員、卒業研究委員、細胞検査士養成課程委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	病理部（顧問）		

担当科目名	組織学・同実習、臨床病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、臨床基礎検査学実習、臨床検査入門実習、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ
担当科目コマ数	13.27
本年度の課題	
今年度の研究をさらに進めて行きたい。 引き続き、国試対策、細胞検査士養成課程の試験対策をより充実させたい。また、学修面だけではなく、ボランティア活動についても学生が取り組みやすいように努めたい。	
本年度の目標	
1. 養成課程のオリジナルテキストの改訂 2. 模擬試験結果を反映した個別問題集の作成	
主な活動内容	
1) 教育活動 病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、組織学実習の準備、レポート、スキッチの指導に加え、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡの授業を担当した。	
2) 研究活動 研究テーマ：① File makerを用いた学習システムの構築 ② 家族性多発性GISTモデルマウスからの初代培養系の樹立 研究の現状：継続中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0回） 論文（ 1編） 著書（ 1冊）	
3) 社会的活動等 子宮の日ボランティア活動、健康フェスタ、兵庫県健康福祉まつり	
今後の課題	
1. 研究活動時間の確保。 2. 国試対策、細胞検査士養成課程の1次、2次試験対策をより充実させる。	

2. 保健科学部 診療放射線学科 個人年間活動報告書

教員名	松田 正文	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授					
委嘱委員・職務	診療放射線学科長、学園一体化推進協議会委員、運営委員会委員、入試問題作成部会長									
クラス担任		クラブ顧問								
担当科目名	単独担当 診療放射線学科：医学概論、生理学 医療検査学科：呼吸・循環機能検査学、臨床病態学特論 腎不全 分担担当 基盤教育：人体のふしぎ 診療放射線学科：診療技術入門、放射線科学概論 医療検査学科：生理機能検査学ⅡB、臨床病態学Ⅱ、臨床病態学Ⅲ、臨床病態学特論 看護学科：生命と倫理									
担当科目コマ数	3. 10									
本年度の課題										
診療放射線学科開設初年度であり、学生を優れた診療放射線技師に育てる基盤・基礎教育を確実に行う。 診療放射線学科を円滑に運営する。										
本年度の目標										
基盤・基礎教育を確実に行う。 診療放射線学科の運営を円滑に行うために、他学科教員を含む教員間の緊密な連絡・情報交換を行う。										
主な活動内容										
1) 教育活動 新型コロナ・ウイルス感染症の影響で、通常であれば対面授業であるものが遠隔授業になるなど、本年度は学生にとっても教員にとっても苦難の一年であった。このような状況下での教育となったが、診療放射線学科の授業では基盤・基礎教育の重要性を強調した。他学科の授業では強固な基礎教育の上に専門教育が成り立つことを述べた。										
2) 研究活動 研究テーマ：（呼吸機能検査の一つである）フローボリューム曲線の解析 研究の現状：一時停止の状態にある 本年度の研究業績： 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）										
3) 社会的活動等 社会福祉法人理事										

今後の課題
診療放射線学科を円滑に運営する。 学科ならびに個人の教育、研究両面を充実させる。

教員名	今井方丈	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員会委員，入試委員会合否判定部会委員， 個人情報保護委員会委員，危機管理（災害）委員会委員， 国試対策委員会委員，臨床実習委員会委員 学内AC委員会委員				
クラス担任	1年責任者，1年B組担任	クラブ顧問			
担当科目名	①臨床技術入門 ②臨床検査学演習				
担当科目コマ数	0.47				
本年度の課題					
学科内運営の確立（対学生，対教員，対大学） 設備，什器備品等の導入・管理					
本年度の目標					
学生対応の充実 学科初年度の運営（他学科および外部講師との折衝，学科内運営）を円滑に履行 初年度における設備，什器備品の導入を確実に履行					
主な活動内容					
1) 教育活動 Early Exposure である臨床技術入門が新型コロナウイルス感染拡大により， 実施出来なくなったので，臨床現場の各部署より各職種のリーダーに 講師として本学で講義・実習を依頼した.					
2) 研究活動 研究テーマ： 研究の現状： 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）					
3) 社会的活動等					
今後の課題					
次年度は新たに2学年の授業を準備するが，後期より学内実習も始める。 実習要領の整備が当面の課題.					

教員名	谷口英明	所属学科等	診療放射線学科	職名	特任教授
委嘱委員・職務	広報委員会 委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	コミュニケーション論、医療コミュニケーション、芸術文化論 プレゼンテーション技法				
担当科目コマ数	2. 60				
本年度の課題					
初めての教員経験であり、課題を見つけることが最大の課題であった。特に単独担当だったコミュニケーション論（基盤）と医療コミュニケーション（専門基礎）については多くの課題も見つかり次年度に改正していきたい。					
本年度の目標					
上記の単独担当科目について教科書はなく、8コマを構成した内容をシラバス通りに進めること。本学はどういう気質の学生が多いのか観察し指導に繋げる、科目の性質上、授業は楽しく対面で進めること。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
サンテレビアナウンスセミナーを夏と冬にそれぞれ一週間開催。アナウンサーを目指す学生に対し、アナウンススキルを中心に採用試験対策などを指導。 来年度からはセミナーを長期の夜間スクールに昇格させる計画。					
2) 研究活動					
研究テーマ：					
研究の現状：					
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照					
学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）					
3) 社会的活動等					
今後の課題					
1、学生による授業評価					
コミュニケーション論					
学生自身3． 9 授業内容4． 6 授業方法4． 8 学修成果4． 5 総合評価4． 7					
医療コミュニケーション					
学生自身3． 8 授業内容4． 6 授業方法4． 6 学習成果4． 5 総合評価4． 7					
以上の結果、授業以外の学修の少なさが顕著だった。課題提出が少なかった。					
2、学生の授業への取り組み方を見て必ずしもシラバス通りに進捗しなかった点があった。コースコンテンツに資料を掲載してほしいという要望が多かったが、できるだけ希望に添えるようにしたい。					
3、初めての経験だったため、学生に対する私自身の指導が甘かった。もっと厳しく指導すべき点があった。					

教員名	山崎麻由美	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	広報委員会（委員長）、入試委員会、ハラスメント防止対策委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	英語コミュニケーションI（看護学科科、診療放射線科）、英語コミュニケーションII（医療検査学科）、医療英語（医療検査学科）、医療英語（口腔保健学科）、大学道場miniゼミA、英語B、英語D				
担当科目コマ数	11.60				
本年度の課題					
①授業評価をもとに授業の改善に取り組むこと。					
②19 世紀イギリスの医療・看護と女性の専門職についての資料を収集し、論文執筆に取り組むこと。					
本年度の目標					
①授業評価を参考にし、学生が能動的に学習に取り組めるようにグループワークや自学自習できる課題を与える。					
②クリミア戦争時のナイチンゲールの活動および看護婦たちの活動についての成果を発表する。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
①遠隔授業ではmanabaの掲示板・アンケート機能を用いて学生へのフィードバックを迅速に行った。					
②大学院進学希望者たちに英語の個別指導を行った。					
2) 研究活動					
研究テーマ：①Florence Nightingaleの著作におけるクリミア戦争の影響 ②クリミア戦争中の看護事情 ③19世紀英国における看護職の変容					
研究の現状：①と②は論文執筆中、③は資料収集中					
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照					
学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等					
なし					
今後の課題					
①授業評価をもとに授業の改善に取り組むこと。					
②19 世紀イギリスの医療・看護と女性の専門職についての資料を収集し、成果発表に結びつけること。					

教員名	高久圭二	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
-----	------	-------	---------	----	----

委嘱委員・職務	研究倫理委員会、放射線安全委員会委員長		
クラス担任		クラブ顧問	
担当科目名	放射線科学概論、miniゼミA、まなぶるときわびとI、放射線物理学I、miniゼミB、まなぶるときわびとII		
担当科目コマ数	5. 27		
本年度の課題			
放射線障害予防規程の作成、放射線管理業務の立ち上げ、新しい授業の充実			
本年度の目標			
本大学の学生に適した授業の確立			
主な活動内容			
1) 教育活動 地域交流センター公開講座「放射線でわかる宇宙」			
2) 研究活動 研究テーマ：核子間三体力の研究、テーブルトップ型RI製造装置の開発 研究の現状：コロナ禍で実験中止 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1回） 論文（ 2編） 著書（ 0冊）			
3) 社会的活動等 兵庫県立大学理学部放射線同位元素等取扱者継続登録者教育訓練講習講師			
今後の課題			
本大学の学生に適した授業の充実			

教員名	関 雅幸	所属学科等	診療放射線学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会委員、SD委員会委員、診療放射線学科国試対策委員会委員長、IR推進プロジェクト委員、情報インフラ整備ユニット委員長、子育て総合支援施設KITテクニカルアドバイザー				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	〔診療放射線学科〕医用工学Ⅰ（電気工学）、医用工学Ⅱ（電子工学）〔医療検査学科〕医療数理科学、情報科学概論、医療工学、医療工学実習、ロボティクス演習、卒業研究、総合医学検査演習、総合医学検査特論 〔基盤教育分野〕情報基礎、プログラミング入門				
担当科目コマ数	12.47				
本年度の課題					

新学科での担当委員会でベースとなる仕組みなどを作る。
本年度の目標
担当委員会で使用するプログラムを作成する。
主な活動内容
1) 教育活動 教務委員会関連において、学生ごとの卒業要件にカウントされる選択科目の習得済総単位数を計算するプログラム、後期での成績において専門基礎・専門科目における各学生のGPAを算出するプログラムを作成した。 2) 研究活動 研究テーマ：(1) ロボット作成を用いた情報処理教育 (2) 教育活動支援システムの作成 (3) LaTeXを用いた国家試験模擬試験の作成 研究の現状：(1) 基礎知識を収集中。(2) 4月の大学道場miniゼミの学生振り分けにて以前作成したExcelマクロを利用した。また、手順マニュアルの修正を行った。(3) 診療放射線技師の国家試験問題を用いて新しい命令を作成し、入力作業の簡略化を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0回） 論文（ 0編） 著書（ 1冊） 3) 社会的活動等
今後の課題
授業用資料の充実

教員名	高松 邦彦	所属学科等	診療放射線学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	KTU大学研究開発推進センター、ときわ教育推進機構、ライフサイエンス研究センター、自己点検委員会、図書・紀要委員会、情報インフラユニット、FAST等企画運営ユニット、IR推進プロジェクト、遠隔授業サポートチーム				
クラス担任			クラブ顧問	硬式テニス部	
担当科目名	〔こども教育学科〕保育・研究課題研究II、保育・研究課題研究III、卒業研究I、卒業研究II、卒業研究III、卒業研究IV、〔医療検査学科〕遺伝学、医療英語、医療統計学、文献講読、バイオインフォマティクス、〔看護学科〕保健統計学、〔基盤教育分野〕暮らしの中の数学、統計学、芸術文化論、まなぶるときわびとI,まなぶるときわびとII,超ときわびと、コミュニティデザイン				
担当科目コマ数	13.03				
本年度の課題					

本年度は、診療放射線学科に初めて来た年であり、チューターなどもしっかりと担当することを課題とした。
本年度の目標
診療放射線学科の教員として、きちっと役割を果たすことを目標とした。 また、神戸常盤大学において数理統計データサイエンス教育の基盤を作ることも合わせて目標とした。
主な活動内容
1) 教育活動 「まなぶる▶ときわびとⅠ」、「まなぶる▶ときわびとⅡ」のコアメンバーとして、科目の運営、取りまとめを積極的にサポートした。本年度は、卒業研究については、こども教育学科の学生を担当した。 2) 研究活動 研究テーマ：Eduinformatics 研究の現状：高等教育に、エビデンスベースドな解析を行うことで、様々な研究をおこなっている。 学会発表（16回） 論文（14編） 著書（1冊） 2020年12月 IEEE/International Institute of Applied Informatics (IIAI) International Congress on Applied Information Technology (AIT 2020) において Outstanding Paper Awardを受賞 3) 社会的活動等 International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Steering Committee of 9th International Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI AAI DSIR2020) International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI 2020, Publishing Chair International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Steering Committee of 10th International Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI AAI DSIR2021) International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI 2021, Program Chair

IJIRM: International Journal of Institutional Research and Management, The Co-Editor in chief of IJIRM

AED 講習回を、講師として行った。

富山国際大学にて、FD 活動講師（IR について）

今後の課題

来年度は、診療放射線学科において 2 年目を迎えるため、学科の中でしっかりと自分の役割を果たしたい。また、常勤と非常勤を含め、遠隔授業のサポートを行う。

教員名	木村 英理	所属学科等	診療放射線学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	・学生委員　・教務委員 ・神戸常盤大学健康保健センター　健康管理室 ・神戸常盤大学健康保健センター　学生相談室 ・（診療放射線学科）臨地実習委員会委員長				
クラス担任	1年Aクラス		クラブ顧問		
担当科目名	まなぶるⅠ　まなぶるⅡ　臨床技術入門				
担当科目コマ数	3. 33				
本年度の課題					
・本学科の第1期生に対し、効果的な診療放射線技師教育や指導がどこまで行えるか					
本年度の目標					
・第1期生が充実した大学生活を学習面および生活面からしっかりサポートする					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・高大連携授業 兵庫県立福崎高校（1回）兵庫県立明石南高校（3回）兵庫県立鈴蘭台高校（3回）					
2) 研究活動 研究テーマ：①診療放射線技師教育における放射線カウンセリング学関連科目の導入状況について ②医療用X線CT装置の人文科学への応用研究について 研究の現状： 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 ①2019年度日本診療放射線技師会学術研究助成金「診療放射線技師教育における放射線カウンセリング学関連科目の導入状況調査」活動期間（2019年7月～2020年12月） 共同研究者 ②医療用X線CT装置が人文科学分野の研究でどの程度寄与できるのか「第3回文理融合シンポジウム」に参加し、考古学研究の現状と課題について情報を収集した。化石や出土品、木片などを入手し、どの程度まで描出・分析可能か検討を行なった。					

学会発表（ 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）
3) 社会的活動等
公開講座 「X線検査で何がわかるの？」（2021.02.20 Web公開）
今後の課題
・診療放射線学科における教育方法および教育内容の見直し ・医療被ばく相談（放射線カウンセリング）における問題点とリスクコミュニケーションスキルの向上

教員名	伊藤 彰	所属学科等	診療放射線学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員，地域交流センターB，国際交流センター，臨床実習委員，国家試験対策委員，就職委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	診療放射線技術学入門，まなぶる▶ときわびとI，まなぶる▶ときわびとII，臨床検査学演習(M科)				
担当科目コマ数	3.57				
本年度の課題					
大学教員とし着任した初年度であり講義資料作成が必要である。 初学者に対するレポートの添削、指導および、多人数の課題の評価は未経験であり習熟が必要である。					
本年度の目標					
担当科目の講義資料作成を行う。 レポートの指導に関しては、多数の学生に対して一貫した指導や評価が行えるようワークフローを組み立てる。					
主な活動内容					
1) 教育活動 担当科目の講義資料作成を行った。COVID-19流行に伴う緊急事態宣言発令により、担当科目の一部は遠隔授業となった。オンデマンド型遠隔授業双方向性の確保に留意して授業を組み立てた。 レポート指導、評価については、担当する学生の提出課題への所感や指導内容を記録するワークシートを作成し、指導や評価の一貫性を担保した。					
2) 研究活動 研究テーマ：テーマ別研究「診療放射線技師養成のための専門英語教材開発」 研究の現状：患者対応シナリオを作成した 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等					

特記なし
今後の課題
本年度実施したテーマ研究を発展させる。昨年度研究で作成した教材の学習効果を測るとともに、これを基に自律的な学修が可能な教材および教授法を研究・開発する。 上記以外にも基礎的検討を行っている課題は複数あり、学会発表や論文化を目指す。

教員名	市川 尚	所属学科等	診療放射線学科	職名	助教
委嘱委員・職務	入試委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	なし				
担当科目コマ数					
本年度の課題					
今後の課題を明確にすることを本年度の課題とする.					
本年度の目標					
業務内容を理解することを目標とし、そのために教員業務や研究活動, 委員会活動に注力する.					
主な活動内容					
1) 教育活動 第一種放射線取扱主任者試験対策.					
2) 研究活動 研究テーマ: 補償フィルタが面積線量計の測定精度に与える影響の評価 研究の現状: 国内での学術発表 (第76回日本放射線技術学会総会学術大会) 本年度の研究業績: 詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表 (2 回) 論文 (0 編) 著書 (0 冊)					
3) 社会的活動等					
今後の課題					
1 月採用であるため, 3 カ月間しか業務に携わっていないが, 試験対策や委員会活動を通じて業務に慣れつつある. 次年度は, 伝わりやすい講義を行うことが課題である. また, 市民公開講座などを通じた社会活動への参加や, 研究活動へ注力することが課題として挙げられる.					

3. 保健科学部 看護学科 個人年間活動報告書

教員名	鎌田 美智子	所属学科	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	副学長兼保健科学部学部長、学園一体化推進協議会委員、自己点検・評価委員会委員長、運営委員会委員、入試合否判定部会委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	看護学概論、看護教育論、基本看護技術Ⅳ（看護過程）				
担当科目コマ数	5.73				
本年度の課題					
副学長が兼務している自己点検・評価委員会委員長として、教育研究運営のPDCAサイクルを効果的に回す。保健科学部学部長として保健科学部の教学運営を把握しつつ、個人の研究活動の比重を高める。					
本年度の目標					
1. 大学基準協会の「認証評価受審」を効果的に進める。 2. 保健科学部教員間の交流をし、教育研究活動への認識を深め、かつ学部合同授業等の質を高め学部運営の効果をあげる。 3. 個人の教育・研究活動の充実をはかる。					
主な活動内容					

1) 教育活動

授業実践においては、「看護学概論」、「看護教育論」における歴史的側面の内容を強化し、看護学の現状を大きな視野（過去←現在→未来）で捉えられる様、展開した。今年度はコロナ禍の中、遠隔授業と対面を織り交ぜた展開となったが、「看護学概論」を取り上げると、学生による評価では、従来同様「難しいけれど心に響く授業」「看護学や看護実践が何を成すべきかがわかり興味関心が高くなった」等の反応が見みられており、総合評価「4.2」、「授業の満足度4.5」と昨年度よりポイントが高くなっている。成績評価においても「73.8（昨年72.1）」と、1ポイントほど高い。欠席もほとんど見られていない。“看護への興味・関心・探究を導く”のねらいはほぼ達成し他と思われる。

保健科学部の教育運営では、3年前に開始した「学部学科長会議2回以上／年」を継続。新たに開設したR科学科長を加え、交流を強化するための3学科教員合同の顔合わせ等を計画したが、コロナ禍のため中止となっている。教育内容に関しては次年度受審の認証評価の備え、現行の教育理念を見直し、学部各学科会議・学科長会議等での検討を通して、学部の教育目標、三ポリシーを設定している。

2) 研究活動

研究テーマ：看護診断、教育及び看護実践における評価等

研究の現状：「地域拠点において当学科が提供するall の健康支援に向けた実践モデルの検討」他。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（1）回 論文（1）編

3) 社会活動

日本私立看護系大学協会活動、県下看護系大学協会、看護協会「まちの保健室」等

教員名	長尾 厚子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	運営委員・通信教育委員・看護学科長・通信教育委員長				
クラス担任			クラブ顧問		
担当科目名	（通学）いのちと共生・看護対象論Ⅰ・看護活動基礎実習・生活健康論実習・基礎看護学実習(看護過程)・課題別総合実習・看護研究演習（通信）看護対人関係論・看護と研究				
担当科目コマ数	7.53				
本年度の課題					
1．担当授業科目の授業内容の精選・授業方法の工夫をはかる。					
2．研究活動の継続					
本年度の目標					

1. 「看護対象論Ⅰ」の授業内容の精選・授業方法の工夫を図る。 2. 基盤教育分野科目「いのちと共生」のときわコンピテンシーの到達度を確認する。 3. 研究の研究活動を継続する。
主な活動内容
1) 教育活動 1) 教育活動 ①「看護対象論Ⅰ」については、後期であったが演習科目であるため密を避ける方法を駆使し、対面授業を実施した。主体的に取り組む課題学習に関してはマナバで提出させ各自の学修内容をフィードバックする方法とした。また、今年度から取り入れた「触れることの意味」に関する授業内容・方法については、学生達の評価も高く次年度も継続したい。「模擬患者」との対応場面の体験学習は、昨年度までは地域ボランティアの方々に協力を得て実施していたが、コロナ禍の中、協力が不可能なため、教員が模擬患者になり実施した。教員の名演技の成果もあり、「大変良かった」「良かった」を合わせると98%の学生が満足していた。次年度の課題である。 ②基盤教育分野での「いのちと共生」は、受講者数はM科24名、N科67名、E科63名計154名であった。今年度は、すべて遠隔授業で実施し、資料のみの授業や動画やDVDを駆使した授業など様々あり、学生の毎回の感想も「毎回異なる内容が面白い」「様々な観点から考えられた」「分野は違うが将来役に立つ内容だった」など肯定的な意見があったが、資料を配布してほしいや声が聞き取りにくいなどのコメントもあった。次年度も、受講希望者が多いため、遠隔授業となるが、資料の提示やコンテンツの作成の精度を上げていきたい。7名の教員のオムニバスでの授業展開であるが評価方法を「毎回の授業内容から得られた知識や、さらに調べた内容」をもとに関心のあるテーマを選んでレポートしその内容を評価した。関心のあるテーマにはばらつきがあった。ときわコンピテンシーの到達度はレポートの内容からおおむね評価でき、総合評価では秀26%、優51%、良23%となっている。 2) 研究活動 研究テーマ：①対人援助に関する研究 ②看護学教育評価に関する研究 ③2年課程（通信制）の教育に関する研究 研究の現状： 今年度、中期計画で「在宅実践能力のニーズ調査」を実施の予定であったが、コロナのため実施ができなかった。次年度に向けての課題である。 また、「学生が看護学実習において学習意欲が向上したと感じた教員の間主観的な関わりー学生の視点からー」についての研究成果を本学学術フォーラムで発表し、さらに日本看護研究学会第46回学術集会でもした。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照。 学会発表（ 1回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 日本看護協会の「准看護師の業務に関する実態調査」の調査票骨子（案）に関するプレテストならびにヒアリングについて参加

今後の課題
1. 担当授業科目の授業内容の精選・授業方法の工夫の成果から課題を見出す。 2. 研究活動の継続をはかる。

教員名	岩越 美恵	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教職支援センター委員、看護学科養護教諭課程委員長、ストレスチェック実施者				
クラス担任	無し	クラブ顧問	無し		
担当科目名	健康科学総論（N・O）、症候論Ⅱ、養護概説、特別支援教育、養護実習Ⅰ・Ⅱ、事前及び事後の指導、教職実践演習、人体のふしぎ、MiniゼミB、看護学研究、臨床病態学Ⅱ、臨床病態学演習Ⅰ・Ⅱ、健康スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ				
担当科目コマ数	8.23				
本年度の課題					
1) 昨年度計画した課題解決に向けた地域貢献活動を実行する 2) 前年度からの臨床研究の継続					
本年度の目標					
1) 昨年度絞られた「重度障害のある方々の能動的な社会参加」の課題について、1年次の生活健康論実習の中で、「神戸常盤大学町の保健室」を長田区内のある障害者生活介護通所事業所にて、利用者と協働で試みる。 2) 研究対象者の集積目標値 10 名とする。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・ 今年、新型コロナ対策のため、急遽遠隔授業への切り替えが講義の科目のすべてに渡って行われ、大学の遠隔授業マニュアルに従って、前期はスライドPDF資料に音声録音を添付して、また後期はoffice365への切り替えにより、動画スライドをYoutubeにアップしたものをmanabaに添付して各回に小テストと数回のレポート提出によりこれまでの対面授業より、学修効果を上げることができた科目が多かった。 ・ manabaの使い方にも慣れることができた。					
2) 研究活動 研究テーマ： (1) 発達障害児のポジティブな自己受容をめざした診療の実践 (2) 学生と協働で取り組む重度心身障害者の能動的な社会参加活動の試み 研究の現状： (1) 取り組んだ症例の蓄積（告知済40名・告知前準備中約22名） (2) 秋に実施を予定していたが、コロナ禍のため中止となった。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等					

・西宮市社会福祉協議会「青葉園・ふれぼの」の運営委員として定例役員会に出席 ・三木市教育センターにおける教育相談＋三木市健康増進課発達相談（全12回/年） ・NP0法人みどり兵庫（法人成年後見制度）の評議員として総会、理事会に出席 ・長田区内の障害児者関連施設との交流（くららベーカリー、NP0法人ウィズアス、） ・ときわ幼稚園の保護者などのカウンセリングを1/月行った。
今後の課題
・研究テーマ1)の実践研究の実行 ・これまでの継続研究の続行

教員名	畑 吉節未	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	SD委員長、新カリキュラム検討プロジェクト委員長				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	在宅看護学概論・在宅看護特性論・在宅援助論・チーム医療論（看護学科、医療検査学科）・災害看護・看護研究演習・看護活動基礎実習・健康支援実習Ⅰ・課題別総合実習				
担当科目コマ数	12.30				
本年度の課題					
1. 在宅看護学・災害看護学・多職種連携をはじめ、自らが担当し研究を行っている分野に関して、さらなる研究の蓄積を図り、国内外に発信するとともに、教育内容に反映させる。 2. 2022 年度スタートの第 5 次カリキュラム改正の準備を確実に遂行する。					
本年度の目標					
1) 研究成果を論文として外部により多く発信する。 2) 研究を深め、その成果を教育に反映させる好循環を生み出し、学生に還元する。 3) SD 委員長としての役割を確実に遂行し、活発な委員会活動を展開できる。 4) 新カリキュラム検討プロジェクトのリーダーとして計画的に準備を行う。 5) 大学内部・関連機関への研究支援を行う。 6) 活動のエフォートは、教育 40%・研究 20%・管理運営 20%・社会サービス 20%					
主な活動内容					
1)目標達成に向けた活動内容（目標ナンバーと対応） 1)7回の学会発表、1本の論文、2回の講演会で研究の成果を発信した。外部研究資金として継続中の科研費研究と兵庫県 ポストコロナ社会の具体化に向けた調査検討費補助事業 に取り組んだ。 2)「災害看護」「在宅看護」の授業や病院研修に、研究の成果を活用し研究と教育との循環を生み出すことができた。 3)SD委員会委員長としての役割を計画的に遂行し、コロナ禍での前期の遠隔授業の振り返りと後期の授業への活用に向けた研修会を行った。また年次活動計画や評価および認証評価の資料づくり作成の役割を担った。関西FD連絡協議会の幹事校としての会議に参加し役割を果たした。外部からの研修情報をタイムリーに全学発信した。 4)新カリキュラム検討プロジェクトの委員長として8月には学科FDとしての研修を行った。また申請					

の準備として委員会運営を計画的に確実に遂行した。 5)看護学科教員の科研費申請や学会発表の指導を行った。学外教員との共同研究を継続した 6)計画したエフォートにほぼ配分した活動を行えた。 2)教員としての主な活動内容 ・教育活動 [授業評価]単 独 科 目:在宅看護概論4.5 / 災害看護4.6 オムニバス科目:在宅看護援助論3.8/ 在宅看護特性論4.3 / チーム医療論4.1 ・研究活動 研究テーマ:「災害看護理論の開発」「災害看護教育プログラムの開発」「訪問看護ステーションの災害への備え」「地域連携室の退院調整看護師が担った学生への学習支援」「ポストコロナ社会の具体化に向けた研究」 研究テーマの現状:テーマごとに研究の全体像を描き、計画的に研究を遂行している。 専門領域:看護教育方法論の開発・評価、看護対人技能、災害看護、在宅看護、多職種連携 本年度の研究業績 詳細は「リサーチマップ」を参照 ・学会発表(7回) 学術論文(1編) 【講演・研修会講師・シンポジスト】 講演会・研修会 ①看護を語ることの意味 ケアのタペストリーを織りなす看護者のまなざしー/兵庫県立リハビリテーション病院講演会 ②災害時の在宅ケア ～軌跡からの学びと来たるべき災害への備え～寝屋川難病医療ネットワーク研修会(寝屋川市保健所) 【シンポジスト】 ① 第24回日本看護管理学会学術集会 シンポジスト 「訪問看護ステーション管理者がとらえた新型コロナウイルス感染症拡大期における事業継続の不安と困難、対応」 【外部授業】 ① 在宅の特性を踏まえ訪問看護ステーションの災害の備えをデザインする/笹川保健財団 ② 県立福崎高等学校 高大連携授業 【研究・活動支援】 【研究指導】 ①在宅看護学領域教員への学会発表・科研費申請書作成指導 ②洛和会訪問看護ステーション13か所(滋賀県)の研究指導 【活動指導】 ①神鋼記念病院の継続看護検討委員会のスーパーバイザー ②平成31年4月開設したときわ病院在宅支援課の運営のアドバイザー 【社会的活動等】 実習施設である 16 の訪問看護ステーションに適時新型コロナウイルス感染症に関する情報提供を行った。個々のステーションの相談や指導を行った。 今後の課題
--

--

教員名	柳本有二	所属学科等	N科	職名	教授
委嘱委員・職務	危機管理委員会 副委員長				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	健スポⅠ,Ⅱ,Ⅲ. 学校保健. 看護研究				
担当科目コマ数	8. 97				
本年度の課題					
授業における学生の自主的な活動の検討					
本年度の目標					
1. 遠隔授業の検討 2. 介護予防プログラムの開発・研究 3. 認知症研究					
主な活動内容					
1) 教育活動 遠隔授業のため、manaのプロジェクトを活用して、グループ発表を実施した。その内容は、学校保健に関連する内容を発表することにした。結果、全ての発表が共有できた。 スポーツの歴史からニューススポーツのあり方を考え、ノーマライゼーション的な身体活動について検討した。 健スポでは、アプリの歩数計を活用し、受講生が運動量を把握できた。そのことが、学生の学習を喚起したと思われた。					
2) 研究活動 研究テーマ：遠隔授業の充実 研究の現状：manabaとスマホアプリを活用して、授業展開を可能にできた。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 3 編） 著書（ 冊）					
3) 社会的活動等 ・シルバーカレッジ 講師 主催：シルバーカレッジ 他 講演（遠隔含む）10 本					
今後の課題					
日本ウォーキング学会会長として、全国にウォーキングの健康づくりを普及していく。					

教員名	庄司靖枝	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員会 委員長				

クラス担任	14.93	クラブ顧問	
担当科目名	小児看護学概論，対象論Ⅴ，小児援助論，母子支援実習Ⅰ，看護学研究，課題別総合実習（小児），大学道場miniゼミA，看護活動基礎実習		
担当科目コマ数	14.93		
本年度の課題			
1. 小児看護領域における演習（附属幼稚園での演習、卒業生参加の演習）の精錬 2. 「附属幼稚園での演習」の研究分析と「卒業生参加の演習」の論文作成			
本年度の目標			
（教育）小児看護領域における演習（附属幼稚園での演習、卒業生参加の演習）の精錬 （研究）「附属幼稚園での演習」の研究分析と「卒業生参加の演習」の①学生側からの演習の意義の研究結果と②卒業生が体験した演習からの結果の両側面から分析する			
主な活動内容			
1) 教育活動 小児看護領域に附属幼稚園での演習が本年度で3年目を迎え、演習内容を精錬する予定であったが、COVID19のため幼稚園での演習はできず、「卒業生参加の演習」に関しても演習内容を卒業生の意見を取り入れ行う予定であったがCOVID19のため卒業生参加はかなわず、演習方法もCOVID19の感染症対策に重点を置いた演習になり精錬することはできなかった。COVID19禍で病院・施設実習が一部中止になる中、学生の実習目標を達成するため、学内での演習内容や、方法に関しての工夫を行った。			
2) 研究活動 研究テーマ：「卒業生参加を取り入れた小児看護学演習の意義」について2018年に学生からのアンケートで意義を見いだせ、さらに演習に加わった卒業生から調査し、卒業生にも意義が見いだせた（2019）のでその両側面から演習の意義を見出す 研究の現状：両側面から「卒業生参加を取り入れた小児看護学演習の意義」についてまとめている。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）			
3) 社会的活動等 日本小児看護学会第30回学術集会 企画委員（2019年4月～2021年7月）			
今後の課題			
1. 小児看護領域における演習（附属幼稚園での演習、卒業生参加の演習）の精錬 2. 「附属幼稚園での演習」の研究分析と「卒業生参加の演習」の論文作成 3. 「地域活動拠点において看護学科が提供する All Generation の健康支援に向けた実践モデルの検討」より健康支援の現状のさらなる検討。			

教員名	生島 祥江	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	看護学科就職委員会委員長、看護学科臨地実習委員会委員長、FAST等企画運営ユニット委員長				

クラス担任	なし	クラブ顧問	なし
担当科目名	成人看護学概論、看護対象論Ⅱ、慢性病看護論、緩和ケア、リハビリテーション看護論、医療・看護特論Ⅱ、看護活動基礎実習、療養支援実習Ⅱ、療養支援実習Ⅲ、課題別総合実習		
担当科目コマ数	21.43		
本年度の課題			
・授業では、課題解決型学習を積極的に取り入れ、学修の到達目標の達成を図る。 ・臨地実習では、学生が体験する機会を活かし、学修の到達目標の達成を図る。 ・研究活動では、現在の研究成果をまとめ、発表する。			
本年度の目標			
・授業では、学修目標が到達できるような遠隔授業内容を実施する。 ・臨地実習では、臨地で実習できなかったとしても実習目標の到達を維持する。 ・研究活動では、現在の研究成果をまとめる。			
主な活動内容			
1) 教育活動 授業では、前後期ともに遠隔授業を実施した。遠隔授業であっても対面授業と同じような学修効果が得られるようmanabaを駆使したり、大学が整えたICT環境を駆使した。自宅での学習に取り組みにくい学生への学習喚起が困難であった。臨地実習では、臨地で実習できないと実践にかかる目標の到達は難しい面もあったが、看護の思考過程を充実させる工夫をして総合的に実習目標の到達を維持した。			
2) 研究活動 研究テーマ：療養支援実習Ⅱにおけるルーブリック評価基準の妥当性 研究の現状：データの収集・整理。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）			
3) 社会的活動等 臨地実習指導者研修会のパネルディスカッションのパネリストをつとめた。			
今後の課題			
・授業では、遠隔授業において、自己学習の活性化を図る工夫をする。 ・臨地実習では、臨地での受け入れ状況に応じて学習方法を工夫し、目標到達を維持する。 ・研究活動では、共同研究のデータの分析・成果をまとめる。			

教員名	十九百 君子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学生委員 国家試験対策委員 個人情報保護委員				
クラス担任	1年生		クラブ顧問	なし	
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・大学道場miniゼミB・生活健康論実習 基本看護技術Ⅱ・基本看護技術Ⅲ・基礎看護学実習				

	看護活動基礎実習・課題別総合実習・看護学研究 臨床技術入門
担当科目コマ数	23. 23
本年度の課題	
教育内容から教材・評価法を明らかにし、教育内容を深化させる授業の展開	
本年度の目標	
・教育内容の精選および授業方法の検討。 ・検討した効果的な授業方法の実施と評価。 ・学生が主体的に学修することを支援する。	
主な活動内容	
1) 教育活動 ・看護専門職として教育内容を精選し適切な教授法を活用し設計した授業・活動 ・授業後、自己の実践を省察・自己評価活動等、授業の振り返り等を行う授業・活動 ・臨床の場に出て実習（授業）を行う授業・活動 ・学生の悩みや学ぶ上でのつまずき等のサポート活動 ・留学生の大学生活上のサポート活動 2) 研究活動 研究テーマ：臨地実習における看護学生の経験の意味 研究の現状：文献検討 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0回） 論文（ 0編） 著書（ 0冊） 3) 社会的活動等 ・神戸常盤女子高等学校 2020 オープンスクール 協力 ・ともの家 認知症対応型ディサービス 支援活動 ・兵庫県新型コロナウイルス感染症コールセンター電話相談	
今後の課題	
・学生同士の対話やディスカッションが組み込まれた授業・活動に取り組むと共に、他の教員と連携し効果的な授業方法に取り組む。	

教員名	尾崎雅子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員会（委員長）、ときわ教育推進機構				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅳ、医療・看護特論Ⅱ、基礎看護学実習（看護過程）、看護活動基礎実習、生活健康論実習、課題別総合実習、看護学研究、大学道場miniゼミA、対人援助論（R科）				
担当科目コマ数	17.30				
本年度の課題					

教育活動と研究活動のバランスをとるようにしたい。教育活動については前年度の取り組みを継続する。研究活動については分析を終えたものは速やかに公表できるようにし、学生の変化を経年的に捉えるために4年生を対象とした研究に取り組む。
本年度の目標
・学修内容を学生と共有できるようにし、学習意欲を喚起させるような工夫（科目の位置づけ、学ぶ目的や学習成果の確認）をする。 ・研究活動については学生の情意領域の変化について、前年度までにデータ収集した内容は公表できるようにする。また4年生を対象にした研究を行う。
主な活動内容
1) 教育活動 今年度はコロナの影響により授業を遠隔で実施した。前期はPDF資料を中心に一部音声をつけた形で行ったが、後期は資料に沿って音声での説明をつけ、映像も資料できるよう工夫した。前期「基本看護技術Ⅳ（看護過程）」は遠隔10回、対面5回で行い、遠隔で行った内容を対面で繰り返し補うように進めた。また従来グループワークで行ったアセスメントの部分を個人学習とし、manaba上での個別指導とした。しかし、学修状況の把握が難しいことや学生からも不安な声が上がったため、時間外に少人数での学習会を実施した。授業評価は総合評価4.3（昨年4.5）とやや下がったが、学修成果は4.5と昨年と同様で、臨地実習の関連科目であるということもあり、学生は意欲的に取り組むことができていた。後期は今年度よりN4「医療・看護特論Ⅱ」、R1「対人援助論」を担当した。両科目ともすべて対面で行った。N4は後期の卒業に向けた最終確認の科目であることを確認した。学生は国家試験前ということもあり、意欲的な姿勢で、総合評価は4.2（学科4.2）であった。大学での授業の機会が減り、自主的に学習を進める時期であるが、やや心配な学生については個別のサポートを行った。R1「対人援助論」については診療放射線技師が医療の場における対人援助職の一員であることを認識し、本科目を学ぶ意味を確認しながら進めた。総合評価は4.4（学科平均4.3）であった。学生の反応を見ながら進め、一方向的に授業になっていたこともあり、学生からの意見にもあった。講義科目であっても、受け身ではなく、学生が興味を持って参加できるように今後も工夫していく必要性を感じた。 2) 研究活動 研究テーマ：「技術教育における看護学生の情意領域の変化」 研究の現状：2年次「基礎看護学実習」後のインタビュー結果については学会発表を行った。論文にまとめて報告する予定である。また卒業年次生を対象にインタビューを3月に実施したので現在はデータ分析中である。また、臨地実習における教員の関わりについて学生の視点より分析した内容についても学会発表を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）

3) 社会的活動等
・ 高校生への授業（高大連携活動）
・ R2年度 就進会（神戸大学医学部保健学科同窓会）会長賞 授賞
今後の課題
次年度は新たな担当科目が増える。中核とする内容が抜け落ちないように授業内容を再確認していく。そして講義、演習に関わらず学生の学ぼうとする意欲を低下させないように、参加型の授業を工夫する。研究活動については現在継続中のものを論文にまとめて公表することが課題である。

教員名	中田康夫	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ときわ教育推進機構、利益相反マネジメント委員会、新型コロナウイルス感染症対策本部・遠隔授業実施特命チーム、情報インフラ整備ユニット、看護学科4年生国家試験対策講座				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	まなぶる➤ときわびとⅠ、まなぶる➤ときわびとⅡ、超ときわびと、情報基礎、統計学、いのちと共生、コミュニティデザイン、保健統計学、医療統計学、対人援助技術演習、福祉社会の理解、プレゼンテーション技法、歯科診療補助演習Ⅲ				
担当科目コマ数	13.83				
本年度の課題					
● 基盤教育科目の意図する、「学ぶ喜び、知る愉しさ」を担当科目の中で具現化 ● Social Engagement の質量ともの充実					
本年度の目標					
● 教育活動では、アクティブラーニングの推進 ● 研究活動では、英文誌への投稿と国際学会での発表 ● 社会的活動の可能な限りの推進					
主な活動内容					
1) 教育活動 前年度の経験を踏まえ、「まなぶる➤ときわびとⅠ＆Ⅱ」における教授学習方法を他の科目にも援用し、前年度以上に学生の主体的・能動的な学修をサポートできるように工夫しつつ授業を展開した。具体的には、教授パラダイムから学修パラダイムへの転換の意識し、教員が「何を教えたか」ではなく、学生が「何を学んだか」に重点を置いた授業を展開することにより、学生が受け身的な学修から主体的な学修へとさらに深化していったと考える。					
2) 研究活動 研究テーマ：高等教育改革、高等教育質保証、介護予防、健康寿命の延伸 研究の現状：科学研究費補助金に、研究代表者として1件（「看護基礎教育における「数理・データサイエンス教育」のミニマム・エッセンシャルズ」）、研究分担者とし					

て1件（「教学PDCAのためのICTを活用したカリキュラム・マップの新汎用的可視化法の開発」）の計2件が採択され、いずれも3年計画で現在順調に経過している。研究分担者として高等教育に関する研究は、学会発表・論文投稿とも予想以上に順調に推移しており、また学内共同研究の成果もいくつか出すことができた。本年度も昨年度に引き続き、IEEE/International Institute of Applied Informatics (IIAI) International Congress on Applied Information Technology (AIT 2020) において Outstanding Paper Award を受賞することができた。一方、介護予防・健康寿命の延伸に関しては、コロナ禍のため実践が全くできず、研究が中断状態である。この点については、来年度も見通しが全く立っていないおらず、ペンディング状態となっている。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（12回） 論文（15編） 著書（ 冊）

本年度も昨年度同様、共同研究者とのコラボレーションが思った以上に推進でき、昨年以上のキャリアハイとなる業績を残すことができた。

3) 社会的活動等

1. 令和元年度長田区老人クラブ連合会主催の体力測定回の講師
2. 令和元年度きたすま在宅福祉センターすこやか友が丘の運営推進委員会の座長
3. 令和元年度長田区地域づくり活動助成公開企画提案回審査員
4. 令和元年度神戸市長田区社会福祉協議会福祉活動助成選考委員会 選考委員
5. 日本赤十字社和歌山医療センター看護部の指導者育成コース研修における人材育成や指導に関心のある看護師を対象とした「リフレクションとは？ その目的と方法」をテーマとした研修会の講師（全4回）
6. 日本赤十字看護学会誌 選任査読委員
7. Associate Editor: International Journal of Institutional Research and Management (IJIRM)
8. Program Committee: International Congress on Advanced Applied Informatics, II AI of 8th International Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI DSIR2019)

上記の活動はすべて過年度からの継続的な活動であるが、すべての活動に対して次年度も引き続き支援を要請されていることから、一定の社会貢献ができていると考えている。

今後の課題

- 介護予防・健康寿命の延伸に関する研究成果の産出
- 高等教育の質保証と学修成果の可視化に関する研究の推進
- 看護基礎教育における数理・データサイエンス教育のありかたの検討と推進
- 社会的活動として、現在進行中の「介護予防カフェ」のより一層の推進と深化

教員名	鵜飼知鶴	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員、就職委員、臨地実習委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	在宅看護特性論、在宅援助論、チーム医療論、健康支援実習Ⅰ、看護活動基礎実習、課題別総合実習、看護研究　ミニゼミA				
担当科目コマ数	15.53				
本年度の課題					
教育活動：在宅援助論の授業の改善　チーム医療論の事例検討の工夫					
研究活動：研究成果として論文による発信					
本年度の目標					
教育活動：プロジェクト学習を取り入れた在宅援助論の授業・演習を組み立てる。					
医療検査学科と合同のグループワーク方法の検討					
研究活動：地域連携実習での学びに関する研究の継続を実施し、学習支援の構造化を目指す。多職種への訪問看護マナーの強化に向けての調査研究					
主な活動内容					
1) 教育活動					
遠隔授業での演習では学生に作成した物品をスマートホンでの写真撮影し提出するよう指示した。学生は想像していた以上のリアルな描写の写真を添付し提出した。					
学内実習では初回訪問と看護過程の実施訪問の2回をロールプレイングした。1回目のロールプレイングでの振り返りを活かした2回目のロールプレイングが出来学生の自己肯定感が高まった。また学生間で療養者役、家族役をすることによりどのように関わることが効果的であるのか体験を通して理解することができた。					
2) 研究活動					
研究テーマ：地域連携実習における学習支援の構造化、病院に在籍する多職種のマナーへの認識に関する研究					
研究の現状：データ分析、論文作成中					
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照					
学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）					
3) 社会的活動等					
高大連携授業　三木北高校　「検査と看護」2年生22名を対象に講義を実施した。					
大学広報活動として看護学・神戸常盤大学の説明を業者説明会及び高校で実施した。					
今後の課題					
教育活動：演習科目での遠隔授業での効果的な教授方法を考える。臨地に変わる学内実習での効果的な学習方法を探求する。					
研究活動：昨年度から継続している地域連携実習に関する研究の学会及び論文発表等により研究成果を発信する。また、病院に在籍する多職種のマナー研修の効果をまとめ、明らかにし研究成果を発表する。					

教員名	魚崎須美	所属学科等	看護学科	職名	准教授
-----	------	-------	------	----	-----

委嘱委員・職務	就職委員会・委員、保健センター委員・委員		
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし
担当科目名	大学道場miniゼミ、看護活動基礎実習、地域看護学概論）、健康相談の理論と方法、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護展開論Ⅰ、公衆衛生看護展開論Ⅱ、公衆衛生看護展開論演習Ⅰ、公衆衛生看護展開論演習Ⅱ、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護実習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、看護学研究		
担当科目コマ数	17.97		
本年度の課題			
本学の理念に沿った保健師養成課程の運営を円滑に進め、専門職として社会に貢献できる保健師を輩出する。			
本年度の目標			
①保健師養成課程選択者が全員国家試験合格できる。 ②保健師として就職を希望する学生が、希望するところへ就職できる。			
主な活動内容			
1) 教育活動 目標①については、本課程履修希望者を定員の可能な限り受け入れ、国家試験受験資格取得に向けて必要な教育を行った。結果、本年度卒業者の保健師国家試験合格率は昨年度に続き全員合格を達成した。 目標②については、本年度卒業生のうち保健師として就職を希望した学生は1名。本人は産業保健師を希望していたが、結果的に病院地域連携部門の保健師として就職した。			
2) 研究活動 研究テーマ： ナイチンゲール文献を通してみる公衆衛生看護の萌芽 研究の現状：現在進行中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）			
3) 社会的活動等 全国保健師教育機関協議会ブロック理事、兵庫県看護系大学協議会公衆衛生看護学実習委員会委員、西宮市市民講座講師			
今後の課題			
2022 年度から始動する新カリキュラムを見据え、授業、実習の具体的な準備を進める。			

教員名	藤原 桜	所属学科	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員会委員、臨地実習委員会委員、広報委員会委員、国際交流センター委員、高大連携（明石南高校担当）				
クラス担任	2年Aクラス（2年学年担任）	クラブ顧問	ヨガ・アロマ部		
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護対象論Ⅰ、国際保健医療活動Ⅰ、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習、課題別総合実習、				

	看護研究
担当科目コマ数	23.93
本年度の課題	
1. 教育活動：看護技術の教育方法・内容の充実（特に TBL・フルスケールシミュレーション） 2. 研究活動：テーマ別研究（2017 年度）の成果を公表する（論文）。 3. 社会活動：人々の健康と QOL の向上に貢献できる社会活動を継続する。	
本年度の目標	
1. 教育活動：看護技術の教育方法および内容の充実を図る。また、リフレクティブな看護実践能力を育む、さらに、自分自身も省察的教育者としての力を培う。 2. 研究活動：テーマ別研究（2017 年度）の成果を公表する（論文）事ができる。 3. 社会活動：人々の健康と QOL の向上に貢献できる社会活動ができる。	
主な活動内容	
1. 教育活動：主担当科目（基本看護技術Ⅲ）は、COVID19 感染拡大により、中核の技術（VS の測定、呼吸音・心音の聴診）のみ対面授業とし、その他は遠隔（オンデマンド）で行った。そのため、診察は家族を対象に行ってもらった。また、TBL・フルスケールシミュレーションは中止し、教員がシミュレーターを診察する場面を撮影したオリジナル動画を、学生が視聴することで、疑似体験をする遠隔授業とした。結果、授業評価は、すべての項目で 4.0 以上であった。また、未履修者は 3 名いたものの、試験（対面）を受けた学生全員は単位を修得できた。さらに、学生の省察的態度は全員がルーブリック評価で可以上であった。さらに、授業後は、毎回授業担当者全員で振り返りを行い、より良い授業設計についてディスカッションを重ねた。以上のことから <u>本年度の目標 1 は、概ね達成できた</u> と考える。また、TBL フルスケールシミュレーションの代替として行った、オリジナル動画視聴からの学修成果は思いの外高かった。そのため、次年度は、今回得られた成果を取り込んだ授業方法を開発し、教育内容の充実を図りたい。 2. 研究活動：テーマ別研究（2017 年度）の成果は、論文にまとめている最中である。したがって、 <u>本年度の目標 2 は達成できなかった</u> 。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照。学会発表（2 回）学術論文（0 編） 3. 社会的活動等：本学子育て支援施設ときわんモトロクと、ときわんクニズカでアロマセラピー（アロマハンドクリーム作り）講座を開催した。これらのことから <u>本年度の目標 3 は達成できた</u> と考える。	
次年度の課題	
1. 看護技術の教育方法・内容の充実（特に TBL・フルスケールシミュレーション） 2. テーマ別研究（2017 年度）の成果を公表する（論文）。 3. 人々の健康と QOL の向上に貢献できる社会活動を継続する。	

教員名	黒野利佐子	所属学科等	保健科学部看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	看護師国家試験対策委員、委員長				

クラス担任		クラブ顧問	陸上部
担当科目名	ミニ道場ゼミ・国際看護活動論・国際医療活動論 II・異文化看護論 ・老年看護学概論・対象論 III・老年看護援助論・活動基礎実習・看護研究・療養支援実習 I・療養支援実習 II・課題別実習		
担当科目コマ数	17.70		
本年度の課題			
・ 国家試験対策におけるきめ細やかな個別の支援がまだ不十分 ・ 生活健康論の講義内容の工夫、もっと多くの学生に講義の主旨が理解できるための講義づくり・多文化共生もしくは在留外国人の生活支援を、長田区や兵庫区の地域と関連施設をフィールドにアクションリサーチを続行する			
本年度の目標			
・ 国家試験対策におけるきめ細やかな個別の支援 ・ 老年看護に担当を変更されたため、コロナ感染対策の遠隔授業など新たな挑戦に直面した ・ コロナ感染対策という制限の中で、多文化共生もしくは在留外国人の生活支援を、長田区や兵庫区の地域と関連施設をフィールドにアクションリサーチを続行する			
主な活動内容			
1) 教育活動 ・ 国家試験対策は結果として一名の不合格者を出してしまった。その学生こそ、普段の成績からは少し考えられないほど模試で点数が高く全国でトップレベルに躍り出ていたことから、もう少し一歩を踏み込んで個別の支援が必要な学生であった。反面、コロナ感染対策のため、私塾の期間限定や受験直前の集中国師対策講座などに一人も出席することなく、その一人を除いて全員合格となったことは、試験対策委員として学生に様々な学習方法・またはその情報を提供し、成績低迷者に対してもきめ細やかな対策が行えたことも大きく貢献していたと考える。 ・ 本年度は看護基礎領域から老年看護領域に変更となったため、教育の内容はもちろん、コロナ感染拡大予防対策として、遠隔授業におけるオンデマンドの音声や視覚+音声付きのパワーポイント教材の工夫、ズームやウェベックスを利用した双方向授業など、いろいろとチャレンジがあった。これまでの授業では絶対に大切なことは資料として残していたが、学生との双方向のやり取りで内容が多少は変わることがあった。しかしオンデマンドの資料は、そうしたダイナミクスが失われるため、資料作りで大変な労力を要した。その分これまで「曖昧でも伝える」と考えていた部分を文章や資料にすることで、学生はおろか、自分の中でも内容の整理ができた事は改善点としてあげたい。			
他大学では、昨年2月には遠隔授業の準備室を立ち上げ、オンデマンド配信に向けて着々と準備している処も少なからずあったが、本学ではこの部分における専門家のサポートが寡少で、一部の心ある事務職員、教員の熱い支援があってデジタルリテラシーの低い私でも何とか曲がりなりに、5月中旬より遠隔授業の試運転をこなしていった。この教員へのサポートの低さは、学生へのパソコンやWi-Fi 受信援助の遅さ、低さにも反映されている。これは特別対策室の教員・事務の方々個人を責めるわけではなく、大学のリモート授業構築のための			

人材・設備投資への設計不備を問題にするべきだと考えている。今年度に至ってもやはりこの分野に強い人材を特別に確保されたわけではなく、これまでの業務をこなしながら、デジタルリテラシーに強い心ある職員の方が職務の範疇を超えて支援を続けてくださる体制が続いており、大変残念である。

私事ではあるが、昨年末肉親の急病で突然休講したり、喪主として6日間ほどお休みをいただいた結果、シラバス通りに講義や演習が進まず、変更に変更を重ねながら大学の教務の方々には大変柔軟にそして思いやり深く対応していただいた。しかし受講する側の学生には多大な混乱をまねいたことと、反省しきりである。

2) 研究活動

研究テーマ：多文化共生・在留外国人の生活支援のアクションリサーチ

研究の現状：コロナ感染拡大予防対策の中、活動は極めて限定されたが、国際交流者エアハウス ヤドカリの在留外国人 数名の定期訪問や、11月初旬に昨年同様 大黒公園で、結核の検診に集まった住民を対象に健康キャラバンの活動が行えた。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表 (0 回) 論文 (0 編) 著書 (0 冊)

3) 社会的活動等

2020年5月17日神戸新聞にて 編集者山崎 史記子氏との対談「新型コロナとの共生に必要なこと」の記事が記載された。

2020年7月兵庫人権啓発協会から依頼を受け、同協会のジャーナル きずな、「多文化共生に向けた生活支援の取り組み：医療だけでは解決できない生活・労働・環境の問題」を執筆発表した。

今後の課題

- ・国家試験対策におけるきめ細やかな個別の支援
- ・老年看護に担当を変更されたため、コロナ感染対策の遠隔授業など新たな挑戦に直面した
- ・コロナ感染対策という制限の中で、多文化共生もしくは在留外国人の生活支援を、長田区や兵庫区の地域と関連施設をフィールドにアクションリサーチを続行する

教員名	島内 敦子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	図書紀要委員会、就職委員会、国家試験対策委員会、高大連携				
クラス担任	なし		クラブ顧問		
担当科目名	看護活動基礎実習、母性看護学概論、看護対象論Ⅳ、母性援助論、医療・看護特論Ⅱ（医療専門職の動向）、大学miniゼミ、臨床技術入門、母子支援実習Ⅱ、課題別総合実習、看護学研究				
担当科目コマ数	23. 23				
本年度の課題					

① 講義内容の精選
② 神戸大学周産母子センター開催「ハッピーかるがもの会」の協働企画の充実と内容の拡大
本年度の目標
①講義内容の工夫と学生の主体的な学修支援を行う。
②学生主体の協働企画の内容を吟味し、充実を図る。
主な活動内容
1) 教育活動 母性看護学概論から母性援助論、母子支援実習Ⅱまでつながりのある教育内容に徹底することに心がけた。しかし、COVID-19禍において対面での講義が十分でない状況での工夫が必要であった。その中でも、分娩期・産褥期・新生児フィジカルアセスメントに関する演習は、4年生の協力も元、屋根瓦教育を行い、効果的であった。 学生の主体的な学びを触発するために、看護対象論Ⅳでは生殖医療に関する倫理についてディベート、母性援助論ではロールプレイを取り入れた。このことにより学生自身が主体的な学び方や喜びを感じる講義内容ができたと考える。これについては、学生からの授業評価においても好感触であった。
2) 研究活動 研究テーマ：①災害時における母子支援 ②COVID-19禍における母性看護学の講義工夫 研究の現状：①②共、文献検討中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）
3) 社会的活動等 ①甲子園短期大学 性教育講義 ②高大連携 明石南高校授業 1回（性教育） ③高大連携 福岡授業 1回 （チーム医療）
今後の課題
神戸大学周産母子センター「かるがもの会」の充実を図るとともに、同様の内容を実習病院にも開催できるような基盤を構築する。 授業内容（特に屋根瓦教育）の効果についての検証を続けていくと共に、COVID-19禍における授業工夫を考える必要がある。 今年度の COVID-19 禍を災害と捉え、災害時における母子支援、および災害に備えた母子支援準備についての研究を、今後検討する。

教員名	山口有美	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	SD委員会、危機管理委員会、大学親睦会				

クラス担任	4年Aクラス	クラブ顧問	なし
担当科目名	miniゼミB、基本看護技術I、基本看護技術II、基本看護技術IV、感染看護学、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習、課題別総合実習、看護学研究		
担当科目コマ数	24. 37		
本年度の課題			
①4年生の担任として学習面と学生生活面のサポート（継続）			
②複数担当の科目責任者として教員間の調整を図り円滑な授業運営（継続）			
③臨地実習における実習目標達成の為学生の個別性を考慮した効果的な実習指導（継続）			
④SD 委員会委員としての活動（学科内 FD 活動の計画立案から実施評価）（新規）			
⑤科学研究費の延長による最終年度の為停滞していた研究活動を活発化し国際学会を含む研究成果など公表活動（継続）			
本年度の目標			
①4年生の担任として学習面と学生生活面をサポート（継続）			
②複数担当の科目責任者として教員間の調整を図り円滑な授業運営（継続）			
③臨地実習における実習目標達成の為学生の個別性を考慮した効果的な実習指導（継続）			
④SD 委員会委員としての活動（学科内 FD 活動の計画立案から実施評価）（新規）			
⑤科学研究費の延長による最終年度の為停滞していた研究活動を活発化し国際学会を含む研究成果など公表活動（新規）			
主な活動内容			
1) 教育活動			
・手厚いサポートを必要とする学生に対して面談を重ね必要なサポートを受けられよう に適切な報告、連絡、相談を行いながら年間を通して経過をフォローした。また、必要 に応じて学生と連絡を取り卒業に向けて学習の継続を図れるようにサポートした。			
・複数担当の科目責任者として、学習効果の向上させるため効果的な授業運営を行う為 毎回教員間の調整を図った。コロナ禍において授業計画や期末試験の変更を余儀なくさ れたが、担当教員の協力を得ながら対応した。そして学生個々の学習状況を教員間で共 有を図り学習支援を行った。			
・manabaを活用した遠隔授業を行うにあたり幅広く情報収集し効果的な学習コンテン ツの作成を試みた。オンデマンド型の遠隔授業においても、学生の声にできるだけ速や かに対応するようにした。			
・臨地実習では、実習目標を達成させるために学生個々の課題を考慮し指導した。コロナ 禍での臨地実習だったため学内実習を併用しながら行ったが、実習目標を達成させるこ とができた。			
2) 研究活動			
研究テーマ：看護教育のプロンプト付加による記憶強化のための効果的なVDT画面設 計			
研究の現状：コロナ禍で学生を対象とした実験研究ができなかったことから急遽、全 国の看護系大学の解剖生理学の授業担当者を対象に質問紙調査を行った。現在、質問			

紙調査の結果を集計し論文を執筆している段階である 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 駒ヶ林中学校市民救命士講習会のインストラクターとして活動した
今後の課題 ・臨地実習における実習目標達成の為学生の個別性を考慮した効果的な実習指導(継続) ・SD 委員会委員としての活動（学科内 FD 活動の計画立案から実施評価、公開授業見学記録の見直し）(新規) ・コロナ禍における授業方法の検討（新規） ・研究成果の公表（継続）

教員名	岩切 由紀	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員会委員、看護学科臨地実習委員会委員（副委員長）				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護研究方法論、クリティカルケアⅠ・Ⅱ、療養支援実習Ⅱ・Ⅲ 課題別総合実習、miniゼミA				
担当科目コマ数	25.00				
本年度の課題					
1. クリティカルケアⅠでの基本的な看護過程と急性期看護の理解から実習と連動させる 2. 療養支援実習Ⅱ・Ⅲのルーブリック評価導入後の検証（研究含む）による教育の統一 3. 理解しやすい看護研究方法論の展開と評価					
本年度の目標					
1. 看護研究方法論、クリティカルケアⅠ・Ⅱなど遠隔授業における学習内容の質の担保 2. 課題別総合実習、療養支援実習Ⅱ・Ⅲの臨地実習での学習を補償する学内実習の構築 3. 研究時間の確保とその成果を出すこと					
主な活動内容					
1) 教育活動 （1）授業科目では新型コロナウイルス感染対策のため遠隔授業となった。そのため昨年度以上に授業内容を精選することとなった。遠隔授業でも動画配信とし学内授業に類似した方法とした。遠隔授業では課題提示により学習の定着と理解状況の把握の必要があるが、後期は臨地実習指導のため時間確保の問題からオンライン上、十分に対応できたとは言えない。 授業評価では昨年度より学生の評価が低下した科目はなかったが、クリティカルケアⅡの評価は最も低く総合4.1であった。内容的にクリティカルケアに関するリアリティ感に欠ける内容と方法であったかと考え次年度は修正する必要がある。 看護研究方法論、クリティカルケアⅡでは、後半にグループワークを設定しており対面授業とした。学生の反応も捉えやすく学生の満足度も高いようであるが、遠隔授業段階で脱落					

する学生も複数名あった。教育目標を達成するためには授業への参加が大前提となるため、関心を得られる工夫と脱落傾向にある学生への介入も課題となった。 (2) 臨地実習では感染対策上、学生の受け入れが困難である、もしくは制限により大きく方法を変更した。病院での実習時間を半分とするもとや学内実習への置き換えとなった。学内での実践的な演習の構築や、視聴覚教材を用いた学習内容としたが、臨地実習で学ぶ患者やスタッフ集団の中での行動など未修得事項は多い。看護学科3年生では4年次課題別総合実習で充足していく必要がある。次年度も学内実習となる前提も含めシミュレーション教育について充足するための準備（学習・機器類）が必要となる。
2) 研究活動 研究テーマ：1. 超急性期重症外傷患者の身体機能の安定化に向けた熟練看護師の看護ケアの構造分析 2. 療養支援実習Ⅱ（疾患・障害をもつ人の看護）におけるルーブリック評価基準の妥当性の検討 研究の現状：1. データ分析中 2. データ収集中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 1冊）
3) 社会的活動等 日本救急看護学会調査研究委員会 学術集会
今後の課題
1. 看護研究方法論、クリティカルケアⅠ・Ⅱの学習内容の質の担保 2. 臨地実習での学習内容の保障と内容を担保できる学内演習の構築 3. 研究論文の作成と投稿で成果を明確にする。

教員名	立垣 祐子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員会委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	-		
担当科目名	まなぶるときわびと，精神看護特性論，精神援助論，健康支援実習Ⅱ（精神），看護学研究，課題別総合実習（精神看護），医療・看護特論Ⅱ				
担当科目コマ数	22.67				
本年度の課題					
－					
本年度の目標					
1) 教育活動目標：『精神看護における地域包括ケア教育モデル（試案）』を完成する。					
2) 研究活動目標：研究成果を発表・投稿する。					
兵庫県看護系大学協議会の研究活動に積極的に参加する。					

3) 社会活動目標：兵庫県看護系大学協議会の実践活動に積極的に参加する。 日本災害看護学会の活動に積極的に参加する。
主な活動内容
1) 教育活動 本年度の教育活動は①緊急性の高い教育活動と②新カリキュラムに対応した教育活動に区分される。①については、今後も安定した実習施設確保のための継続的な取り組みを要すると考える。②については、新カリキュラムに対応した臨地実習の変更を検討するとともに、現行の授業・演習・実習の授業構成の見直しに着手した。 ①緊急に生じた教育活動の実施 a) <u>実習施設との関係改善，および新規実習施設(精神科病院)の開拓</u> 本年度、4施設での実習が予定されていたが、2施設からは実習に対する本学の指導への指摘があった。さらに2施設からは実習受け入れ中止との回答であった。そこで、指摘を受けた実習施設については改善策を提示し、今後も受け入れ継続となった。受け入れ中止となった2施設については系内の人脈をもとに新規施設の開拓を行い、受け入れの内諾を得た。 b) <u>コロナ禍における臨地実習の中止，および代替授業案の立案と実施</u> 3年後期に開講される「健康支援実習Ⅱ(精神)」では、一部のグループで病棟実習を行うことが出来なかった。そこで病棟実習と同様に精神障害をもつ当事者や看護実践家に直接学生が出会えるよう、これらの人々を学内に招聘した。系内の役割として代替授業案の立案を立垣が担当し、招聘者の選任や調整、実施については西村講師が担当した。学生からは「実習地には行けなかったが、患者さんや看護師さんに実際に会えて嬉しかった」という発言が多数確認された。 ②新カリキュラムに対応する教育活動の実施 a) <u>地域包括ケアを見据えた新規実習施設の開拓</u> 地域包括ケアを前提とした精神看護の現象に出会う実習環境を整えることを目標として精神科病院以外(福祉サービス事業所等)の実習施設開拓を行った。 b) <u>精神科看護師を志向するジェネラリスト教育の推進</u> 精神医療における退院促進という従来の施策に加え、新型コロナウイルス感染症の社会的影響は、最前線で心のケアを行う精神科看護師の需要にも繋がっている。この社会的な要請に応えるべく「看護理論に基づいた本質的な授業」と「リアリティを重視した実践的な実習」を連動させ展開することにより、精神科看護師を志向する学生の育成に繋がった。 2) 研究活動 ①研究課題：「災害発生時における精神障害者の適応的行動を促進させる介入支援モデルの開発」(研究代表者) 研究資金/科研費 基盤研究(C)19K10579 進捗状況/データ分析 ②研究課題：「COVID-19感染者の療養中から社会生活の復帰における感染者のQOLに

関する研究-withコロナ社会における看護職者の役割-感染者の対応について保健所保健師が経験した困難・葛藤からの分析」(研究分担者) 研究資金/令和2年度 兵庫県立大学 新型コロナウイルス関連研究事業 進捗状況/2021年9月学会発表予定 ③研究課題：「精神科病院における褥瘡発生の実態と発生要因に関する前向きコホート研究」(研究分担者) 研究資金/兵庫医療大学看護学部 研究活動支援費 進捗状況/投稿論文作成 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表(2回) 論文(0編) 著書(0冊)	
3) 社会的活動等	
①研修会講師「居宅介護支援事業所特定事業所加算要件に伴う合同研修 精神疾患について学ぶ」, 2020年11月4日, 猪名川町社会福祉会館. ②兵庫県看護系大学協議会 研究メンバー ③日本災害看護学会 第22回年次大会 シンポジウム座長 ④日本災害看護学会 査読委員 ⑤日本災害看護学会 ネットワーク活動委員会 委員 ⑥日本災害看護学会 教育活動委員会 委員 ⑦日本災害看護学会 先遣隊メンバー ⑧日本災害看護学会 ネットワーク活動調査・調整部メンバー ⑨日本災害看護学会 代議員選出(任期:2021年9月~) ⑩日本リウマチ看護学会 指名理事	
今後の課題	
本年度の目標として掲げた事項を計画的に遂行する.	

教員名	西村充弘	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	図書紀要委員・就職委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	精神看護援助論、看護研究、健康支援実習Ⅱ（精神）、 課題別総合実習（精神看護）、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	22.27				
本年度の課題					
・ 依存症家族支援のための介入プログラムの効果について公表する。 ・ 授業の中に兵庫精神医療の歴史について資料を整理し取り入れる。					
本年度の目標					
精神看護における地域包括ケア教育モデル（試案）の完成。					
主な活動内容					

1) 教育活動

コロナ禍で臨地実習中止となり、代替え授業案として、精神障害をもつ当事者や精神看護の実践家を招聘した。

学生は当事者の入院経験や地域での生活を聞き、この当事者に必要な看護援助をセルフケアの視点から看護計画を立案した。後日、学生が立てた看護計画を当事者と一緒に意見をもらいながら修正を行った。

精神看護の実践家からは、精神に障害をもつ当事者をどのように地域で支援をしているのか、現状を知ることが出来た。

学生からは「精神障害をもつ当事者が身近に思えた」とか「精神看護に興味を持った」など、前向きな感想が聞けた。

次年度も地域包括ケアを前提とした精神看護を取り入れていきたい。

2) 研究活動

①研究課題：依存症を持つ当事者と家族への支援

研究の現状：依存症家族支援のための介入プログラムは継続をして行っているが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が張る例をされたことも有り、効果について検討が出来なかったため継続となる。

②研究課題：兵庫精神医療の歴史の調査

研究の現状：兵庫精神医療の歴史について現在持ち合わせている資料を整理し、授業に取り入れた。しかし、一部現状を再調査してみると、古い資料には存在をしていた建物が改築されていた。持ち合わせる資料を参照にして、再調査の必要性が生じている。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）

3) 社会的活動等

- ・兵庫県新型コロナウイルス感染症コールセンター電話相談 5月
- ・神戸市東灘区老人会 健康相談（心の相談）6月28日

今後の課題

- ・本年度の目標事項の計画的遂行。

教員名	阿児馨	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員会・就職委員会・まちの保健室・介護予防事業				
クラス担任	3年生担任	クラブ顧問			
担当科目名	看護教育論、老年援助論、看護活動基礎実習、療養支援実習ⅠⅡⅢ、課題別総合実習、看護学研究				

担当科目コマ数	21.23
本年度の課題	
1) 感染症拡大などの緊急事態に備え、学生への対応と学修保証 2) 療養支援実習Ⅰの臨地実習の調整と実習展開の工夫・評価 3) 研究活動を計画的に進める 4) 感染症拡大によりまちの保健室の活動が中止となった。	
本年度の目標	
1) 履修登録、非常勤講師の manaba システムへの対応により学生の学修保証をする。 2) 療養支援実習Ⅰの臨地実習先との調整や実習展開方法の検討と評価を行う。 3) 研究活動を計画的に進める 4) 感染対策の上で健康相談、講座などの地域での活動を行う。	
主な活動内容	
1) 教育活動 遠隔授業や学内演習方法について、情報収集を行い、学生の要望も聞き、manabaの学習システムを使い授業を行った。また療養支援実習Ⅰでは、学生が臨地実習で経験ができるように調整を行った。施設へ行けない学生の為に担当教員間で検討し、工夫をして実習を展開した。	
2) 研究活動 研究テーマ：	
① 「病院の規模による医療安全風土が看護師の職務満足度に与える影響の相違に関する検討」(共同) ② 「看護学生と歯科衛生学生との合同演習による専門職連携教育の効果」(共同) ③ 「特別養護老人ホームにおける口腔衛生管理の効果」 ④ テーマ別「地域における共生社会の実現に向けた総合的研究」 外国人技能実習生に関連する研究 ⑤ 療養支援実習Ⅱにおけるルーブリック評価基準の妥当性の検討	
研究の現状：	
① 医療マネジメント学会誌に論文投稿中 ② 長期的視点でデータの解析中。 「歯科衛生学生と看護学生の合同演習による専門職連携教育の効果」 日本歯科衛生学会第15回学術大会 2020 (共同) 発表。 ③ 2021年テーマ別研究へ地域研究として申請(共同) ④ 協力者として活動中。健康相談の問診票の検討。社会情勢から研究課題の見直し中 ⑤ 協力者としてデータの収集と分析を行っていく。	
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照	
学会発表 (1 回) 論文 (編) 著書 (冊)	
3) 社会的活動等	

・長田区の健康センターからの依頼、区の結核健診併設の健康相談を実施することで外国人を含む地域住民の健康予防活動を行った。 ・県からの依頼で新型コロナウイルス感染症24時間電話相談を大学勤務時間後の夜間2日間行かせて頂いた。 ・まちの保健室ボランティア活動（1回） ・神戸常盤大学の介護予防事業として講座他（2回）。
今後の課題
・地域における共生社会の実現に向けて、自己の研究課題の明確化 ・「専門職連携教育の研究」「地域研究」他学科教職員との研究活動 ・演習授業、実習評価の検討

教員名	永島聡	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員会、健康保健センター(学生相談室)、地域交流センター(B)、教職支援センター				
クラス担任		クラブ顧問	軽音楽部		
担当科目名	教育心理学、生徒指導論、教育相談、養護実習Ⅰ、事前及び事後の指導、養護実習Ⅱ、教職実践演習(養護)、看護学研究、教育相談、生徒・進路指導論、大学道場miniゼミA、まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ、心理臨床学、心理臨床学、人間関係論				
担当科目コマ数	14.00				
本年度の課題					
● 新たな心理学的知見の獲得 ● 学問を学生とともに楽しむ能力の更なる向上					
本年度の目標					
● これまで持っていなかった心理療法理論に関する知識を新たに1つ以上獲得する。 ● 受講者数の多い授業である「人間関係論」「心理臨床学」の「学生による授業評価調査」において、「授業は知的関心や好奇心を起こす内容であった」「自分にとって新しい考え方・発想を得ることができた」「この授業を受けて満足している」の項目についてそれぞれ平均4点以上を目標とする。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
● オープンダイアログおよびメンタライジングについての知見の獲得 ● 視聴覚教材の駆使(特にオンライン授業の動画作成)、講義における言葉の選び方、学生との直接的やり取り等、授業方法の工夫					
上記の活動等により、本年度に関しては授業評価の目標点数は達成できている。					
● 「学生相談サロン」等における学生相談活動					
上記の利用者は実人数35名、延べ人数85名であった。					

2) 研究活動
研究テーマ：教育相談へのフランクル理論の応用
研究の現状：特別支援学校等での教育相談活動において実践および情報収集中
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（ 1回） 論文（ 2編）
3) 社会的活動等
● 高等学校、特別支援学校等での教職員研修 ● 高校生へのメンタルヘルス研修
今後の課題
● 心理学的知見の深化 ● 学問を学生とともに楽しむ能力の更なる向上

教員名	原 希代	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国家試験対策委員長 臨地実習委員				
クラス担任	看護学科1生Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	在宅看護援助論・在宅看護特性論・健康支援実習Ⅰ・課題別実習・看護研究・まなぶるときわ人				
担当科目コマ数	16.60				
本年度の課題					
神戸常盤大学就任1年目となる。また、在宅看護学領域において、自らの教育体制の確立が課題であると考えられる。 研究に対する課題は、コロナ禍において研究遂行が一時的に中断せざるをえなかったため、まずは、研究の再開を目指す。そして、看護教育に関する研究を開始することが課題である。 地域貢献においては、就任1年目と業務遂行が優先されがちであるが、本年度は地域における基盤づくりを課題とする。					
本年度の目標					
・在宅看護学領域における自らの教育基盤の確立を行う。 ・看護研究における再開・看護教育研究を遂行する。 ・地域貢献における基盤を確立する。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
・在宅看護学領域における教育内容の分担を行った。 ・看護研究における再開・看護教育研究を遂行し、その結果を大学授業内容に反映し、学生の教育の質向上に寄与する。					
2) 研究活動					
研究テーマ：医療的ケア児とその家族に関する研究					
研究の現状：①「医療的ケア児とその家族における集いの効果」は執筆中である。					

②「障害児のきょうだい行動特性と親の養育態度の関連性」は倫理申請中である。 ③「訪問看護ステーション熟練看護師における暗黙知」は実施予定である。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 医療的ケア児とその家族の集い「Café Aoba」開催 障害児きょうだいにおける支援・広報活動
今後の課題
本年度は、教育及び研究・地域貢献に対して基盤の確立が課題であるため、今後はそれらに対する効果を明文化する。

教員名	中村由果理	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会・広報委員会・神戸常盤地域交流センター・国家試験対策委員会				
クラス担任	4年生Bクラス	クラブ顧問			
当科目名	基本看護技術Ⅰ～Ⅲ、看護活動基礎実習、基礎看護学実習、課題別実習、生活健康論実習、看護教育論、看護学研究、まなぶる▶ときわびと				
科目コマ数	25.20				
本年度の課題					
学生個々を大切にした教育を実践していく。 研究活動の充実を図る。					
本年度の目標					
1．基礎看護学の授業を通して学生個々と向き合い看護実践につながる教育を行う。 2．看護学実習における看護教員の関わりについて研究を進めていく。					
主な活動内容					
1) 教育活動 基本看護技術Ⅰにおいては、寝衣交換・栄養摂取・食事の援助に関する講義を担当した。 基本看護技術Ⅱにおいては、呼吸を整える技術・栄養管理に関する看護に関する講義を担当した 基本看護技術Ⅲにおいては、筋骨格筋系のフィジカルアセスメントに関する講義を担当した。 看護教育論では、継続教育の現状と課題についての講義を担当した。 看護学研究では、退院調整についてやパーキンソン病患者への看護について等を指導した。					
2)研究活動					

研究テーマ：看護学実習教育に関する研究
研究の現状：テーマ別研究に「学生が看護学実習において学習意欲が向上したと感じた教員の間主観的な関わりー学生の視点からー」採択され、その後、第46回日本看護研究学術集会で発表を行った。また、常盤フォーラムでも発表した
本年度の研究業績：(research map 参照)
学会発表（2回）論文（編）著書（冊）
3) 社会的活動等
神戸総合医療専門学校 言語聴覚士科、理学療法士科に「吸引」に関する講義を行った
今後の課題
基礎看護学の授業を通しておおむね達成できた。 研究活動として、看護学実習における看護教員の関わりについて明らかにしていくため、本年度は実習における学生と教員との間主観的関わりについては発表を行えた、今後は論文投稿していく。さらに、コロナ禍となり実習方法などの課題があり、来年度は実習方法の検討に向けても研究をしていく予定である。

教員名	伊東 美智子	所属学科等	看護	職名	助教
委嘱委員・職務	看護師国家試験対策委員、まちの保健室				
クラス担任	N4	クラブ顧問			
担当科目名	母性援助論、母子支援実習Ⅲ（母性）、課題別総合実習、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	27.40				
本年度の課題					
① 母性看護学教員として、役割を果たす必要がある。					
② コロナ禍にて、医療専門職として可能は限り拡大して感染予防対策活動に臨む。					
③ 研究発表したものの論文化が遅れており、博士課程（後期課程）での研究活動と大学本務との両立が未知数である。					
本年度の目標					
① 母性看護学教員として、役割を果たせるように努める。					
② 学内・学外における新型コロナウイルス感染症対策に積極的に加わる。					
③ 研究発表したものの論文化が遅れているので、博士課程（後期課程）での研究活動と大学本務との両立に励む。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
①学生個々の特性への配慮が求められるので、実習ごとに学生のレベルや状況に合わせた指導と共に、新型コロナ感染予防対策にも努めながら、上司や科目担当教員と連絡を密に取り合いながら臨んだ。					
2) 研究活動					
研究テーマ： ①社会人経験看護学生、②新型コロナ禍が与えた大学教員への影響研究					
研究の現状：①大きな節目として、社会人経験看護学生に向けた研究が科研に採択され					

た。そこで得た研究費を活かしながらデータ分析と結果の整理を進めている。学会での示説発表を重ねながら考察を深化させ、論文化に取り組んでいる。②今年度の新しい取り組みとして、学外教員との共同で新型コロナが大学教員に与えた影響についてWebでの国際学会で発表を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 6 回） 論文（ 1編が査読中） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 ・兵庫県新型コロナ対策コールセンターに、電話対応職員として計4回出務した。 ・本学のオンライン公開講座「今の母乳育児～デューラ効果を手掛かりに」の講師を務めた。 ・本学まちの保健室（子育て支援）は新型コロナの影響で活動自粛中である。 以上より、目標達成は項目個々に達成度に違いはあるが、精一杯取り組んだ。 今後の課題 ・母性看護学教員として役割を果たせるように、感染予防対策にも務めながら、継続して努める。 ・本年度、科研費申請が採択されたので、それとも併せて博士課程（後期課程）での研究活動と、大学本務との両立に励む。
--

教員名	尾崎優子	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	SD委員会 委員 看護学科 就職委員会 委員 看護学科 臨地実習委員会 委員				
クラス担任	1年生		クラブ顧問	なし	
担当科目名	看護対象論ⅴ、小児援助論、看護活動基礎実習、基礎看護学実習、母子支援実習Ⅰ、課題別総合実習、まなぶるときわびとⅠ、地域との協働A				
担当科目コマ数	24.70				
本年度の課題					
各授業科目の担当数を目標通り増やすことができ、また、演習企画・実施も継続して行うことができた。これまでは実施することが目標となっていたため、実習での評価や国家試験対策との関連も考慮した評価ができるよう努める。また、本年度は委員会活動が増えたが、職責を全うすることができた。研究活動においては参加する研究チーム数は増加したが、論文投稿が課題である。					
本年度の目標					
・ 小児看護学関連授業担当数をさらに増やし、実習と関連付けて評価していく。 ・ 上記委員会に加え、新1年生の担任としての職責を果たす。 ・ 学会活動、論文投稿を積極的に行う。査読付き論文1篇以上投稿する。					
主な活動内容					

1) 教育活動 ・ 各科目授業の実施（3コマ）および補佐（Covid-19に対応した遠隔授業を実施） ・ 臨地実習を想定した学内演習の計画・実施・評価（小児援助論） ・ 各臨地実習指導、レポート指導、実習評価 ・ Covid-19の影響により実習施設での実習ができなかった学生に対する臨地に準じた学内実習の構築・実施・評価 ・ 臨床指導者会へのweb会議 ・ 基盤教育分野（前期まなぶる、地域との協働Aのうち1コマ分）の授業の実施 2) 研究活動 研究テーマ： 1.令和元年度テーマ別研究（地域研究）：多文化化する地域の健康課題に関する包括的研究」（代表者：濱田道夫学長） 2. 博士課程における研究 研究の現状： 1に関しては、成果を学内発表（学術フォーラム）にて共同研究者が発表した。 2については、論文を関連学会に投稿したがふるわず、修正して別学会に投稿準備中である。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0回） 論文（ 0編） 著書（ 0冊） 3) 社会的活動等 特になし
今後の課題 ・ 講師に昇任したことも踏まえ、小児看護学の諸授業において第一の主体となってこれまで以上に授業を担っていくと同時に、母子支援看護学領域全体を俯瞰し、他教員とよく連携して講師としての役割が果たせるよう努める。 ・ 委嘱委員が一部変更され、新たに入試広報委員会委員が加わった。入試の実施・広報に関わる仕事の内容をよく理解し実行する。 ・ 前年度に引き続きクラスを担当する。Covid-19 の影響等も考慮しながら学生のサポートを継続する。 ・ 研究活動においては、論文投稿をリトライすること、博士課程の修了に博士論文の執筆作業を進めること、科研費申請を継続して取り組むことが課題である。また、小児看護学領域の研究に取り組んでいくことを課題とする。 【次年度の目標】 ・ 担当する小児看護学授業を主体となって運営していく。 ・ 新たに委嘱された入試委員の職責を果たす。 ・ 新2年生の担任としての職責を果たす。 ・ 学会活動、論文投稿を積極的に行う。査読付き論文を投稿する。

教員名	紀ノ岡 浩美	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国家試験対策委員、国際交流センター委員、				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	地域との共働A、まなぶるときわびとⅠ、国際保健医療活動Ⅱ、課題別総合実習、看護活動基礎実習、基礎看護学実習、療養支援実習Ⅱ、療養支援実習Ⅲ				
担当科目コマ数	27.43				
本年度の課題					
博士後期課程に進学する テーマ別研究（ルーブリック）を終了させ、論文としてまとめる 研究ブランディング事業の一環としての研究を論文にまとめる					
本年度の目標					
博士後期課程に進学するための研究計画書を作成する テーマ別研究を論文として発表する					
主な活動内容					
1) 教育活動 地域との協働Aの授業として「サービス・ラーニング」の講義をマナバ上で実施。 各実習における実習指導と学内実習の実習計画案を立案し実施。 まなぶるときわびとⅠにおいて学生への講義及び指導を実施。 国家試験対策委員として3年生の国家試験対策を担当。					
2) 研究活動 研究テーマ：療養支援実習Ⅱにおけるルーブリック評価基準の妥当性の検討 研究の現状：2020年3月に倫理審査を通過し、研究方法に則り研究を進めている。 2021年の学術フォーラムにて研究成果を発表する予定である。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）					
3) 社会的活動等 多文化共生の一環としてベトナム人技能研修生に対して授業を実施。					
今後の課題					
テーマ別研究（ルーブリック）を論文としてまとめ、紀要に投稿する。 新たにテーマ別研究（リカレント教育）を実施し、学会で発表する。 昨年度の実習形態に関する研究を実施し学会で発表する。					

教員名	松岡 真菜	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	臨地実習委員会、KTU委員会				
クラス担任	4年生Bクラス担任	クラブ顧問			

担当科目名	なぶるときわびとⅠ 看護活動基礎実習 課題別総合実習 基礎看護学実習Ⅰ 療養支援実習Ⅱ 療養支援実習Ⅲ
担当科目コマ数	27.30
本年度の課題	テーマ別研究を行う
本年度の目標	テーマ別研究の論文を作成する
主な活動内容	1) 教育活動 実習指導 2) 研究活動 研究テーマ：ループリック評価 研究の現状：データ収集 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 行っていない。
今後の課題	テーマ別研究を行う

教員名	光安早織	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	教務委員・国家試験委員会・実習委員会・地域交流センター・保健センター				
クラス担任	2年生	クラブ顧問			
担当科目名	健康相談の理論と方法、公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ・まなぶるⅡ				
担当科目コマ数	18.40				
本年度の課題	・学生が関連分野に興味をもてるように、身近な事例から学ぶことができるよう授業案を作成し、展開していく。				
本年度の目標	・授業や指導案を充実させ、学生の学びを深める。				
主な活動内容	1) 教育活動 新型コロナウイルスの影響で、臨地に行くことが難しい状況が続いていたが、学内で実習案を作成し、訪問場面や電話相談場面の事例を展開し、臨地指導者と連携を取りなが				

ら学生の学びを深めることができるよう工夫した。

2) 研究活動

研究テーマ：母子保健・公衆衛生看護

研究の現状：新型コロナウイルスの感染予防について、子どもの支援者に向けた研究を検討している。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）

雑誌：小児看護8月号N I C Uに入院となった子どもの親と心のケア

3) 社会的活動等

明石市：新型コロナウイルス相談窓口

兵庫区社協議会：ボランティアに向けた感染症対策オンライン講座

神戸市社会福祉協議会：子どもの居場所作り運営者に向けた感染症対策講演

神戸常盤大学附属ときわ幼稚園：保護者に向けた感染症対策

今後の課題

学外での社会活動を通して、地域関係者との関係を築くことができたため、地域と学生をつないでいく活動を進めていきたい。

4. 教育学部 こども教育学科 個人年間活動報告書

教員名	大森雅人	所属学科等	こども教育学科	職名	教授							
委嘱委員・職務	学部長、子育て総合支援施設KIT運営員会委員長、IR推進部部長 学園一体化推進協議会、運営委員会、学長会議、認証評価準備委員会 教職支援センター、IR推進プロジェクト、情報インフラ整備ユニット											
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし									
担当科目名	保育内容（環境）、保育・教育課題研究Ⅰ 教職実践演習（幼稚園・小学校）、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、教育と情報、教育方法・技術論 情報メディア演習											
担当科目コマ数	11.67											
本年度の課題												
・学科の強み・弱みに対応した新たな学科のあり方を構想して推進する必要がある。 ・科研費に関わる研究を引き続き推進する必要がある。												
本年度の目標												
・学科の強み・弱みを分析した結果に基づいて、これからの学科のあり方に関して、具体的な方針の策定を進める。 ・科研費の研究計画では本年度が最終年度となるので、一定の成果が得られるように研究を推進する。												
主な活動内容												
1) 教育活動 自身の授業担当の他、学科全体の教育の管理運営及び今後の方針の策定に携わった。 2) 研究活動 研究テーマ：保育者養成教育の効果をより高めるための研究 研究の現状：科研費の研究に関して、本年度はコロナ禍に対応しての学内感染対策、遠隔授業対応等が教育・研究活動の中心となり、研究はほぼ実施できなかったため、期間を1年延長した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 3回） 論文（ 6編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 高大連携事業の一環として、神戸鈴蘭台高校、三木北高校で講師をした。川西市の公立幼稚園の研修の指導を行った。全国保育士養成協議会の理事、社会福祉法人（保育所経営）2法人の評議員を務めた。												
今後の課題												
・新たな学科のあり方に関して、具体的な計画を作成した上で、次年度中に必要となる申請等を着実に行う必要がある。 ・科研費研究に関して、次年度が最終年度になるため、一定の成果を上げる必要がある。												

個人年間活動報告書

教員名	光成研一郎	所属学科等	こども教育学科	職名	教授								
委嘱委員・職務	学科長、教職支援センター長												
クラス担任	なし	クラブ顧問	テニス部										
担当科目名	「教育原理」・「教育方法・技術論」・「卒業研究Ⅰ」 「卒業研究Ⅱ」・「卒業研究Ⅲ」・「卒業研究Ⅳ」 「まなぶる▶ときわびとⅠ」・「まなぶる▶ときわびとⅡ」 「キャリア基礎」・「大学道場ミニゼミ」・「教育と人間」												
担当科目コマ数	9. 97												
本年度の課題													
教育に関しては、今年度で4年目を迎える「まなぶる▶ときわびとⅠ」、「まなぶる▶ときわびとⅡ」の科目責任者として、R科が新たに新設されたことで生じる課題に対処する。研究面では、科研費に採択されたテーマ「教学PDCAのためのICTを活用したカリキュラム・マップの新汎用的可視化法の開発」に取り組む。													
本年度の目標													
教育に関しては、「まなぶる▶ときわびとⅠ」、「まなぶる▶ときわびとⅡ」の科目責任者として、R科が新たに新設されたことで担当教員も増えることから本授業の教育目的、方法、内容の周知徹底を行う。例年通り、毎時間授業の前後に打ち合わせ会を実施するとともに、新たに担当される教員には、事前打ち合わせ会も実施する。研究面では、科研費に採択されたテーマ「教学PDCAのためのICTを活用したカリキュラム・マップの新汎用的可視化法の開発」の1年目として文献研究、論文発表の準備を行う。													
主な活動内容													
1) 教育活動 「まなぶる▶ときわびとⅠ」、「まなぶる▶ときわびとⅡ」の科目責任者として、科目の運営、取りまとめを担った。一部予定していた対面授業が遠隔授業に変更されたが、この授業のテーマである「チームベースド・ラーニング」を通して、ジェネリックスキルの養成を意図し、学びの可視化を実現することができた。授業評価も5学科すべて4.7以上の総合評価となり、毎年授業評価結果も向上している。また小学校教諭および養護教諭採用試験対策に取り組んだ。													
2) 研究活動 研究テーマ：「教学PDCAのためのICTを活用したカリキュラム・マップの新汎用的可視化法の開発」 研究の現状：文献研究、論文発表準備 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（1回） 論文（5編） 著書（0冊）													

3) 社会的活動等

防災教育学会第1回大会、大会委員長を拝命し、12月6日（日）本学において、オンラインで学会を無事運営することができた。

今後の課題

教育に関しては、基盤教育の改変が行われており、「学びのはじめ科目群」の検討が行われている。それに応じた教育内容の検討を始める。研究面に関しては、科研費に採択されたテーマ「教学PDCAのためのICTを活用したカリキュラム・マップの新汎用的可視化法の開発」に取り組む。

個人年間活動報告書

教員名	多田 琴子	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科臨地実習委員・学科就職委員				
クラス担任	2年生	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅱ 教職論 保育内容（健康） 保育の計画と評価 子どもと言葉 保育指導法 教育実習指導 教育実習 教職実践演習（幼稚園・小学校）他				
担当科目コマ数	16. 27				
本年度の課題					
・公立幼保就職率向上を目指し、学科教員の関連授業内容を可視化し、学生の希望と特性に合わせた個別指導の充実を図る。 ・昨年に引き続き神戸常盤大学附属ときわ幼稚園に協力を願い、学生の授業空き時間に「保育者としての力量形成」に向けたボランティア活動を推奨する。学生の体験的学びを自覚する場として「保育の計画と評価」の授業で実践と理論を融合する。 ・幼稚園見学研修・他大学学生や現場保育者との研究会を企画し学生と現場をつなぐ。					
本年度の目標					
・公立幼保就職率向上を目指し、3年生時から学習時間を設け、3.4年生の交流も図りながら公立幼保採用試験に標準を合わせ基礎並びに専門科目の学力強化を図る。 ・幼稚園（学校法人のこども園を含む）就職に向け、情報提供や、園と学生の懸け橋となる。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・公立幼保就職率向上を目指し、学生の就職先希望地と個人の特性に合わせた個別指導を行った。 ・コロナ禍の授業配信として、前期演習科目はYouTube活用し、実践を見せながら学生にイメージを伝えた。また、manabaのプロジェクト機能を使い、学生同士のグループワークを見える化し、相互学習を支えた。 ・基礎研究演習Ⅱの実習先として、KITを活用し、学生の子育て支援意識を育成した。 2) 研究活動 研究テーマ：保育者の職能形成／幼児期にふさわしい生活を支える保育の創造 研究の現状：保育現場と協働関係を築きながら継続的に、教員研修・園内研修・自主的研究会等を進めた。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 2 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 ・附属ときわ幼稚園とのコラボ事業「キッズクラブ」のコーディネート					

・ 附属ときわ幼稚園 キッズクラブ並びに園内研修 講師（8回） ・ 常盤女子高等学校模擬授業（オープンスクール・2年生） 講師 ・ 神戸常盤大学地域講座 講師 ・ 鈴蘭台高等学校～総合的な学習～授業 講師 ・ 姫路市立飾磨幼稚園園内研修（4回）並びに姫路市立幼稚園教育研究発表会 講師 ・ 姫路市立高浜幼稚園園内研修 講師（3回） ・ 市川町立認定こども園職員研修 講師（6回） ・ 西脇市保育士等キャリアアップ研修 講師（保育実践分野4回） ・ ひかりのくに異年齢カリキュラム 編集委員会委員（毎月1回） ・ 姫路市立幼稚園自主研修会 オブザーバー（毎月1回） ・ 姫路市立教員自主研修会「子ども p4c」（毎月1回） ・ 兵庫教育大学（保育内容言葉論） 非常勤講師
今後の課題 ・ 保育者養成コース学生の公立保育所、幼稚園・こども園就職に向けて、3年時からのサポート体制を整え、学生間の支え合いを促していくとともに、採用者数向上に努める。 ・ 子ども哲学（p4c）の実践を保育現場に広げていくとともに、その経過をまとめる。

個人年間活動報告書

教員名	瀬川 和子	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	玉田学園評議委員、運営委員会、入試委員長、合否判定部会長、入試問題作成部会副委員長、				
クラス担任	なし	クラブ顧問	器楽ボランティア部		
担当科目名	基礎音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 音楽Ⅴ 教科指導法（音楽科）ピアノ実践奏法 保育教育課題研究Ⅱ 卒業研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				
担当科目コマ数	12.53				
本年度の課題					
・教育：小免関連科目の教授法と教材に関する検討、遠隔授業方法の開発。 ・研究：研究時間の捻出と継続的な取り組み。遠隔授業方法に関する取組					
本年度の目標					
・教育：小免関連科目および採用試験内容を確認し指導法を検討すること。担当学生一人ひとりと向き合い、各学生の学習上の問題点とその解決法を共に探す。 ・研究：研究を何らかの形にまとめ発表する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 E1は初心者が4割以上を占める中で、音楽理論の理解に基づいた実技習得と音楽表現を目指した指導を徹底することにより、読譜力も徐々についてきている。E2以降は各自の進路に即した指導を心がけることでE4では公務員試験対策においても成果に結びつけた。教科指導法（音楽）においても学力の3要素を意識した指導法を修得させる内容としている。 2) 研究活動 研究テーマ：ピアノ初心者の音楽的な表現法修得、音楽の遠隔授業の検証 研究の現状：関連文献収集 論文投稿 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 1編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 ・R. 2年9月附属ときわ幼稚園5歳児 ときわキッズクラブ講師 ・R. 2年9月神戸常盤女子高等学校保育コース1年・2年 講師 ・県内高校ガイダンス（本学・学部・学科についての説明広報）					
今後の課題					
・ピアノ初心者が増える傾向にあるため、「基礎音楽Ⅰ・Ⅱ」の習熟度の向上 ・小免関連科目の教授法の改善、および教材研究 ・研究時間の確保					

個人年間活動報告書

教員名	藤本由佳利	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	危機管理委員会委員 就職委員会委員				
クラス担任	2年生	クラブ顧問	美術部		
担当科目名	基礎図画工作Ⅰ・Ⅱ、子どもと造形、小学校図画工作、保育内容（造形表現）、教科指導法（図画工作）、基礎研究演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ				
担当科目コマ数	13.13				
本年度の課題					
新カリキュラム授業の開始と展開 6期生のキャリア支援 作品制作と発表					
本年度の目標					
2年生対象の担当科目では、少人数ゼミ制という特色と自身の専門性を軸として展開し、4年目を迎えて、さらに充実を図る。新カリキュラムの授業の充実を図る。 6期生の希望進路達成への支援（模擬面接、面談、卒業生・実習園への紹介・巡回等）を行う。 一般社団法人 兵庫二紀展、二紀展、グループ展への作品制作と発表を行う。 目標達成度の評価：1. できた 2. ほぼできた 3. あまりできなかった 4. できなかった					
主な活動内容					
1) 教育活動 新カリキュラムを含む実技授業、前期1/2遠隔で行うにあたり、時間をかけて工夫した2年生担任として面接等を通して、学生支援・理解につとめた。 授業補充時間を多くとった。 基礎授業の展開において、本年度初任の同授業担当の非常勤講師への研修、助言をこまめに行い授業の充実を図った。 2) 研究活動 研究テーマ：平面造形作品の制作、「学生の美術に関わる苦手意識の調査」 研究の現状：130号F他 10点制作、データ分析中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表＜展覧会＞3回出品予定 コロナ禍の為すべて中止 3) 社会的活動等 令和2年度兵庫二紀展 企画 運営 2020. 4（コロナ禍により中止）					
今後の課題					
新カリキュラムに伴う新担当科目の授業方法・内容の充実 7期生のキャリア支援 作品制作と発表					

個人年間活動報告書

教員名	中田尚美	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	危機管理委員会委員、研究倫理委員会委員、図書紀要委員会委員				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	食育研究会		
担当科目名	保育原理、保育内容総論、保育者論、保育内容（人間関係）、保育・教育メソッド、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、大学道場miniゼミB				
担当科目コマ数	11.77				
本年度の課題					
教育活動における授業内容の精選・授業方法の工夫 研究の推進					
本年度の目標					
担当科目における教育内容及び教育方法の充実を図る 論文の作成					
主な活動内容					
1) 教育活動 学生の理解力を随時把握しながら、遠隔授業のコンテンツ作成を行った。対面授業ではグループワークを多く取り入れ、学生の自主的学修を引き出すよう心掛けた。 2) 研究活動 研究テーマ：多文化な子どもの言葉を育む保育環境 就学前教育における言語能力の形成 イングランドにおけるモンテッソーリ教育運動の展開 研究の現状：論文の作成 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 2 編） 著書（ 2 冊） 3) 社会的活動等					
今後の課題					
① 学生の自主的学修を引き出す授業案の検討 ② 研究を進展させる					

個人年間活動報告書

教員名	牛頭 哲宏	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	・こども教育学科教員養成コース長・K I Tテクニカルアドバイザー ・広報委員会副委員長・就職委員・教職支援センター委員・臨地実習委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	アカデミックライティング（基盤）基礎研究演習Ⅰ（E1）基礎研究演習Ⅱ（E2）教科指導法 国語（E3）教育実習指導（E3）教育実習（E3）教科指導法特論Ⅰ（E3）保育教育課題研究Ⅲ（E3）卒業研究（E4）課題別実習（E4）教職実践演習（E4）教科指導法特論Ⅱ（E4）教科指導法特論Ⅲ（E4）総合的な学習の時間の指導法（N2）				
担当科目コマ数	9.47				
本年度の課題					
● 学生が自ら学ぶ意欲を喚起するような講義を心がける。 ● 教員採用試験対策をさらに充実させる。 ● 子育て総合支援施設 KIT における実習カリキュラムのあり方を探る。					
本年度の目標					
● 小学校教員養成教育の充実を図る ● 子育て総合支援施設 KIT における実習カリキュラムの構築と運用					
主な活動内容					
1)教育活動					
・遠隔授業について様々な方法を試行し、学生にとってより良い実践に努めた。					
・学習指導要領の内容に即した指導法を工夫し、遠隔授業と対面授業を組み合わせた授業を通して、小学校実習において力を発揮出来る学生の育成に努めた。					
・子育て総合支援施設KITにおける実習カリキュラムを構築し、基礎研究演習ⅠとⅡにおいて放課後の学習支援や保護者対応に関する実習授業の可能性を探った。					
2)研究活動					
研究テーマ： 遠隔授業における双方向型の授業の在り方					
研究の現状： manabaにおけるプロジェクト掲示板の活用によって、学生同士や教師と学生との対話型授業を実現した。					
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照					
学会発表（0回） 論文（0編） 著書（0冊）					
3)社会的活動等					
子育て総合支援施設K I T内の学習支援センター（てらこや）の運営に関する助言					
今後の課題					
● 遠隔と対面を組み合わせ、学生が自ら学ぶ意欲を喚起するような講義を心がける。 ● 子育て総合支援施設 KIT での実習の在り方を探る。					

個人年間活動報告書

教員名	橋本好市	所属学科等	教育学部こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	E科就職委員長、E科臨地実習委員会委員、E科将来構想委員会委員、兵庫教育大学大学院指定校協定交渉等担当				
クラス担任	保育者養成コース長	クラブ顧問	ハローベビー部		
担当科目名	大学道場miniゼミB（基盤1年） 基礎研究演習（E1・E2） 保育教育課題研究（E2・E3） 社会福祉（E1） 子ども家庭福祉（E1） 障害者福祉特論（E2） 卒業研究（E3） 卒業研究（E4） 保育実習指導Ⅰ（E3） 保育実習Ⅰ（E3） 保育実習指導Ⅲ（E4） 保育実習Ⅲ（E4）				
担当科目コマ数	11.63				
本年度の課題					
本学科保育者養成コース新カリキュラムも落ち着きを見せ始めてきたが、周辺の保育士養成校が軒並み定員割れを常態化しつつあることから、本学科独自に定員充足に向けた課題を整理し、定員維持に向けて学科総力で学生募集に取り組む。 学生及び保護者の大学選択・入学決定要素の一つに就職内定率がある。したがって、入試と就職はリンクすることを考慮し、就職率向上及び大手就職先の継続安定確保を維持する。特に、教員養成コースから進路変更した学生の就職先のあり方（ポケットに相当）が急がれる。 学科業務の適正な運用のために、コースの機動力を高めつつ、本学部の魅力を喧伝していく努力を怠らず、個人研究（科研の進捗）・社会的活動との両立を心掛けていく。					
本年度の目標					
・保育者養成コース長として、コースの特性を考慮した学生からの口コミ評価が高まるようなコース特性と学生ケアおよび卒業時の満足度向上に向けた運用を図る。 ・本学及び所属学科の今後あり方について、社会的現状と周辺競合大学の状況を分析し、SDGsの観点から戦略構想を検討していく。 ・保育士養成課程及び幼稚園教育課程の新養成課程の定着と適切な運用を図る。 ・学科就職委員長として、公的機関への内定獲得率の向上を図る（特に警察・消防等への進路拡充）。 ・平成31年度～平成33年度 文部科学省研究費補助金【基盤研究(C)】研究課題／領域番号19K02655、研究課題名「障害等への偏見変容に向けたインクルーシブ保育と保					

育者養成教育のあり方に関する研究」（研究代表者：直島正樹 相愛大学教授）について、コロナ禍で可能な内容にて研究を遂行していく。
主な活動内容
1) 教育活動 ・兵庫県施設保育士養成協議会会長として、保育士養成大学と社会福祉施設関係連盟組織との人材育成・確保・定着への連携した取り組みを図ってきた。この活動は、保育実習の関係性だけでなく就職等にも学生への利益に繋がっている。 ・本学が有益となる全国及び県内優良社会福祉法人（聖隷福祉事業団・神戸聖隷福祉事業団）との包括協定を活かし、本学の利益の一助となるよう、今後も自身の立場を活用しつつ尽力していく。 ・担当科目について、所属学科学生のニーズに適した教授方法（遠隔講義への工夫）や最新情報等を踏まえ、学生の理解度と定着への工夫したことで、授業評価の向上につながった。今後も講義内容を精査し、時代の動向に応じた内容を提供していきたい。 ・保育者養成コースの特性である幼稚園・保育所に加え社会福祉施設への就職が定着してきた。今後は、学生の将来生活の安定性という観点から鑑みて有意な職域である警察・消防関係への就職支援を充実させていく。 ・6期生も求職者内定率100%の結果となった。四年制大学らしく一般企業への希望者が増加傾向にあるが、学科特性を踏まえ専門職領域への就活支援に力を入れていく。一般企業等への就職希望者には、キャリア支援課と連携を図りつつ支援していく。 2) 研究活動 研究テーマ： 「障害等への偏見変容に向けたインクルーシブ保育と保育者養成教育のあり方に関する研究」（平成31年度～平成33年度 文部科学省研究費補助金【基盤研究(C)】研究課題／領域番号 19K02655） 研究の現状：コロナ禍の影響のため、海外視察・現場視察が不可能なため、文献研究を中心に進め、学会発表等にて発信している。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 5回） 論文（ 1編） 著書（ 2冊） その他（調査研究報告書1冊・自治体審議会報告書1冊） 3) 社会的活動等 ・神戸大学 大学院 人間発達環境学研究科 非常勤講師（臨床心理実践演習） ・社会福祉法人 うるま福祉会 評議員 ・社会福祉法人 白百合学園 法人顧問 ・社会福祉法人 陽気会 評議員 ・尼崎市保育所設置法人等選定委員会 委員長 ・尼崎市立すこやかプラザ指定管理者選定委員会 委員長

・ 尼崎市立保育所移管法人選定委員会 副委員長 ・ 尼崎市子ども・子育て審議会 特別委員（利用者負担検討部会 副部会長） ・ 日本保育者養成教育学会『保育者養成教育研究』査読委員 ・ 兵庫県施設保育士養成協議会 会長 ・ 文部科学省委託事業（学校法人三幸学園）「専修学校による地域産業中核的人材養成事業（保育分野における長期就労支援に向けたリーダー育成プログラム開発事業）」委員 他
今後の課題 保育者養成コース長として、入試の結果に甘んじず、学生の安定確保に向けた方策の重要視点に、卒業時の満足度向上、つまり第一希望職種への内定確保が挙げられる。それは口コミとして、上下左右の学生関係者に拡散されていくため、コース特性を明確化し、教育内容、学生ケア等を学科一丸となって取り組む必要がある。したがって、教員間のコンセンサスを高める学科運営を心掛けていく。 就職率は、学生の大学選択として重要なキーワードとなることを学科教員が自覚し、公的機関及び大手社会福祉法人等への内定率向上を図り、コース教員の意思統一を図り、担当を明確にして学生指導に取り組んでいく。 平成 31 年度～令和 3 年度（令和 4 年度に延長申請予定） 文部科学省研究費補助金【基盤研究(C)】研究課題／領域番号 19K02655、研究課題名「障害等への偏見変容に向けたインクルーシブ保育と保育者養成教育のあり方に関する研究」（研究代表者：直島正樹 相愛大学教授）の三年目を迎えたが、コロナ禍において計画通りに進めることができていないため、一年間の研究期間延期申請の上、社会状況を見極めつつ現場調査、海外視察を含めた調査研究を遂行していく。

個人年間活動報告書

教員名	山下敦子	所属学科等	こども教育	職名	教授
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員会委員長、臨地実習委員副委員長、ときわ教育推進委員会、教職支援センター委員				
クラス担任	1年（教員養成コース）	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、教職論、国語、インターンシップA、総合的な学習の時間指導法、保育・教育課題研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、教職実践演習、教育実習、教育実習指導、卒業研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、介護等体験、教科指導法特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、アカデミックライティング(M, N, E, R)				
担当科目コマ数	15. 00				
本年度の課題					
〈教育活動〉 - 教育実習指導、採用試験対策指導において最新の情報や傾向を元に指導助言を行い、採用実践を向上させる。 1年生担任として、学生の将来の進路決定、自己実現にむけて的確な助言、支援を行なっていく。 〈研究活動〉 - 理論と実践の融合を図り、論文としてまとめる。 〈社会的活動〉 - 外部機関との連携を密にし、本学の事業や学生の就職、指導に反映させる。					
本年度の目標					
上記課題の遂行					
主な活動内容					
1) 教育活動 - 教育実習指導、採用試験対策について対面と遠隔授業とを組み合わせながら、指導・助言に努めた。 - 前期1回、後期1回、1年生の個人面談を実施し、学生のケアや進路について指導助言を行った。 2) 研究活動 研究テーマ：①大学の授業と大学の事業の連携による学生資質の向上 ②「思考する文化の創造」における指導方法の開発 研究の現状： ① 1年生を対象にKIT実習を実施し、都度、意識調査や自己の職業適性への変化について調査を行った。 ② 文献研究をもとに小学校における指導法を開発、実践、検証を行い論文化した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照					

学会発表（ 0 回） 論文（ 1 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 ・ 「神戸市こどもの創造的学びに関する研究会」研究会委員、作業部会委員 ・ 「神戸市授業改善推進モデル校」等への指導助言 ・ 大阪府教育庁学校図書館の振興に向けた調査研究事業校への指導 ・ 明石市教育委員会教育研究所スーパーバイザー（国語科教育、特別支援教育） ・ 枚方市教育委員会学力向上研修会、研究会の指導助言、講師 ・ 大阪府主体的・対話的で深い学び（STF）の実現に向けた実践研究指定校への指導助 ・ 高槻市立小学校国語科研修会講師 ・ 兵庫県播磨町小学校国語科研究会講師 ・ 大阪市教育委員会がんばる先生支援事業に係る指導助言、講師 ・ 大阪市幼児教育センター研修講師 ・ 大阪市私立幼稚園連合会研修講師 ・ NPO 法人 ERP 教育研究所「教師力向上研究会」幹事、および講師 法務省人権擁護委員会委員
今後の課題
〈教育活動〉 ・ 対面、遠隔のハイブリッド授業の効果的なあり方を探り、学生の指導に生かす。 ・ 学生の進路指導、適性の把握に一層務める。 〈研究活動〉 ・ 理論と実践の融合を図り、教師の資質向上について研究を進める。 〈社会的活動〉 ・ 外部機関との連携を密にし、本学の事業や学生の就職、指導に反映させる。

個人年間活動報告書

教員名	笹井隆邦	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員会、合否判定部会、入試問題作成部会				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、理科、特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、地球と環境、コンピュータ演習Ⅰ・Ⅱ、人類と地球環境、生き物と自然の力、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、保育実践演習				
担当科目コマ数	12.03				
本年度の課題					
・学内業務に責任を持って取り組む。 ・学生に自然との触れ合いを体験させ、現場で対応できるよう資質を高める。					
本年度の目標					
・コロナで活動が制限されるが、観察会や自然体験プログラム(キーナの森)への参加学生を増やし、多くの体験をさせる。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・学科内の卒業研究担当としてゼミの振り分け等を行った。 ・1年生担任として、学生生活、幼稚園等の見学、就職への準備等に取り組んだ。 ・学外での学生の自然体験活動は、あまりできなかったが、学内では裏山を使って自然環境づくり等の体験をさせることができた。					
2) 研究活動 研究テーマ：①離島の社会性ハチ類の分布・生態調査 ②白色変異カスミサンショウウオの長期飼育と遺伝 研究の現状：①コロナのため離島への調査は中止 ②1～3月に産卵させたが、受精しなかった。 白雄が18歳と高齢のため難しい様だ。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照					
3) 社会的活動等 20200822 ライトトラップ キーナの森 ひょうご環境創造協会 20200904 六甲幼稚園 講演会 講師 20200908 北六甲幼稚園 講演会 講師 20200911 六甲幼稚園 生きもの観察会 講師 20200917 ときわ幼稚園 生き物と遊ぼう 20200918 育英幼稚園 講演会 講師 20201014 「ドングリを探そう」 ときわ幼稚園 キッズクラブ 講師					

20201028 公開講座 「ネイチャークラフト」 KIT 講師
今後の課題
・学生の、様々な自然体験をサポートする。

個人年間活動報告書

教員名	脇本 聡美	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会、SD委員会、国際交流センター				
クラス担任	4年生Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、コミュニケーションタイプイングリッシュ、小学校英語、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、教科指導法特論Ⅱ、教科指導法特論Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、海外研修				
担当科目コマ数	11.80				
本年度の課題					
学生が主体的に学べる授業を計画し実践すること 小学校をフィールドとした研究を進めること					
本年度の目標					
アクティブラーニングを取り入れた授業を実践すること 小学校英語教育教員養成教育をテーマにした研究を論文にまとめること					
主な活動内容					
1) 教育活動					
- 個人指導をした上でプレゼンテーションを行う課題やグループワークで行う課題を授業に取り入れるようにし、学生が主体的に学ぶ活動の充実を図った - KITてらこやで、2年生学生が児童に英語学習指導を行う活動を計画し、実施した - 英語検定試験（英検）を受検する学生たちに個人指導を行った - 附属幼稚園において英語プログラムを実施した					
2) 研究活動					
研究テーマ：小学校英語教育教員養成のプログラム開発					
研究の現状：予定していた小学校をフィールドとした実践研究ができなかったため、文献研究による小学校英語教育に関する論文をまとめ投稿した					
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照					
学会発表（ 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）					
3) 社会的活動等					
・実用英語検定面接委員					
今後の課題					
学生が主体的に学べる授業を計画し実践すること 小学校をフィールドとした研究を進めること					

個人年間活動報告書

教員名	近藤みづき	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	学生委員会（副委員長）・健康保健センター（健康管理室） FAST等企画運営ユニット				
クラス担任	2年主担任	クラブ顧問	テニス部・ダンス部		
担当科目名	健康スポーツ科学Ⅰ、健康スポーツ科学Ⅱ、健康スポーツ科学Ⅲ、 まなぶる▶ときわびとⅠ、まなぶる▶ときわびとⅡ、基礎体育、基礎研 究演習Ⅱ、子どもと身体表現、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ 卒業研究Ⅳ				
担当科目コマ数	14.83				
本年度の課題					
・継続的に研究を進め、研究と実践を結び付ける ・新カリキュラムにおける新規科目を滞りなく遂行する					
本年度の目標					
①研究内容を可視化できるかたちでまとめる。 ②「子どもと身体表現」の授業を滞りなく進める					
主な活動内容					
1) 教育活動 新規科目の「子どもと身体表現」では、まず講義で基礎を理解し実技で展開させると いう流れで実施した。毎回、小さな表現作品をグループで活動を基に最終的に一つの大 きな作品創りにつなげた。作成途中で作品を撮影し、振り返ることでICTを活用した授 業づくりもできた。今後も改善を重ね、充実した授業になるよう努めたい。					
2) 研究活動 研究テーマ：幼児の動感身体知の発生について、動感促発能力の養成について 研究の現状：現在テーマを設定中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 1 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等 ・日本スポーツ運動学会 理事 ・第19回日本運動伝承研究会シンポジスト（紙面発表） ・神戸常盤大学附属ときわ幼稚園キッズクラブ「マットや跳び箱で遊ぼう！」講師 ・神戸常盤大学子育て支援センター「親子のふれあい運動遊び」講師 ・神戸市立駒ヶ林中学校 救命講習 講師					
今後の課題					
・副委員長としての学務を支障なく進める ・個人研究活動を推進させる。 ・学生が主体となった授業を展開できるよう努める。					

個人年間活動報告書

教員名	松尾寛子	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	こども教育学科臨地実習委員会（委員長）、こども教育学科就職委員会（委員）、入試委員会(委員)、子育て総合支援施設K I T運営委員会（委員）				
クラス担任	4年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、障がい児の理解と支援Ⅱ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ、基礎研究演習Ⅰ、基礎研究演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、保育教育課題研究Ⅱ、保育教育課題研究Ⅲ				
担当科目コマ数	14.87				
本年度の課題					
・委員会活動等の新たな学内委員会活動に対する業務を覚えていく。学内業務の一つひとつについて丁寧に取り組み職務を全うする。 ・社会的活動について、要請が増えてきているが、学内活動に影響がでないよう、精査できるところは精査する。 ・教育活動について、授業改善や実習先の精査など学生に対する満足度がより高くなるように対面指導とポータル・メール等を使用して、計画的にかつ細やかな指導を行う。 ・研究活動については、緑葉への投稿と科研費に採択されなかった場合は、科研費の申請書の練り直しを行い再度申請する。					
本年度の目標					
・新たに加わった学内委員会活動の業務を丁寧に言い、業務を覚える。 ・業務に支障がでないよう社会的活動を精査する。 ・マナバを有効活用し学生の授業の取り組みに対するレスポンスを授業後すぐに行う。 ・研究テーマを再考する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 今年度は前期に遠隔授業が多かったため、授業内容を凝縮したものしか伝えることができなかったが、エッセンスは伝えることができたと感じている。ただ、実践的な部分など対面でしか伝えることができない内容もあり、後期の授業の中で伝えるものと、前期の授業で伝えるものの内容の精査を行い、後期にできることは後期の中で行った。前期には多くの情報を的確に伝えるための伝え方や資料作成についても大幅な改善を行った。遠隔授業では、学生からの提出物には、質問も含まれていたため、提出後翌々日までに内容を確認し、全員に返信するようにした。後期には、映像を使った授業や、実践などを多く盛り込んだためか、学生からの評価も高く、学生はメモを取りながら熱心に聞くことができていた。 ・授業内容について、ゼミの学生を中心として学外活動も取り入れた。卒業研究においては、就職活動への支援も並行して行うため、早期からの卒論指導を行った。学生には					

提出目標など、日程を提示して、具体的な指導を行った。 2) 研究活動 研究テーマ：子どもの学びを保障するインクルーシブ保育方法について 研究の現状：保育現場で保育者がインクルーシブ保育についてどのような関わりをしているのか、どのような悩みがあるのかを2市の巡回相談を通して予備調査として聞き取りを行っている。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 3) 社会的活動等 1. 乳児保育分野/令和2度加古川市保育士等キャリアアップ研修 2. 保育実践分野/西脇市幼保交流研修会・保育士等キャリアアップ研修 3. 令和2年度八尾市私立保育所巡回指導 4. 令和2年度尼崎市立保育所障害児保育巡回指導 5. 障害児保育分野/尼崎市キャリアアップ研修 6. 令和2年度西脇就学前教育・保育の質の向上推進委員会委員（訪問調査） 7. こべっくらんど/障害児保育ゼミ研修 8. 西脇市子ども子育て会議委員
今後の課題 ・ manaba の活用方法の充実を図る。 ・ 外部機関との連携を図りながら、学生の実習や就職に役立つ情報を収集する。 ・ 学内の業務に臨機応変に対応できるよう、授業準備にかかる時間も捻出しながら、業務を的確に行い、時間を有効活用する。 ・ 研究に関連する社会的活動を通して、予備調査を前進させる。

個人年間活動報告書

教員名	柳原 利佳子	所属学科等	こども教育	職名	講師
委嘱委員・職務	教務・就職・臨地実習・学生相談室など，保育者養成コース				
クラス担任	1 年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ，発達心理学，カウンセリングの技法，子どもの理解と援助，教育心理学，教職実践演習（幼稚園・小学校），卒業研究Ⅰ，卒業研究Ⅱ，卒業研究Ⅲ，卒業研究Ⅳ，人間関係論，生涯発達論				
担当科目コマ数	13. 27				
本年度の課題					
・新型コロナウイルスの影響で懸念される教務関係の学務へ丁寧に取り組む。 ・卒業研究Ⅱから卒業研究Ⅲへの滑らかな接続を意識した指導を行う。					
本年度の目標					
・新型コロナウイルス感染予防対策をした対面授業や遠隔授業を円滑に滞りなく行う。 ・遠隔授業を活用した卒業研究の個別指導を進める。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
・教務委員として個別対応が必要な学生への履修相談・指導を行った。また，遠隔授業の運用を円滑に進めるべく，学生，専任教員・非常勤講師への連絡や調整を行った。 ・クラス担任として面接・指導などの機会を利用し学生理解に努めた。また，留学生対応をした。 ・卒業研究では新たにゼミのmanabaコースを作成して卒業研究を進めたり，ゼミ指導教員として学生の進路相談などの支援を行ったりした。 ・遠隔授業の配信資料作成について，試行錯誤するところもあったがmanabaとresponを併用した授業を実施した。 ・保育者養成コースの学生に対する模擬面接の面接官を担当した。					
2) 研究活動					
研究テーマ：更年期女性への多重役割期待と個人的評価					
研究の現状：成人女性の語り合いの場の開催が中止となり停滞している。					
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照					
学会発表（0回） 論文（0編） 著書（0冊）					
3) 社会的活動等					
・武庫川女子大学へ出講 ・7 月：東灘高等学校 高大連携講座 対人援助職のための発達学～人間関係の形成					
今後の課題					
・新年度も遠隔授業と対面授業が並行して継続することが決まったので，さまざまな状況に柔軟に対応できるように，教務関係の学務を注意して取り組む。 ・新しく導入された学習支援システムに早く慣れ，遠隔授業の質を高める。					

個人年間活動報告書

教員名	戸川晃子	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	KTU研究開発推進センター委員、SD委員				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	基礎音楽Ⅰ、基礎音楽Ⅱ、基礎音楽Ⅲ、音楽Ⅴ、ピアノ実践奏法、保育内容(音楽表現)、保育・教育課題研究Ⅲ、卒業研究Ⅰ～Ⅳ				
担当科目コマ数	15.80				
本年度の課題					
・コロナ禍における授業方法の検討 ・休職による中断で遅れている科研費採択課題を遂行する					
本年度の目標					
・4年生に向けた就職活動、就職後を視野に実技指導を強化する ・実技科目の遠隔授業方法を検討する。 ・研究を進める					
主な活動内容					
1) 教育活動 初めての遠隔授業では、特に保育内容（音楽表現）において苦勞した。例年と同じ知識、技量を身につけてほしい願いから、学生同士で遠隔による合奏発表への挑戦など行った。レポート試験では、多くの学生が例年以上の理解と技量を身につけていることが感じられたが、毎回の授業では学生に負担が多かったと思う。授業内容、方法の改善を考える必要がある。 2) 研究活動 研究テーマ：「ピアノを用いない」練習の効果の検証、演奏発表の準備、子育て支援 研究の現状： コロナ禍において、この研究テーマが活かされる状況となった。LMSを用い、被験者から多くのサンプルを得ることができた。また、これまでの調査結果を解析し、学会誌に投稿した。 演奏については、今年度は発表することができなかったが、来年度からの活動に向け子育て支援を含めた新しい試みを含め準備を進めている。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0回） 論文（ 2編） 著書（ 0冊） 3) 社会的活動等 ・ときわ幼稚園におけるキッズクラブ講師 10月2回開催 ・兵庫教育大学での非常勤講師					

今後の課題
・新カリキュラムによる新科目を滞りなく遂行する。 ・研究を進め、成果を発表する。

個人年間活動報告書

教員名	大城 亜水	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員、臨地実習委員、地域交流センター委員、KITテクニカルアドバイザー（ときわんモトロク）				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、まなぶるⅠ・Ⅱ、情報基礎(E科,M科)、情報メディア演習、地域との協働A、家庭支援論、卒業研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、保育・教育課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、海外研修、家族と社会(看護通信)				
担当科目コマ数	17.33				
本年度の課題					
KITと学生のマッチング体制の構築					
本年度の目標					
上記課題の遂行					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・就職活動支援および進路相談、履歴書や論文等の添削指導 ・公立保育士・幼稚園教諭および公務員試験の一般教養の学習支援 ・「まなぶる」の授業コンテンツの作成 2) 研究活動 研究テーマ：大学の授業と大学の事業の連携による学生資質の向上 研究の現状：日本保育学会第 74 回大会で「保育者を目指す学生の職業意識および動機づけの早期定着支援—神戸常盤大学と KIT の取り組み—」をテーマに報告予定。 その他、本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照。 学会発表（ 0 回） 論文（ 1 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等 【講座】 少子化対策—少子化の動向とワーク・ライフ・バランスなどの政策的課題／大城亜水（神戸常盤大学）／大阪労働大学講座（令和元年度）／2020 年 8 月 【シンポジウム】 全世代型社会保障改革を徹底検証する／玉井金五（愛知学院大学）・服部良子（大阪経済法科大学）・森詩恵（大阪経済大学）・大城亜水（神戸常盤大学）／大阪労働大学講座（令和 2 年度）／2021 年 1 月					
今後の課題					
教育活動や校務に支障がないことを確認しながら、教育研究活動および社会貢献活動、とくに KIT と学生の連携について引き続き取り組みたい。					

個人年間活動報告書

教員名	京極 重智	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、神戸常盤地域交流センター委員、教職支援センター委員、ときわ教育推進機構（外部委員）、				
クラス担任	2年（教員養成コース）	クラブ顧問	ソフトテニス部		
担当科目名	特別活動の指導法、基礎研究演習Ⅱ、地域との協働B、教育の思想と歴史、道徳教育の理論と実践、道徳教育と特別活動論、まなぶる➤ときわびとⅠ、まなぶる➤ときわびとⅡ、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、教科指導法特論Ⅰ、教科指導法特論Ⅱ、教科指導法特論Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、教職実践演習				
担当科目コマ数	15.93				
本年度の課題					
コロナ禍ということもあり、遠隔授業においても教育の質を担保して、学生の学びを止めないようにする。					
本年度の目標					
教育に関して、神戸常盤大学の学生の実態に即した授業（授業評価について平均値以上）を目標とする。研究に関して、具体的な目標として学会発表1回、論文1編とする。					
主な活動内容					
1) 教育活動 遠隔授業が多かったが、単独でもつ科目に関しては、多くの科目で授業評価が平均値以上であった。 2) 研究活動 研究テーマ：地域貢献に結びつく教育哲学・思想的研究 研究の現状：「哲学対話」を附属園の園児とともに実践した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 附属幼稚園での哲学対話の実施（キッズクラブ）、鈴蘭台高等学校への出張講義					
今後の課題					
教育に関して、教員採用試験への合格と教師として働くことに直結する授業内容に改善する。また、研究に関して、査読付きの学術誌への投稿を目指す。					

個人年間活動報告書

教員名	川井 綾	所属学科等	こども教育学科	職名	助手
委嘱委員・職務	臨地実習委員会・広報委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	ハローベビー部		
担当科目名	まなぶる▶ときわびとⅠ・Ⅱ こどもの保健Ⅲ・こどもの食と栄養Ⅰ（助手）				
担当科目コマ数					
本年度の課題					
・実習前後の学生との連携を円滑に進めて行くと共に、実習によって得られる学生の学びに目を向け、充実した実習が経験できるようサポートする。 ・実習先や教員間の連絡を密に取り調整を図る。 ・親子のふれあい遊びに焦点を置き、学生と共に活動の場を持てるようにする。					
本年度の目標					
・実習施設での実習生の課題や、問題点をキャッチし次の実習に活かせるように、担当教員への報告や相談を密に取るように心掛ける。 ・施設での「ふれあい遊び」「健康フェスタ」「人形劇」等において、学生の発想や、主体性を尊重し、社会貢献活動のサポートをする。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・コロナ感染症拡大の影響で実習日程の変更が生じたが、各実習先との連絡や教員への報告、学生への連絡を密にし、情報の往還を大切に、滞ることのないように努めた。 ・非常勤の先生の遠隔授業のサポートと学生レポートの回収管理。 ・「健康フェスタ」は中止になったが、準備と計画を学生と共に検討を重ねた。 ・実習の課題や問題点があった場合、科目担当教員に報告し対応できるようにした。 ・コロナにより、社会貢献活動は実施ができないケースが増えたが、今できる事は何かを学生と共に検討し、壁面制作や遊びの教材作りに各々で取り組めるようにした。 2) 研究活動 研究テーマ：①「親子のふれあい遊び」・②「4年間の実習の経過」 研究の現状：①コロナ禍において実施できるものを検討中 ②アンケート作成中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 ・健康フェスタでのあそびの広場を検討中					
今後の課題					
・コロナ感染症などの予期せぬ事態にも対応できるように、実習準備室での進捗状況について担当教員への報告を密にし、重要事項の記録等、緊急事態に備えたい。 ・実習施設ごとの特徴を把握し、円滑に実習が進むよう個々に合わせた対応をする。 ・コロナ禍においても、学生が社会貢献活動できる方法を模索し、工夫しながら取り組めるような機会をつくること。					

5. 短期大学部 口腔保健学科 個人年間活動報告書

教員名	吉田幸恵	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長、運営委員会委員、学園一体化推進協議会委員、学長会議委員 合否判定部会委員、短期大学認証評価代表者会議委員、ALO委員、口腔 保健学科四大開設準備室室長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科衛生学概論、栄養指導法、学びの基礎、健康科学総論、歯科衛生 過程演習、歯科医療と法律・制度、歯科予防処置演習BⅡ、口腔保健衛 生学実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、口腔保健特論Ⅰ、口腔保健特 論Ⅱ、こどもの歯と健康（E科）、健康スポーツ科学Ⅰ				
担当科目コマ数	8.73				
本年度の課題					
1. 他校にない4年制の歯科衛生士教育課程を組み立てる。 2. 授業以外の学習時間を確保できる授業の展開を考える。					
本年度の目標					
1. 4年制の歯科衛生士教育の中にキャリア教育とインターンシップ実習を取り入れる。 2. 本年度も遠隔授業が中心になるので、可能な範囲で課題を課し、授業以外の学習時間 を確保する授業コンテンツ作成に取り組む。					
主な活動内容					
1) 教育活動 本年度は新型コロナウイルスの影響で担当の授業科目は全て遠隔授業となった。前年度のスラ イドを基に新しい動画の授業コンテンツを作成し学生に配信したが、授業評価では例年 以上の高い評価が得られた。動画配信後、質疑応答をmanaba上で行い、授業内容の理 解を助けた事も高い評価に繋がったと考えられる。また、遠隔のメリットとして、昨年 までの課題であった「授業以外の学習時間」についても事前事後の課題提出を課した事 で大幅に改善された。					
2) 研究活動					
研究テーマ					
① 産官学が連携したオーラルフレイル予防の効果の検証（2020年度基盤研究C） ② 「お口ぽかん」が幼児の日常生活に与える影響について（2020年テーマ別研究） ③ 歯科衛生士教育プログラムの国際比較と歯科衛生士ロールモデルの開発（2020年テーマ別研究） ④ 高齢者の口腔機能と足趾力との関連について ⑤ 脳卒中嚥下障害者における咬合支持と嚥下能力・ADL・栄養状態の関連 ⑥ オーラルフレイルとフレイルの関連性について ⑦ 大学生の歯科健診と自記式質問票との関連について					

研究の現状

- ・ ①と④ 新型コロナウイルスの影響を受け準備は整えたがデータ収集ができなかった。
- ・ ② 結果の一部を2020年9月に日本歯科衛生学科第15回学術大会で発表した。また、幼稚園児を対象に標本数は少ないが若干のデータ収集を行えた。
- ・ ③ 現在、諸外国の歯科衛生士教育プログラムの収集中である。
- ・ ⑤ 標記題名で2020年9月日本歯科衛生学会雑誌15巻1号に論文として掲載された。
- ・ ⑥ データを解析し2020年10月に第79回日本公衆衛生学会総会で発表を行った。
- ・ ⑦ 結果の一部を2020年9月に日本歯科衛生学科第15回学術大会で発表した。また、11月には口腔保健学科新入大学生の歯科健診と自記式質問票の調査を実施した。

学会発表（ 5 回） 論文（ 1 編） 著書（ 冊）

3) 社会的活動等

- ① 日本歯科衛生学会幹事
- ② 日本歯科衛生学会研究倫理委員会委員長
- ③ 日本健康体力栄養学会副会長
- ④ 日本口腔ケア学会評議員
- ⑤ 日本栄養・食糧学会近畿支部参与
- ⑥ 兵庫県歯科衛生士会「2019年度卒後研修必修プログラムアドバンスコース」において講師を務めた。

今後の課題

1. 昨年に引き続き、他校にない4年制の歯科衛生士教育の付加価値を考える。
2. 定員以上の受験者数を確保する。

個人年間活動報告書

教員名	福田昌代	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員副委員長、自己点検評価委員、国家試験対策委員長、就職委員				
クラス担任	1年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科保健指導論Ⅰ、歯科保健指導論Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅲ、歯科保健指導演習Ⅳ、歯科衛生過程演習、地域口腔保健支援実習Ⅱ、学びの基礎、口腔保健特論Ⅰ、口腔保健特論Ⅱ				
担当科目コマ数	12.43				
本年度の課題					
・国家試験合格 100%を目指す。 ・他学年との合同実習を充実させる。 ・科研費採択された研究を計画的に遂行する。 ・新たな教育研究課題を見出し、研究をスタートさせる。					
本年度の目標					
・国家試験合格 100% ・科研費研究の遂行 ・教育研究課題の遂行					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、遠隔授業を余儀なくされ、準備期間もあまりない中、遠隔授業がスタートしたが、パワーポイントに音声を入れ、ビデオ化した授業をmanaba上で配信し、課題を提出させるなど、学生の知識確認状況も見ながら授業を展開することができた。授業評価から昨年と同様あるいは昨年以上の評価であったことから、遠隔授業の方法について問題はないと考える。 ・国家試験対策委員長として、国家試験合格100%を目指しているが、今年度はその目標が達成できなかった。1つの原因として、1月2月の追い込み時期が緊急事態宣言下であったことから、少人数制の個別指導が例年の通りできなかった。その代替えとしてWebexを使用したLive式補講を行ったが課題が残った。また、国家試験の会場が12月に変更になり、大ホールでの実施であったことから、その中での受験に適応できなかった学生もいた。不合格者のうち2名は自己採点で合格点があることから、学生には最後までミスのないように、事前に十分な学習状況で臨むことができるように指導する必要性が改めて示されたと考える。					
2) 研究活動 研究テーマ： ① 産学官が連携したオーラルフレイル予防の効果の検証：身体機能や栄養状態への影響（科研費：基盤研究C）					

② 歯面プラークスコアの客観的評価法の開発（テーマ別研究） ③ 地域在住立高自齢者の口腔機能と口腔関連QOLの関連性 ④ 神戸市におけるオーラルフレイルチェックとフレイルチェック口腔機能質問項目との関連 研究の現状：①については、今年度より調査を開始する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で調査ができなかった。以前の調査内容について学会で発表を予定しつつ、来年度は調査を開始する予定である。 ②については、データを採取し検討中である。引き続き検討を加える予定である。 ③については、老年歯科医学会で発表した。 ④については、日本公衆衛生学会で発表した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 6 回 ） 論文（ 0 編） 著書（ 2 冊） 3) 社会的活動等 ①兵庫県立明石南高校、高大連携授業担当 ②全国大学歯科衛生士協議会理事	今後の課題 ・口腔保健学科4大化に向けて、カリキュラムの整備、書類の作成等行う。また、学科で4大化に向けて意思統一して取り組む。 ・国家試験 100%合格を目指す。そのため、早くからの学修を促し、成績不良の学生の学修力向上にむけて対策を検討する。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により滞っている研究を、感染対策を十分にしながら実施する。 ・口腔保健研究センターの委員になることから、学科で共有できる研究を確立する。 ・短期大学部の学生が短期大学部閉校までに全員が卒業し国家試験に合格できるように学修支援を行う。
---	---

個人年間活動報告書

教員名	八木孝和	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	図書館長（図書紀要委員長）、口腔保健研究センター委員長、口腔保健学科就職委員長、K T U 委員				
クラス担任	2年生Aクラス主担任	クラブ顧問			
担当科目名	人体の構造、人体の機能、口腔の機能、臨床歯科Ⅲ（麻酔学、放射線学）、臨床歯科Ⅴ（矯正歯科学）生化学・栄養学、器材学、薬理学、健康科学総論、学びの基礎、口腔保健衛生学実習Ⅰ、口腔保健特論、健康スポーツ科学Ⅰ				
担当科目コマ数	9.37				
本年度の課題					
1. 4大化に向けて、口腔保健学科の全体の問題点や目標を明確化する必要がある。 2. 担当している教科に対して、学生目線の分かりやすい内容に再編成を行う必要がある。 3. 新しく担当するセンター・委員会などの年間活動状況を把握が必要である。 4. 基盤研究等の研究面の整備が必要である。					
本年度の目標					
1. 4大化に向けた大学の方針に対して学科の立ち位置を検証する。 2. 動画などを充実させ、学生が家庭内にいても十分に学習できるようなコンテンツを作成する。 3. 担当しているセンター・委員会をそれぞれ活性化させながら運営する。 4. 基盤研究の整理と新たな研究基盤を確立する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 本年度は新型コロナウイルスの影響で、対面授業が困難になったことから前年度までのスライドをリニューアルして、YouTubeなどを利用した講義コンテンツを作成（大学学生限定）して学生に公開した。ICTの活用により、学生にはできるだけ、外出しなくても大学で受ける講義に準じる内容を提供した。					
2) 研究活動 研究テーマ：以下に示す。 ①脳腸ペプチドによるストレス起因性顎口腔機能異常の改善に対する効果の検証(基盤研究C) ②顎顔面形態の差が心理的背景に及ぼす影響に関する検証（2019テーマ別研究） ③ウェアラブル咀嚼回数測定装置を利用した咀嚼指導方法の開発（2020テーマ別研究） ④大学生の歯科健診における口腔衛生ならびに機能に与える影響 研究の現状：新型コロナウイルスの影響を受け①～③に関しては、準備までは整えられたもののデータ採取があまりできなかった。④については、一部のデータを採取することが					

でき、検討する機会があった。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（3回） 論文（3編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 ①歯科健診（神戸常盤女子高、神戸常盤大学付属幼稚園、神戸常盤大学短期大学部）を実施。 ②神戸市救急インストラクターとして駒ヶ林中学校と口腔保健学科3年生に対して救急救命に関する講習会の指導員を行った。 ③日本顎口腔機能学会評議員、全国大学衛生士教育協議会委員、日本歯科医学教育学会代議員 ④査読 10 編（紀要 1（委員長として全体の確認も併せて行う）、海外雑誌 8、国内英文誌 1） ⑤高大接続出張講義 1、ガイダンス 2 ⑥KIT、モトロクでの歯の相談会（歯ッピー相談会を主催） ⑦神戸常盤大学公開講座「かみ合わせ・歯並びってなーんだ」講演 ⑧兵庫県歯科衛生士会「卒後研修必修プログラムスペシャリストコースⅢ－2」の講師を担当した。 ⑨兵庫県歯科医師会・兵庫県主催の「大学生における歯科保健推進研修会」の講師を担当した。 ⑩大学都市 KOBE！発信プロジェクト Spring X：グランフロント大阪内ナレッジキャピタルにて「大学都市・神戸」として、「お口のはたらきを守るスペシャリスト：歯科衛生士の魅力を知ろう」と題して YouTube Live イベントの講師を担当した。
今後の課題 1. 口腔保健学科が 4 大化への方針が決まり、その準備のため、学科全体で取り組む必要がある。そのため、新しくカリキュラムに加える科目などに対応できるようにするために知識とスキルを獲得することが求められる。 2. 学生の講義方法が大幅に変わってしまい、私自身、多くの戸惑いがある中で ICT 化を進めてきたが、次年度も状況が大きく変わることがないため、より学生の理解度や進捗状況を確認できる工夫が必要である。 3. 歯科健診に関して、神戸常盤大学の学生も実施できるように感染予防など体制を整えて実施するようにする必要がある。 4. 歯科診療所の充実などの検討にあわせて新しい歯科臨床的な研究テーマを学科内で確立していく必要がある。 5. 担当するセンターや委員会などは以前より活発に活動できる体制を整えてきたが、それぞれの委員会で出てきた課題を整理し、各活動を充実させていくことと、各委員会活動を通じて、新しい研究テーマを学科の先生方と検討していく必要がある。 6. テーマ別研究など、自ら課した研究活動をより活性化させる必要がある。

個人年間活動報告書

教員名	高橋由希子	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員・副委員長、入試委員、学生相談室・責任者 口腔保健センター委員				
クラス担任	口腔保健学科1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名（コマ数）	歯科予防処置論B（8）災害援助と救急救命（8） 災害時の歯科衛生士の働き（15） 歯科予防処置演習BⅠ（15）歯科予防処置演習BⅡ（15） 歯科予防処置演習AⅠ（15）歯科予防処置演習AⅡ（15） 臨地実習：地域歯科保健実習Ⅰ・総合歯科実習				
担当科目コマ数	19.63				
本年度の課題					
教育：学生のレベルや学生数に合わせた講義・実習。コロナ禍での基礎実習を行う体制作り。					
本年度の目標					
教育：学生の意欲を向上させ、目的意識を明確にする授業展開を行う 研究：論文投稿、地域研究の遂行 学内の活動：新規の委員会業務を習得し、本学に貢献する					
主な活動内容					
1) 教育活動 コロナ禍での遠隔講義資料（動画・音声・PDFなど）の作成を行い、学生からは繰り返し学習できるため概ね高評価であった。対面が必要な実習の場合は事前に予習動画を指示し、視聴後に直接に技術指導を行った。 災害に関する講義演習ではシナリオベースでグループワークやプレゼンテーションを行うことで、災害を経験していない学生が自助・共助について理解できたようだ。					
2) 研究活動 ①歯科衛生士教育プログラムの国際比較 ②外国にルーツをもつ親子への口腔保健からの支援 学会発表（4回）論文（2編）著書（0冊）詳細は「リサーチマップ」を参照					
3) 社会的活動等 多文化共生に関連する地域住民への支援（継続） 令和2年9月 神戸常盤大学公開講座「一生美味しく食べるためには？」講師 令和3年1月 神戸市介護予防事業 講師					
今後の課題					
臨地実習で資格のない学生が臨床に参加することが困難なため、本学歯科診療所や関連施設で歯科衛生士の仕事の楽しさを伝えながら、教員指導のもと臨床業務を行えるようにする。					

個人年間活動報告書

教員名	上原 弘美	所属学科等	口腔保健学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	S D 委員 (FD 部門担当) ・就職委員会副委員長・臨地実習委員会委員長・神戸常盤大学短期大学部歯科診療所委員				
クラス担任	3 年主担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助論、歯科診療補助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、オーラルリハビリテーション演習、医療安全、臨床検査学、口腔保健特論Ⅱ、診療補助実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	14. 53				
本年度の課題					
1) 学生の学習意欲を高める授業方法の検討 2) 学会や研修会などに積極的に参加し、研究活動を活発に行う 3) 教育と社会的活動とのバランスのとれた活動を心がけ、社会的活動での経験や情報を学生教育へ反映する					
本年度の目標					
1) ・グループワークや発表を取り入れた能動的参加ができる授業をおこなう。 ・事前課題を課すことで学生の授業の理解度を深め、学生が進んで授業に参加するよう工夫する。 ・授業後のレポートを丁寧に添削し、できるかぎり早くに学生に返却する。 2) 研究日を有効に活用できるように、教育に関わる業務を整理する 3) 社会的活動では地域特性や歯科衛生士の職能に関する最新の情報を得て、授業内容へ反映させる					
主な活動内容					
1) 教育活動 授業の事前・事後学習を自主的におこなえるよう、科目ごとのノートを作成させ、全授業終了後に提出させた。学生の取り組み状況には差がみられたが、積極的に学習した学生は授業への前向きな参加態度が見られた。プレテスト・ポストテストを実施して学生個々の理解度を測り、理解が不十分な学生が多い場合、次回の授業内容を見直し、再度解説するように心がけた。 2) 研究活動 研究テーマ：全身疾患と口腔衛生管理 研究の現状：情報・資料の収集中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（2回） 論文（2編） 著書（0冊） 3) 社会的活動等 【役員・委員等】 ・歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会 企画運営委員（公益社団法人日本歯科衛生士会）					

・ 共通ガイドライン改正作業委員会 委員（公益社団法人日本歯科衛生士会） 【講演】 ・ 西播磨総合リハビリテーションセンター 口腔ケア研修会 講師 テーマ「口腔ケアの目的と効果～歯周病が与える全身の影響～」 【シンポジウム】 ・ 第17回日本口腔ケア学会 シンポジウム 座長 テーマ「地域医療における歯科衛生士の役割」 【非常勤講師】 ・ 兵庫県立総合衛生学院看護学科定時制「老年援助論演習」 ・ 兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科「口腔保健管理Ⅶ」 ・ 高大連携授業 兵庫県立明石南高校 ・ 阪神シニアカレッジ 健康学科
今後の課題
・ 学生の学習意欲を高める授業方法の検討 ・ 学会や研修会などに積極的に参加し、研究活動を活発に行う

個人年間活動報告書

教員名	御代出 三津子	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員、学生相談室委員、臨地実習委員、口腔保健研究センター委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	総合歯科実習、地域口腔保健支援実習Ⅰ、学びの基礎、こどもの歯と健康				
担当科目コマ数	24.93				
本年度の課題					
・全国的なコロナ感染の蔓延に対して、遠隔授業などで学生たちが学校に登校する機会が少なくなり、技術を学ぶ実習が少なくなった学生への指導					
本年度の目標					
・本年度から総合歯科実習の内容を大きく変更させたので、学内の歯科診療所に9名5日間の実習を有意義な実習にするために具体的な内容項目を考える					
主な活動内容					
1) 教育活動 コロナ感染予防のために前期の臨地実習を全て中止になった。実際の医療現場に立つことなく、患者とのやり取りもみることができなかったということが社会に出て業務を行うことのイメージが持てないまま3年生は巣立ったように感じた。 後期は2年生の新たな臨地実習なので、前期の授業が遠隔と対面で、やはり手技の部分の練習は不十分であることがよく分かったので、歯科診療所での実習では何度も繰り返し練習することで対応した。 2) 研究活動 研究テーマ：歯科衛生士法の考察 研究の現状：「歯科医師の直接の指導の下に」→「歯科医師の指導の下に」に改定された 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（0回） 論文（0編） 著書（0冊） 3) 社会的活動等 子育て支援施設「KIT」歯の相談室 2020年7/9（木）、8/6（木）、9/10（木）、2021年3/12（金） 子育て支援施設「モトロク」歯の相談室 2020年9/2（火）、2021年1/8（金）、3/5（金） 三木市立特別支援学校 講演 2020.9.11（金） 大阪府介護情報・研修センター 講演 2021年2.22（月）					
今後の課題					
コロナ下での実習はまだ手探りのように感じる。効率よく学習させることをもっと考えていく必要がある。					

個人年間活動報告書

教員名	澤田 美佐緒	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師								
委嘱委員・職務	入試委員、合否判定部会委員、健康管理室委員、臨地実習委員												
クラス担任	2年 Bクラス	クラブ顧問	なし										
担当科目名	歯科診療補助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、オーラルリハビリテーション、オーラルリハビリテーション演習、学びの基礎、口腔保健衛生学実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ												
担当科目コマ数	12.45												
本年度の課題													
教育活動：学生自身が自分の学習状況を把握できるようにする													
研究活動：専門職連携教育の充実をはかる													
本年度の目標													
教育活動：授業資料やレポートを自己評価できるように工夫する													
研究活動：卒業後の専門職連携について、卒業生に質問紙調査を実施する													
主な活動内容													
1) 教育活動 今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、前期は演習授業の講義部分を遠隔で実施することになった。臨床現場を知らない学生にとって歯科治療の過程を理解するのは困難であるが、直接の反応をみることができず十分に説明はできなかったと感じる。臨地実習も全て中止となったため、それを補うために多職種の外部講師を招聘する講義を設定した。後期は、通常の授業ができたため器具を知る授業では、学生が自身の当初の知識の状況を知った上で、理解すべきことを認識できるような授業の組み立てをした。 2) 研究活動 研究テーマ：多職種と連携して口腔健康管理を実践する人材の育成 研究の現状：経年的に看護学科との合同演習による調査、また演習後の学生および卒業生に対しての調査を実施し、今後の課題について検討する。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 ①太成学院歯科衛生専門学校 非常勤講師 「高齢者歯科学」 ②兵庫県委託「フレイル対策強化推進事業」兵庫県栄養士会フレイル予防コーディネーター研修会 講師 令和2年8月 ③第17回日本口腔ケア学会学術大会 特別プログラムー地域医療における歯科衛生士の役割ーシンポジスト 令和2年9月 ④兵庫県西播磨総合リハビリテーションセンター研修会 講師 令和3年3月													
今後の課題													
教育活動：学生の学習に対する意欲を引き出すこと													
研究活動：合同実習後の質問紙調査から多職種連携に対する課題を検討する													

個人年間活動報告書

教員名	破魔 幸枝	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員会委員, 危機管理委員会委員, 国家試験対策委員会委員, 臨地実習委員会委員, 就職委員会委員				
クラス担任	3年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科予防処置論A, 歯科予防処置演習BⅠ（歯周病）, 歯科予防処置演習BⅡ（歯周病）, 歯科予防処置演習AⅠ（う蝕）, 歯科予防処置演習AⅡ（う蝕）, 口腔保健衛生学実習Ⅰ, 口腔保健特論Ⅱ, 学びの基礎				
担当科目コマ数	15.63				
本年度の課題					
・教授について, 学修意欲の継続や定着には学生自身の本質に働きかける必要性があり, レクチャーではなく“仕掛け”が必須なのではないかと考える. ・研究について, 新たな研究テーマについての見直しを行っている. 研究デザインの再構築を進め, 研究計画および研究調査に取り掛かる.					
本年度の目標					
【教育】学生の学修の本質である好奇心を生み出す“仕掛け”を遠隔授業の中で展開して, 遠隔のため一方的な授業にならないよう工夫する. 講義は知識の修得のみならず職業理解にも繋げ, 演習においては国家試験対策に直結の授業とする. 【研究】研究テーマは研究目的の社会貢献度（大学への貢献度）を考え, 研究目的をしばり, 研究計画を実施可能な状態で具体的に計画する.					
主な活動内容					
1) 教育活動					
遠隔授業は教員の支援をもとにレポート課題を検索が必須にした上レポート提出後のコメント活用で自己選択・自己理解を図り, 学修支援をおこなった. 臨地実習は, manabaプロジェクトを活用したカンファレンスなどグループ学修に役立てることができた.					
2) 研究活動					
研究テーマ: ①教育心理学（自己肯定感）②社会系歯学（口唇閉鎖不全）③臨床心理学（親子の愛着）（主観的幸福感）					
研究の現状: ①②③学会発表あり					
本年度の研究業績: 詳細は「リサーチマップ」を参照					
学会発表（4回） 論文（0編） 著書（0冊）					
3) 社会的活動等					
兵庫県歯科衛生士会 広報委員					
今後の課題					
教育においては, 4年制に繋がる教育を考えて組み立てをおこない, 実践をしていく. 研究は採択された研究テーマの研究調査をおこない, 研究デザインをさらに磨いて, 社会貢献（大学への貢献）に発展させるよう努める.					

個人年間活動報告書

教員名	中村 美紀	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員会、地域交流センター、国試対策委員会、就職委員会 臨地実習委員会				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科保健指導論Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅲ、歯科保健指導演習Ⅳ、歯科衛生過程Ⅱ、オーラルリハビリテーション、オーラルリハビリテーション演習、診療補助実習Ⅰ、口腔保健衛生学実習Ⅱ、口腔保健特論Ⅱ、学びの基礎				
担当科目コマ数	13.33				
本年度の課題					
今年度より歯科保健指導の担当となったが、初めての担当科目であり、かつコロナ禍による遠隔授業が主体となったため、学生に合わせた授業展開を実施することが困難に感じられた。研究においても、コロナ禍によりデータ採取が長期にわたり中断されたため、研究を進捗させることが困難であった。					
本年度の目標					
対面授業と遠隔授業を有効に活用することにより、学生に合わせた授業展開を実施し、授業評価における満足度を学科平均値より高くする。 コロナ感染予防対策を徹底し、データ採取に努め、研究を進捗させる。					
主な活動内容					
1) 教育活動 本学以外での活動なし 2) 研究活動 研究テーマ：「小児がん患者に対する口腔衛生管理の有用性」 「お口ぼかんが幼児の成長発達に与える影響」 研究の現状：（上段）論文執筆中 （下段）科研費採択 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（1回） 論文（0編） 著書（0冊） 3) 社会的活動等 特になし					
今後の課題					
コロナ禍により停滞していた授業及び研究を活性化させることが課題として挙げられる。また、本学以外での教育活動や社会活動も、授業及び研究を向上させるため、新たな活動の場を能動的に拓けていくことが必要と感じられる。					

個人年間活動報告書

教員名	伴仲 謙欣	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学術推進課、広報委員、遺伝子組換え安全委員、KTU研究開発推進センター員、ときわ教育推進機構員、研究倫理委員、IR推進プロジェクト委員、ライフサイエンス研究センター委員、国際交流センター委員、遠隔授業支援チーム				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	『現代社会学』、『教育社会学』、『地域との協働A』、『まなぶる▶ときわびとⅠⅡ（キャリア基礎）』、『安全学』、『教育と人間』、『学びの基礎（※コロナ禍により不開講）』				
担当科目コマ数	5.83				
本年度の課題					
教員／職員の兼務という視座から、教学マネジメントや教学IR上の課題である「学修成果の可視化」・「教養教育（基盤教育）の開発」というテーマに取り組む。					
本年度の目標					
〈学修成果の可視化〉 2022年度からの全学的カリキュラムの改革を見据えた学修成果の可視化の方法について、本年度中に素案をとりまとめる。 〈基盤教育方法の開発〉 主担当基盤教育全科目においてonline教育方法の開発・実践を行う。					
主な活動内容					
1) 教育活動 （1部の対面を含めて）多くの授業が遠隔授業になったことから、LMSを活用した授業方法の開発に取り組んだ。他の教員の遠隔授業をサポートする立場でもあったことから、そこで得た知見を自分の授業に取り入れるとともに、さらにサポート業務にもフィードバックを行うことで業務改善を行った。					
2) 研究活動 研究テーマ：【専門職養成大学における初年次教育のあり方】】【高等教育における防災教育】 研究の現状：本学の初年次教育科目の教育データの収集と解析、検証。科研費の申請 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（1回：代表のみ）論文（1編：筆頭のみ）著書（0冊）					
3) 社会的活動等 （株）ラーニングバリュー主催【初年次教育実践セミナー】にて、本学の初年次教育に関する事例紹介を行った（10/1、10/6）。					
今後の課題					
今後は、遠隔授業が定着することが予想されるため、遠隔授業についての知見を深めていく。					

個人年間活動報告書

教員名	氏橋貴子	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	個人情報保護委員会、国家試験対策委員会、 地域交流センターA地域貢献事業部				
クラス担任	1 年生	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助演習ⅠⅡⅢ キャリア基礎 まなぶる▶ときわびとⅠ 学びの基礎 口腔保健特論Ⅱ 診療補助実習Ⅰ 地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	13.00				
本年度の課題					
本年度着任のため課題設定なし					
本年度の目標					
本年度着任のため課題設定なし					
主な活動内容					
1) 教育活動 歯科診療補助演習Ⅰでは演習内容を円滑に修得できるよう、事前課題を提示し、演習後は知識の整理、疑問点へのフィードバックのため、レポート課題を実施した。その結果、学生の理解度、疑問点を把握することができ、その後の演習内容に反映させることが出来た。歯科診療補助演習ⅡⅢでは小グループの学生に対してのレクチャー時、専門用語の理解度にばらつきがあったため、口頭ではなく、文字や図で提示するなど、学生が理解しやすいように工夫した。 2) 研究活動 研究テーマ：地域在住高齢者における咀嚼行動と身体機能の関連性 研究の現状：昨今のコロナ禍の影響と対象者が高齢者であることから、測定会が開催出来なかった。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 KIT歯科相談会（R2.9/10・10/9・R3.1/15） もとろく歯科相談会（R3.3/15） 伊丹市立伊丹高等学校 高大連携授業担当					
今後の課題					
歯科診療補助演習ⅠⅡⅢでは実技指導が主になるが、国家試験を見据え、実技だけではなく、事前課題や事後レポートで知識力も強化できるよう工夫する。また、コロナ渦をマイナスと捉えず、コロナ渦だからこそ、医療人としての感染防止対策の意義を学生が理解し、感染防止対策を徹底することで、安全に演習が行えるよう努める。					

個人年間活動報告書

教員名	小林容子	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学生委員会、国際交流センター、リカレント				
クラス担任	2年生Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	歯科予防処置演習AⅠ・AⅡ(う蝕)、歯科予防処置演習BⅠ・BⅡ(歯周病)、歯科診療補助実習Ⅱ、口腔保健衛生学実習Ⅰ、災害時の歯科衛生士の役割				
担当科目コマ数	19.37				
本年度の課題					
・Webでの遠隔授業に対応し、対面でなくても学生が理解できるように実施する ・それぞれの学生に応じた指導、助言を行う					
本年度の目標					
・遠隔授業に対応できる資料のブラッシュアップ ・昨年の反省点をいかした講義の作成					
主な活動内容					
1) 教育活動 歯科予防処置の演習科目について、特に本年度は遠隔授業の実施のため、昨年度とは違い学生の顔を見ての講義ではないため、manaba上でのレポート提出やコメント欄の記入等を活用し、学生が混乱することなく内容を理解できるように努めた。 2) 研究活動 研究テーマ：①兵庫県の知的障害者入所施設における口腔ケアの実態調査 ②キリバス共和国における妊婦の口腔健康状態 ③健康イベントに参加した小児の口唇閉鎖力と保護者の口腔習癖の認識について 研究の現状：①倫理申請中 ②英語論文投稿申請中 ③第15回日本歯科衛生士会学術大会 発表(誌上開催) 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表(4回) 論文(編) 著書(冊) 3) 社会的活動等 ・常盤健康キャラバン隊 ・高大連携講座(兵庫県立津名高校) ・ときわんモトロク、KITでの歯っぴー歯科相談会 ・知的障害者施設(清心ホーム)での歯科検診事業					
今後の課題					
・遠隔授業に対応した教材作成 ・学生の学修意欲向上に向けた取り組み ・研究活動の継続 ・学位取得にむけての活動 ・地域活動の強化					

個人年間活動報告書

教員名	浅枝 麻夢可	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	図書・紀要委員会委員、入試委員会委員、合否判定部会委員				
クラス担任	2年生Aクラス担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科衛生過程Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅱ、歯科診療補助演習Ⅲ、歯科保健指導演習Ⅳ、口腔保健特論Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	8.77				
本年度の課題					
・学生が主体的に学修し、考える力を育むための授業の検討 ・学位取得に向けての活動 ・研究活動の継続					
本年度の目標					
・研究成果の発表と論文作成 ・勉強会、研修会への参加 ・授業前後の学修やレポート内容の改善					
主な活動内容					
1) 教育活動 本年度は遠隔授業が多かったが、manabaやGoogleドライブ、YouTubeを駆使して、対面授業と遜色無い質を提供できるよう努めた。manabaの機能を利用したグループワークでは活発なディスカッションができたので、今後も活用したい。 2) 研究活動 研究テーマ：①大規模コホート研究における現在歯数と栄養素摂取との関連 ②大学新入生における口腔内状況と口腔保健への意識との関連 ③大学生における歯科健診受診と口腔保健への意識との関連 ④歯間ブラシの使用定着と性格特性および行動の意思との関連 研究の現状：①学会発表予定（2nd World Dysphagia Summit） ②学会発表済（日本歯科衛生学会第15回学術大会） ③学会発表予定（日本歯科衛生学会第16回学術大会） ④学会発表済（日本老年歯科医学会第31回学術大会） 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 5 回） 論文（ 編） 著書（ 冊） 3) 社会的活動等 歯ッピー相談会、神戸常盤女子高等学校入学前オリエンテーション担当					
今後の課題					
・学生が主体的に学修し、考える力を育むための授業の検討 ・外部研究資金の獲得 ・学位取得に向けての活動 ・研究活動の継続					

個人年間活動報告書

教員名	川野 亜希	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	教務委員、自己点検・評価委員、国家試験対策委員				
クラス担任	1 年 A クラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	病原微生物学・免疫学、口腔衛生学、生化学・栄養学、地域口腔保健支援実習Ⅱ、口腔保健特論Ⅰ、キャリア基礎、まなぶる▶ときわびとⅠ				
担当科目コマ数	2. 73				
本年度の課題					
本年度着任のため設定なし					
本年度の目標					
本年度着任のため設定なし					
主な活動内容					
1) 教育活動 オンラインによる遠隔授業の開始に伴い、講義科目においては資料の作成や配信に取り組んだ。次年度も遠隔授業が続くことが予想されるため、自宅学習の充実化を図る工夫が必要である。基盤教育科目においては、他学科の教員と協力して取り組んだ結果、高い授業評価を得ることが出来た。 2) 研究活動 研究テーマ：①歯周病原細菌が誘導する免疫応答における脂肪酸の影響 ②口腔細菌が形成するPersisterのメカニズム解明とその除去法の開発 ③炎症応答におけるフラボノイドの作用機序解明 研究の現状：①②研究成果を学術論文として発表した。 ③令和3年度科研費若手研究採択となったため、新規課題として計画遂行していく予定である。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（筆頭 2 編、共著 2 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 ・地域子育て支援施設 KIT における歯科相談会に携わった。 ・地域の中学校を対象とした市民救命士講習にインストラクターとして携わった。					
今後の課題					
・科研費採択課題の研究遂行に努める。 ・研究成果の発表を積極的に行う。 ・学生の理解力向上に貢献できる授業を展開する。					

6. 看護学科通信制課程 個人年間活動報告書

教員名	金川 治美	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	教授							
委嘱委員・職務	通信教育委員 自己点検評価委員（副委員長） 臨地実習委員 短大認証評価準備委員											
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし									
担当科目名	成人看護学概論、成人援助論、成人看護学演習、成人看護学実習											
担当科目コマ数	授業時間数 210時間											
本年度の課題												
- ループリック評価表の見直しと活用方法の工夫 - 看護師2年生課程（通信制）における教育の在り方で「技術経験と判断力」の経時的変化を教育内容に還元する。（継続）												
本年度の目標												
- 学生が学習到達目標を理解して効果的にループリック評価表を活用できる。 - 入学時と卒業時の学生の「技術経験と判断力」の変化を分析し、入学要件見直しの基礎資料とする。												
主な活動内容												
1) 教育活動 今年度はCOVID19の影響で、対面授業と遠隔授業の併用で開講した。授業評価では、総合評価4.7で昨年度と比較してあがっていた。授業内容と方法及び総合評価の評価が最も高く、4.7だった。学生自身の評価が最も低く4.2だった。授業形態の変更に伴い内容の見直しと方法の工夫に時間を費やしたことが結果的に評価を上げたと考えられる。また、遠隔授業の評価も肯定的な意見が多く、何度も見直しができるという利点があると感じた。しかし、遠隔授業自体は、短期間で作成したため、今後改善の余地があるとする。 「学生自身」については、例年通り評価が低い、スクーリング開講前の動機付けは困難であると思われる。 実習スクーリングではループリック評価表を用いて学生による自己評価も実施したが遠隔スクーリング受講者は教員評価との差が大きい傾向がみられた。 2) 研究活動 研究テーマ： 研究の現状： 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 1. 看護師2年生課程（通信制）における教育の在り方 2. 継続看護システムの構築 研究の現状：看護師2年生課程（通信制）入学時の看護技術の習得実態の調査結果と卒業時の調査結果を比較し、判断力との関係性を分析し日本看護協会のインタビュー調査で報告した。 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 1 冊） 3) 社会的活動等												

准看護師交流会・進学に向けての研修（滋賀県看護協会）講師 准看護師進学支援講習会（静岡県看護協会）講師
今後の課題
- 今年度実施した遠隔授業で明確になった問題点の改善を図り、学生の学習成果を向上させる。 - 修業年限短縮の検討に伴い、看護師 2 年生課程（通信制）における教育の在り方で「技術経験と判断力」の経時的变化を教育内容に還元する。（継続）

教員名	中野 順子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	教授
委嘱委員・職務	通信教育委員、国際交流センター委員、自己点検評価委員 臨地実習委員会（通信）委員長、短大認証評価準備委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護教育指導技術、看護管理、看護マネジメント演習				
担当科目コマ数	授業時間数 210時間				
本年度の課題					
・研究成果をまとめ、論文投稿または雑誌投稿を試みる ・ルーブリック評価について学生の学習意欲を引き出すツールとして使用可能な表現と活用方法を考える。					
本年度の目標					
・すでに冊子に作成済みの研究成果を論文投稿することに挑戦する ・学生の学習意欲を引き出すツールとしてルーブリック評価表を活用し、学生と評価を共有する。					
主な活動内容					
1) 教育活動 ・今年度はコロナ禍において遠隔授業を体験した。授業風景を録画撮りして遠隔授業とした。授業評価では指導案作成の最終提出物を授業形態で比較したが、大差はなかったが、遠隔授業では質問や反応に対応できない点が問題であり、遠隔の場合の授業内容の一部を検討する必要があると考える。 ・ルーブリック評価表で学習終了時の面接で、学生の自己評価と教員の考える評価を付き合わせて評価した。学生の学習意欲に繋げる対話のツールとしても継続していく					
2) 研究活動 研究テーマ： 訪問看護師の看取り期に経験したインシデントと終末期看護の課題 研究の現状：上記を第25回日本在宅ケア学会で共同研究者としてオンライン発表に参加した。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 1 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）					
3) 社会的活動等 ユニセフ、国境なき医師団マンスリーサポート					
今後の課題					

・遠隔授業の内容と方法を学生に理解しやすいように改善する。 ・ループリック評価の有効な活用を更に図る。 ・本年度目標にあげた論文投稿は出来なかった。在宅でのヒヤリ・ハットと終末期看護に焦点をあてた研究成果を日本看護医療学会への投稿にチャレンジする。
--

教員名	丸岡洋子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員会委員、CCN臨地実習委員会副委員長 通信教育委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護学概論、看護過程、看護過程演習、基礎看護学演習、基礎看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数 210時間				
本年度の課題					
① 学生が効果的に学習を進めていくための学習支援を計画的に進める。					
② 担当科目間のつながりを考慮し、学生が理解でき意欲的に学習できるよう、教授方法を工夫する。					
本年度の目標					
1. 臨地実習委員会副委員長としての職責を果たす。					
2. 学生個々の学習状況を踏まえた学習サポートを行う					
3. 学生が自身の成長を実感できる授業方法、教材の検討					
主な活動内容					
1) 教育活動					
目標1：臨地実習委員会副委員長：委員会業務の整理と計画的実施に向けてのプログラム作成により、コロナ禍で大きく変更があったものの計画的に業務運営ができるようになった。感染症検査、健康診断等の書式の検討と手引きを作製した。書式は必要度を検討し一部変更したが、学生に向けた手引きと説明用のパワーポイントを作成することで、リモート対応にもスムーズに移行することができた。委員長との連携を密にし、臨地実習関連業務を円滑に進めることが出来るよう連絡・調整を密にし、問題の早期解決に当たった。					
目標2：教務担当：副担当と業部分担、共同作業により連携を取りながら学生の学習相談、学習進捗状況を踏まえた学習指導、臨地実習の履修や卒業に向けての学習指導、非常勤講師との連絡調整等を行ってきた。方向性や業務の確認、作業等、昨年度に比較し円滑に進めることが出来た。昨年度の課題であった、学生が効果的に学習を進めていくためのチューターの活用については、共通の係わりの年間計画を立案し、学習支援への働きかけを行った。今年度入学生、特に関東や北海道等の遠隔地の学生は、学習説明会やスクーリング等対面する機会を全く持てなかったことから、学習への不安が高まるものと予測し、チューターによる支援を優先的に行うよう進めた。その結果、リモート学習になった学生も例年比変わりなく2年次に進むことができていた。					
目標3：『看護過程』スクーリングにおいては、昨年同様、准看護師の経験から看護の現象がイメージできるという強みを活用し、事例を用い看護実践とリンクさせながら展開した。基礎看護学実習に学びを繋げられるよう、教材をより理解しやすいように、内容を整理した。今年度はCOVID-19の感染拡大によるリモート学習者への対応も必要となったが、ラ					

イブの録画を配信したことにより、内容は対面授業と同様のものを確保することができた。学生の評価は、対面、リモート共に、看護過程への苦手意識の緩和や、対象の個別性を踏まえた援助を考えることの理解の深まり、面白さを実感したという反応を得ることができた。

『基礎看護学実習』スクーリングでは、COVID-19の感染拡大による影響で前年度の履修が今年度にずれ込むことになった。また今年度は臨地で実習をすることができず代替学習になった学生も多く、その対応に苦慮した。市販の教材で臨地でケアを見学している場面のものを活用し、履修した学生と同様の学習内容が展開できるように工夫した。スクーリングでも臨地で実習に参加できた学生との交流を図りながら学習を展開することができていた。対面学習への学生の反応は、看護過程の難しさは残るものの、理解しやすく楽しかった等の評価が得られた。スクーリングがリモート学習となった学生には、電話指導を行い対応することで、学習上の問題を解決しながら進めることに努めた。しかしリモート学習は、紙ベースでの説明も多くなり、理解するまでの時間を要し、またこちらの意図することが伝わらないという問題あり、学習を進めるのにと惑いが多かったという反応が多く見られた。今後もリモート学習という学習方法の選択肢を取り入れなければならないことが予測されるため、今回の問題を解決すべく取り組みが大きな課題として残った。

研究テーマ：通信制課程学生の日常生活援助における科学的根拠と個別性の理解の変化

研究の現状：2年間の学生の学習効果を分析中

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照

学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）

3) 社会的活動等

- ・兵庫県看護協会 教育企画委員
- ・関西広域連合准看護師試験委員
- ・丹波市立看護専門学校 非常勤講師 看護学概論（看護倫理6時間）

今後の課題

- ① 学生が効果的に学習を進めていくための学習支援を計画的に進める。
特に新入生及び、リモート対応の学生への個別学習指導をチューターを通して円滑に進めることができるようサポートする。
- ② 遠隔授業に対応できる学習方法の工夫と教材の工夫

教員名	山 岡 紀 子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会CCN委員長、臨地実習委員会、通信教育委員会				
クラス担任	なし		クラブ顧問	なし	
担当科目名	小児看護学概論、小児援助論、小児看護学演習、小児看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数： 210時間				
本年度の課題					
教育：一人でも多くの学生が実習を履修できるように指導を進める。					
研究：得られた結果を比較・検討し、論文作成に着手する。					
本年度の目標					

教育：コロナ禍中でも学生の学習への影響を最小限にして、予定された教育を実践する。 研究：心身の負担が増大した保護者を支援し、コロナ収束後にデータ収集を再開する。
主な活動内容
1) 教育活動 ①テキスト科目：小児援助論および小児看護学演習のレポート添削指導および事後指導 ②スクーリング科目：小児看護学概論（春期として2会場で2回&WEBにて実施） 小児看護学実習（実習スクーリング3日間×3回&WEBにて実施） ③チューター活動：担当学生の学習進捗確認や学習相談を電話にて実施 ④国家試験対策委員会活動：国試オリ、模試、講座、電話相談等（WEB実施含む） ⇒コロナ禍で対応に追われたが、動画の活用等をしながら①～④について今年度実行可能な取り組みは実施できたため、目標はほぼ達成できたと考える。 2) 研究活動 研究テーマ：極および超低出生体重児の18か月頃の行動と幼児期後期の発達特徴との関連の検討[平成30～32年度科学研究費補助金 基盤研究(C)研究代表者] 研究の現状：データ収集・整理・解釈 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（1回） 論文（0編） 著書（0冊） ⇒課程内の事務に追われた上、コロナ禍の影響で研究フィールドである育児支援教室が中止され、再開後も制限が多くデータ収集等が困難となった。保護者の支援に注力したこともあり研究を中断せざるを得ず、今年度の目標は達成できなかった。 3) 社会的活動等 神戸市総合児童センターこべっこランド「極低出生体重児（1,500g未満）と保護者のための子育て教室 YOYO クラブ」（今年度8回参加）
今後の課題
教育：実習の履修までに至らない学生の指導を強化する。 研究：研究活動を再開し、論文作成に着手する。

教員名	小坂 素子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員会副委員長、個人情報保護委員会 通信教育委員会、臨地実習委員会、国家試験対策委員会				
クラス担任	なし		クラブ顧問	なし	
担当科目名	母性看護学概論、母性援助論、母性看護学演習、母性看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数 210時間				
本年度の課題					
1. イメージしやすい効果的な授業を行うための振り返りを行う必要がある。 2. チューターの役割を効果的に実施ための振り返りを行う必要がある。 2. 研究を行う時間の確保を行う必要がある。					
本年度の目標					

1. 授業計画と授業内容を見直して効果的な授業を実践する。 2. チューターの役割を効果的に実施ため年間計画をたてる。 3. 研究を行う時間の確保のために、業務整理を行う。
主な活動内容
2) 教育活動 ① W e b 授業の概論・実習スクーリングでは、学生はゆっくり考えることが出来 テキスト修了試験や実習記録内容、スクーリング評価は、対面授業と比べても 遜色なかった。 ② 面接授業の概論・実習スクーリングでは、感染対策を行い授業を実施した。臨 地実習できなかった学生も臨地実習した学生と意見交換を行い学びを深めた。
2) 研究活動 研究テーマ：短期大学看護学科2年課程（通信制）における母性看護学臨地実習 グループワークでの学生の気づきと学び ―記録内容から― 研究の現状：学生の気づきと学びを記録から整理を行っている途中である。 本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）
3) 社会的活動等 西宮市助産師会：会員として、規程改訂や地域活動に関わっている。 姫路赤十字看護専門学校：「マタニティサイクルにある人々の看護」 講師
今後の課題
1. W e b 授業で工夫した学生がイメージしやすい内容や表現を対面授業でも実践でき るようにしたい。 2. チューターの役割として、学生の学習進捗状況の把握とともに適切な時期に学生 と連絡調整を行い、円滑に学習が進められる支援を行いたい。 3. 研究が進んでいないので、時間を確保して研究に取り組みたい。

教員名	松原 渉	所属学科等	通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会、危機管理（災害）委員会、看護学科通信制課程 臨地実習委員会、通信教育委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	精神看護学				
担当科目コマ数	授業時間数 210時間				
本年度の課題					
・ 学生がわかりやすいように反応をみながらの授業展開を心がける ・ 研究テーマを挙げて論文にまとめることができる。					
本年度の目標					
・ 教育活動における授業内容を精選するとともに授業方法の工夫をおこなう ・ 熟練した共同研究者のご指導のもとで共著の研究報告を発表する					
主な活動内容					

1) 教育活動
コロナ禍の中、精神看護学概論や精神看護学実習スクーリングがやむを得ず、リモートに変更となることがあったが、動画や配布資料を作成することができ、なんとか特例の補完授業の対応ができた。しかし、対面授業では相変わらず授業資料の字が小さく読みにくいことや早口で聞き取りにくいこと等の授業方法に問題があり、わかりづらいという評価であった。今後も謙虚に学生評価を受け止め研鑽を深めていきたい。
2) 研究活動
研究テーマ：2年課程（通信制）短期大学の看護学生におけるテキスト学習に臨む学習姿勢と入学後の生活変化との関連
研究の現状：神戸常盤大学紀要14号の「報告」に投稿済
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（ 0 回） 論文（ 1編） 著書（ 0冊）
3) 社会的活動等
兵庫県看護協会神戸西部支部教育委員会委員として研修会の企画等に参与する。
今後の課題
・授業の配布資料を改善しわかりやすい授業展開に努める。 ・研究テーマを論文にまとめて投稿することができる。

教員名	西森有理子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	図書紀要委員・通信教育委員・CCN臨地実習委員・CCN教務委員・CCN入試委員				
クラス担任	なし		クラブ顧問	なし	
担当科目名	在宅看護概論、在宅援助論、在宅看護論演習、在宅看護論実習				
担当科目コマ数	授業時間数 210時間				
本年度の課題					
1) わかりやすい授業の工夫に努める。					
2) 学生の状況や学修の節目に応じた学習支援を実施する。					
3) 委嘱された委員会での責務を果たす。					
本年度の目標					
1) 在宅での看護がイメージできるように教材の工夫、発問を工夫する。					
2) 学生支援の一環であるチューターの役割を果たす。					
3) 委嘱された委員会での責務を果たす。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
目標1) リモートでの実習スクーリングでは、1コマの授業時間が長くないようテーマ別に授業構成し、また事例検討が困難なため会場スクーリングでの事例を紹介し、少しでも多くの事例から在宅看護を考えられるよう工夫した。DVDの活用では、見学実習で					

も体験することが少ないHPNを紹介し、国家試験問題とつなげて理解できるよう努めた。 目標2) 学修の節目で学生に連絡を取り支援に努めた。担当した学生は51名、1年生14名そのうち基礎実習に進めた学生は13名。担当した2年生37名のうち卒業できた学生13名、卒業できなかった学生14名、退学・除籍は10名であり2年生への学修支援が課題である。 目標3) 委嘱委員・またCCN内の職務を果たせるよう努めた。コロナ禍での実習依頼（訪問看護ST）はメール・電話での対応であったが、例年並みに実習枠を確保することができた。CCN入試委員としてオープンキャンパスにも関わり、参加者にCCNでの学習方法が伝わるようPCでのレポート提出の実際を紹介するなど疑問に答えるよう努めた。 2) 研究活動 研究テーマ：教材研究－通信制課程学生の在宅死に対する看護の役割認識の変容 研究の現状：2020年度受講した学生のレポートを整理中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 ・ コープおおさか病院 2 年目職員研修講師 ・ ユニセフマンスリーサポート ・ ひとり親支援「ゆったりホーム」開設準備 今後の課題 1) わかりやすい授業の工夫に努める。 2) 学生の状況を把握することに努め、学修の節目に応じた学習支援を実施する。 3) 委嘱された委員会での責務を果たす。
--

教員名	川邊玲子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	SD委員 広報委員 臨地実習委員 通信教育委員				
クラス担任	なし		クラブ顧問	なし	
担当科目名	老年看護学概論 老年援助論 老年看護論演習 老年看護論実習				
担当科目コマ数	授業時間数 210時間				
本年度の課題					
1) 老年看護学に興味を持ち受講できるように、講義の内容の工夫をする。					
2) 委員会では、積極的に発言や提案をし、責務を果たす。					
本年度の目標					
1) 老年看護学に興味を持てるよう、教材の工夫をする。					
2) 委員会での責務を果たし、意見、提案、発言を積極的に行う。					
主な活動内容					
1) 教育活動					
目標1：講義の資料作りでは、遠隔授業と並行して作業を行った。資料は学生が見てわかりやすいようできるだけ簡潔な表現を使いながら、コアな部分は省略しないよう工夫した。資料の表示間違いがあることに気づき、修正は行えたが、講義を行っている途中であったため、ミスのない資料作りのための点検が必要である。遠隔授業では、音声付きパワーポイントの作製を行ったが、テンポや語り口調は学生からの評価としては良か					

ったが、さらに工夫を凝らして、学生が集中できる教材づくりを行うことが必要だと感じた。 目標2：SD委員会活動では、感染対策を講じながらの公開授業の見学をしたが、積極的な参加とはならず、次年度の課題となった。課程内FDでは、遠隔授業の研修によってその実際に役立て、学生への授業を配信することが出来た。広報では、学生の寄稿に関して支援し、協力を得ることができた。 2) 研究活動 研究テーマ：認知症高齢者に対するコミュニケーションのあり方 研究の現状：資料と情報の収集中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊） 3) 社会的活動等 ・大阪ライフサポート協会（NP0） 認定インストラクター ・奈良県救急安心センター メンタルヘルス及び接遇講師
今後の課題
会場講義・リモート講義ともに、解りやすく興味の持てる資料を作成したい。レポート添削では、学生の学習レベルにも配慮した指導を目ざしている。研究が進められるよう、準備を行いたい。